- ㈡施設
  - ①蝦夷地直轄と警備
    - 箱館奉行(東蝦夷)‥(享和二年)。
    - 松前奉行(全蝦夷)‥(文化四年)。
  - ②異國船取扱令‥寛政三年，文政八年，天保十三年。(273參照)
  - ③砲臺の築造(天保の頃)‥品川其他。
  - ④大砲の鑄造と砲術の研究
    - 江川太郎左衞門(韮山の反射爐)。
    - 高島四郎大夫(砲術の教授)。
    - 德川齊昭と鍋島直正。
  - ⑤大船の建造と航海の奬勵。

參考問題 ○幕府に於ける海防論と我が邊境事情。(海兵)
○林子平。(五高、四高、山口高、東高師)
○海國兵談。(四高)
○伊能忠敬。(姬高、東高師、海機、各高、高知高、彦高商)
○高島秋帆(四郎大夫)。(國大)
○近藤重藏。(一高、四高、陸士、海兵、高松高商)
○間宮林藏。(各高、海兵)

277. 幕末に於ける開國論の發達

1. 蘭學の隆盛と開國論の擡頭。
2. 文政八年の外船擊攘令とモリソン號事件(天保八年)。
   - ①米船モリソン號漂流民を護送して浦賀來航。
   - ②無二念擊攘令により砲擊され空しく退去。
3. 蠻社の獄
   - ①蠻社とは當時の西洋文化に興味をもつ人々の集團。
   - ②蠻社同人の擊攘令非難。
   - ①渡邊崋山(愼機論、鄙言小記)高野長英(戊戌夢物語)罪せらる。
4. 天保(十三年)の緩和令‥寛政三年の異國船取扱令に復す。
5. ペリーの來朝と開港論攘夷論の對立。

- ㈠攘夷論
  - 松平慶永(越前)，鍋島直正(佐賀)，德川齊昭(水戸)，
  - 毛利敬親(長門)等大多數。
- ㈡開國論
  - ㋑井伊直弼(彦根)，堀田正睦(佐倉)，勝安芳。
  - ㋺高島秋帆，江川坦庵等及蘭學者。
  - ㋩佐久間象山，吉田松陰の開國意見。

6. ペリーの再來と和親條約‥老中阿部正弘。
7. ハリスの來朝と通商條約‥老中堀田正睦，大老井伊直弼の條約締結。
8. 通商條約の勅許と開國の實現(慶應元、三年)。

參考問題 ○文政の外國船擊攘令。
○蠻社の獄。
○渡邊崋山。(名高商)
○高野長英。(海兵、東商大專)

278. 鎖國政策の由來とその廢棄について

1. 由來 (260參照)
2. 廢棄 (280參照)
   - ㋑ペリー來朝(嘉永六年、安政元年)‥和親條約(米・英・露・蘭)。
   - ㋺通商條約‥米，英，露，佛，蘭，普，白，瑞等(安政五年)。
   - ㋩鎖國政策の廢棄‥條約の勅許と實施(慶應元、三年)。

279. 鎖國及開國の意義

1. 鎖國
   - ㋑意義
     - 我が國人の海外渡航を阻止すること。
     - 外國人が國内に入り或は港に立寄るを禁ずること。
   - ㋺由來 (260參照)
2. 開國
   - ㋑意義‥廣く外國と通商を營むこと。
   - ㋺實施 (280參照)

280. 江戸時代末期に於ける開港の顚末 (神高商)

1. 世界大勢の變化‥西・葡・蘭の衰微と英・佛・露・米の進出。
2. 露の極東經略と露使の來朝‥海防論起る。(269・276參照)

- 3. 英の北進と外船撃攘令‥(266・268参照)
- 4. 和親條約の締結
  - ㋑米の太平洋進出
    - モリソン號の來航(天保八年)。
    - 米使ビツドルの來朝(弘化三年)。
  - ㋺米使ペリーの來朝‥久里濱の應接(嘉永六年)。
  - ㋩幕府の無定見
    - 朝廷奏聞と大名諮詢。
    - 開國論・攘夷論の沸騰。
  - ㋥ペリーの再來‥神奈川條約の締結(下田、箱館開港)(安政元年)。
  - ㋭英・露・蘭との和親條約(267、268、269参照)。
- 5. 通商假條約の締結
  - ㋑米總領事ハリス下田に來り通商條約の締結請求。
  - ㋺老中堀田正睦の條約案議定と井伊直弼の調印(安政五年)。
  - ㋩開港の勅許(慶應元・三年)。

281. 江戸時代に於ける佛教 (海機)

- 1. 鎖國前
  - ㋑家康の保護と監督(寺院諸法度)。
  - ㋺東西本願寺の分立(寺院の權力抑壓)。
  - ㋩名僧‥天海，崇傳等‥政治外交學問の顧問。
- 2. 鎖國後
  - ㋑天主教禁絶の手段として保護‥寺領と生活保障。
  - ㋺全國民の歸依‥宗門帳(宗徒の戸籍管理)。
  - ㋩僧侶の安逸遊惰と各宗の墮落。
  - ㋥名僧
    - 澤庵‥品川に東海寺を開創(家光の頃)。
    - 隱元‥黄檗宗を傳へ萬福寺を開く(家綱の頃)。(明よりの歸化僧)

参考問題 ○隱元。(松本高、海兵)

282. 崇傳と天海

- 1. 崇傳
  - ㋑南禪寺(禪宗)の長老。
  - ㋺家康・秀忠・家光に近侍‥政治外交の顧問。
  - ㋩諸法度の起草。
- 2. 天海
  - ㋑天台宗の大僧正。
  - ㋺家康・秀忠・家光に尊ばる‥政治外交の顧問。
  - ㋩日光東照宮・東叡山寛永寺の創建と川越喜多院の再興。

283. 禪宗三派の傳來

- 1. 臨濟宗—榮西‥後鳥羽朝(建久三年)壽福寺(鎌倉)建仁寺(京都)の建立。
- 2. 曹洞宗—道元‥後堀河朝，永平寺(福井)の創建。
- 3. 黄檗宗—隱元‥德川家綱の時明より歸化‥黄檗山萬福寺の開創。

284. 室町時代より江戸時代に至る佛教と政治との關係 (弘高)

- 1. 室町時代
  - ㋑國策の源流。(178・179参照)
  - ㋺一向一揆と法華一揆。(205参照)
- 2. 江戸時代
  - ㋑外教抑壓上の保護奬勵
    - 僧侶の戸籍掌理。
    - 佛教と民衆との接近。
    - 僧侶の安逸腐敗。
  - ㋺僧侶の政治參與(天海、崇傳、承兌)。
  - ㋩寺院諸法度を設けて監督‥東西本願寺の分立。

参考問題 ○佛教が室町・江戸の兩時代に於て社會上及び政治上重要な地位を占めた狀況。(一高)

○江戸時代の佛教。(海機)

285. 江戸時代に於ける武士教育と庶民教育の施設 (新潟高)

- 1. 武士教育
  - ㋑昌平黌
    - ①綱吉の時林家の私塾を幕府の學校とす(傍に聖堂建立)。
    - ②旗本諸士を教育す‥林家大學頭として管理。
    - ③家齊の擴張(昌平坂學問所ともいふ)。
  - ㋺藩校
    - ①各藩に於て藩校を興し藩士の教育に意を用ふ。
    - ②弘道館(水戸)，明倫堂(尾張)，日新館(會津)
      弘道館(佐賀)，明倫館(萩)，養賢堂(仙臺)
      興讓館(米澤)，時習館(熊本)，造士館(鹿兒島)
- 2. 庶民教育
  - ㋑私塾‥各地の儒者‥稍程度の高きもの。
  - ㋺寺小屋，手習師匠‥讀書，習字，算術等の初歩。

- 3. 特殊のもの
  - ㋑心學道場（吉宗の頃、石田梅巖）。
  - ㋺和學講談所（寛政の頃、塙保己一）。
  - ㋩著書調所（安政年間）‥幕府。

参考問題 ○昌平黌。（四高、學習院、陸士、北大）
○藩校。（水戸高、肥皇）
○湯島聖堂。（北大）
○寺小屋。（各高）

286. 江戸幕府の學問に對する態度と效果（佐賀高）

- 1. 態度
  - ㋑幕府歷代將軍の文治主義と學問の隆昌。
  - ㋺家康の文教奬勵
    - 學校及び文庫の開設。
    - 藤原惺窩・林羅山の任用と圖書刊行（活版）。
  - ㋩綱吉の好學
    - 湯島の聖堂と昇平黌建設。
    - 林鳳岡の重用。
  - ㋥吉宗の實學奬勵
    - 蘭學の研究（青木昆陽）。
    - 初等教育教科書編纂‥六諭衍義（室鳩巣）。
  - ㋭松平定信の教育振興
    - 昇平黌の擴充と寛政の三博士。
    - 寛政異學の禁。
    - 和學講談所と塙保己一。
- 2. 效果
  - ㋑儒學の發達と學者の輩出‥朱子學，陽明學，古學。
  - ㋺儒學の日本化‥（日本主義的學派）山鹿素行・山崎闇齋・德川光圀 尊皇思想の源泉。（幕府滅亡の因）
  - ㋩國史研究の流行。（291參照）
  - ㋥國學の勃興と國史古典の研究。（291、293參照）
  - ㋭教育の普及‥藩學，私塾，寺小屋‥平民の擡頭と社會的勢力の助長。
  - ㋬蘭學の勃興‥自然科學の進步，開港論の淵源。

参考問題 ○德川幕府の文治政策は如何なる結果を齎したるか。

287. 江戸時代に於ける學問隆昌の由來と其の影響

- 1. 由來
  - ㋑歷代將軍の文治主義。（286の1參照）
  - ㋺諸侯の奬勵振興‥儒臣の登用と藩學の設置。
  - ㋩學者の輩出。（297參照）
- 2. 影響（286, 291, 296參照）

288. 江戸時代に於ける主なる學問の種類及びその發達の狀況（四高）

1. 儒學及其發達‥朱子學，陽明學，古學其他。（290參照）
2. 國史の研究。（291參照）
3. 國學及其發達。（293參照）
4. 其他の學問
   - ㋑天文學‥‥保井春海
   - ㋺曆 學‥‥安井算哲
   - ㋩數 學‥‥關 孝 和 ‥‥‥‥‥‥（綱吉の頃）
   - ㋥博物學‥‥稻生若水
   - ㋭農 學‥‥宮崎安貞
   - ㋬報德主義‥二宮尊德‥‥‥‥‥‥‥‥‥（家齊の頃）
   - ㋣蘭學の傳來と理科學の發達
5. 蘭學及其發達‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥（296參照）
6. 學問隆盛の影響。（286、291、296參照）

参考問題 ○關孝和。（大阪高、四高、八高）

289. 奈良平安兩朝と江戸時代に於ける漢學の概要及びその相違點を述べよ

- 1. 概況
  - ㋑奈良‥遣唐使の派遣と漢文學の勃興。（49の1參照）
  - ㋺平安‥遣唐使の廢止と漢文學の衰微。（85參照）
  - ㋩江戸‥家康の文教奬勵と綱吉の奬學。（286參照）
- 2. 相違點
  - ㋑奈良平安‥唐の訓詁學と詩文。
  - 江 戸‥朱子學，陽明學，古學。

- ㊁奈良平安‥貴族的(廷臣の占用)。
- 江 戸‥一般人士間に普及。

290. 江戸時代の儒學

1. 家康及歷代將軍の文教振興と儒學の隆盛‥名儒の輩出。
2. 朱子學
   - ㋑藤原惺窩‥家康に召されて講書，近世朱子學の開祖。
   - ㋺林 羅山‥惺窩の門人，家康に召されて儒官となる。
   - ㋩林 鳳岡‥羅山の孫，綱吉に仕へて大學頭となる。
   - ㋥木下順庵‥綱吉に仕ふ。門人の養成に優る。
   - ㋭新井白石‥順庵の門人，家宣，家繼を輔けて治績多し。
   - ㋬室 鳩巢‥順庵の門人，吉宗の政治顧問となる(六論衍義)。
   - ㋣貝原益軒‥順庵に學び教育，道德，衞生等の平易な著書多し。
   - ㋠林 述齋‥松平定信と共に昌平黌の擴充に努力，大學頭。
   - ㋮寬政の三博士‥柴野栗山，尾藤二州，古賀精里。
3. 陽明學
   - ㋑知行合一を主として實踐躬行を重んず。
   - ㋺中江藤樹‥近江聖人，學德共に高く感化多し。
   - ㋩熊澤蕃山，淵岡山‥共に藤樹の門人。蕃山は池田光政に仕へて治績多し。
   - ㋥大鹽中齋‥大阪の與力，天保の飢饉に貧民を救はんとして擧兵，敗れて自殺。
4. 古學派
   - ㋑朱子學，陽明學の宋明の新說に慊らず孔孟の眞思想に復古提唱。
   - ㋺荻生徂徠(蘐園學派)と伊藤仁齋・同東涯(堀川學派)。
5. 日本主義的學派
   - ㋑山崎闇齋‥始め禪宗を修め，朱子學に轉じ，更に神道に入る(垂加神道)。保科正之に仕へ獻策，功績多し。
   - ㋺山鹿素行‥古學を提唱，日本主義唱道(中朝事實)。幕府より罪を得て赤穗に預けらる，後兵學を講ず。

- ㋩淺見絅齋‥闇齋の門人，尊皇思想の啓發(靖獻遺言)。
- ㋥水戸學派
  - 德川光圀の唱導‥大日本史の編纂と國體闡明。
  - 藤田幽谷，同東湖，栗山潛峯。

參考問題
- ○山崎闇齋。(六高)
- ○中江藤樹。(廣高師)
- ○淺見絅齋。(松本高、名高商)
- ○室鳩巢。(松江高)
- ○藤原惺窩。(東高師)
- ○靖獻遺言。(海兵、陸士)

291. 江戸時代に於ける國史の研究とその影響 (二高、靜高)

1. 國史の研究
   - ①儒學者系統
     - ㋑林羅山，同春齋‥本朝通鑑(神代—後陽成、三百十卷)。
     - ㋺德川光圀‥大日本史(大義名分を明徵)。
     - ㋩新井白石‥古史通，讀史餘論，藩翰譜。
     - ㋥賴 山 陽‥日本外史，日本政記。
     - ㋭蒲生君平‥山陵志。
     - ㋬山鹿素行‥中朝事實，武家事紀。
     - ㋣栗山潛峯‥保建大記。
   - ②國學者系統‥僧契沖，國學の四大人等(203參照)。
2. 影 響
   - ①國體の明徵と幕府政治の國體背馳認識。
   - ②尊皇論の發達と尊皇論者の輩出‥幕府の滅亡。

292. 大日本史 (山口高商、立正大、東京高、廣高師、神高工、東美術)

1. 德川光圀の編纂‥(彰考館)‥明治三十九年完成(十代二百年間)。
2. 全部三百九十七卷(神武—後小松)本紀・列傳・志・表の四部。
3. 大義名分を明かにす(吉野朝を正統とす)。

參考問題 ○本朝通鑑。(京城大)

293. 德川時代の國學勃興の由來と影響（七高、松本高、長高商、遞官）

1. 由來‥儒學の反動‥儒學者の支那崇拜に對する國民的自覺。
2. 勃興
   - ㋑下河邊長流と僧契沖（萬葉代匠記）……（元祿頃）
   - ㋺北村季吟（源氏物語、枕草紙、徒然草の註釋）……（同）
   - ㋩國學の四大人
     - ①荷田春滿‥‥國學興隆に貢獻
     - ②賀茂眞淵（萬葉考、祝詞考、冠辭考等）
     - ③本居宣長（古事記傳）
     - ④平田篤胤（古史成文）
   - ㋥塙保己一‥‥正續群書類從の編纂と和學講談所。
   - ㋭其他の學者‥上田秋成，伴信友，村田春海，加藤千蔭。
3. 影響（291參照）

參考問題 ○德川時代の國學の發達と尊皇論との關係。（陸士）
○江戶時代の尊皇論の由來。（弘前高）
○江戶時代に於ける國史及古典の研究。（神皇）
○江戶時代に於ける古典の研究。（大商大）
○江戶時代の國史の研究。（成蹊高）
○國學の四大人。（海兵）
○荷田春滿。（四高、松江高）
○本居宣長。（學習院、海機、東高師、高岡高商、京城法專其他）
○塙保己一。（神皇、廣女專、高知高、海機）
○群書類從。（海機）
○古事記傳。（大商大、立正大）
○賀茂眞淵。　○契沖。

294. 國史編纂撰集の歷史及びその國家社會に及ぼせる影響

1. 聖德太子の撰修（傳はらず）。
2. 古事記。（48參照）
3. 日本書紀以下六國史‥國體の明徵。（90參照）

4. 神皇正統記‥勤皇心の鼓舞。
5. 本朝通鑑，大日本史
6. 其他（291參照）

　　} 尊皇論の勃興と幕府の滅亡。

295. 德川時代に於ける西洋學術の傳來（四高、海兵、浦和高、姬高）

1. 傳來の由來
   - ㋑鎖國以來長崎は西洋文化傳來の唯一門。
   - ㋺和蘭人の齎せる西洋の新知識は日本人を覺醒。
2. 洋學研究の先覺者
   - ㋑西川如見（華夷通商考）。
   - ㋺安井算哲（天文、曆、數學の研究）。
   - ㋩新井白石（采覽異言、西洋紀聞）
3. 吉宗の奬勵
   - ㋑洋學の禁をゆるめ實學の振興。
   - ㋺青木昆陽をして蘭學を研究せしむ（甘藷先生）。
   - ㋩洋學研究の勃興。

296. 江戶時代に於ける洋學の興隆及び輿論に及ほしたる影響（六高）

1. 傳來（295參照）
2. 研究
   - ㋑醫術
     - ①前野良澤，杉田玄白（解體新書）。
     - ②宇田川玄隨（西說內科選要）。
   - ㋺蘭語
     - ①青木文藏（和蘭文字略考、和蘭語譯）。
     - ②桂川甫周（和蘭字彙）。
     - ③大槻玄澤（蘭學階梯）。
     - ④稻村三伯（法爾末和解）。
   - ㋩理科學
     - ①藥學・化學・天文學（ハルマワク）。
     - ②博物學・物理學‥‥平賀源內（鳩溪）。
     - ③兵學・砲術‥‥高島秋帆・江川坦庵。
     - ④農學（國家經濟）‥‥佐藤信淵。
     - ⑤曆學・測量術‥‥伊能忠敬。
     - ⑥地理學
       - 山村才助（萬國地誌）。
       - 橋本宗吉（新譯地球圖）。
   - ㋥蕃書取調所の設置‥蘭語の教授。

3. 影響
- ㋑自然科學の進歩と幕末の思想界支配。
- ㋺蘭學者は時代の先覺者として對外國策樹立に貢献。
- ㋩海防論‥林子平(三國通覽圖說、海國兵談)。
- ㋥開國論‥渡邊崋山(訣否小記)，高野長英(夢物語)。

參考問題
- ○蘭學の發達。(關上)
- ○洋學の起源及びその發達。(山形高)
- ○江戸鎖國時代に於て蘭學は如何にして漸く盛んになりゆきしや。(八高)
- ○蘭學階梯。(國大)
- ○明治維新以前の西洋文明輸入の概要。(新潟高)
- ○杉田玄白。(七高、東高師、海兵)

297. 江戸時代學者畫家一覽表

時代	儒者	國學者	文學者	その他の學者 ○尊皇家	畫家
家康・秀忠の頃	藤原惺窩 林羅山				本阿彌光悦
家光の頃	中江藤樹				岩佐又兵衛 狩野探幽
家綱の頃	熊澤蕃山 淵岡山 山崎闇齋 山鹿素行			○徳川光圀	土佐光起
綱吉の頃 (元祿時代)	木下順庵 伊藤仁齋 貝原益軒 林鳳岡	契沖 下河邊長流 北村季吟	井原西鶴 松尾芭蕉 近松門左衛門	○淺見絅齋 宮崎安貞 安井算哲 關孝和 保井春海	菱川師宣 尾形光琳 英一蝶
家宣・家繼・吉宗の頃	新井白石 室鳩巣 荻生徂徠 伊藤東涯	荷田春滿		青木文藏	
家重・家治の頃		賀茂眞淵	與謝蕪村	○竹内式部 ○山縣大貳 ○藤井右門	(與謝蕪村) 池野大雅

家齊の頃 (文化、文政時代)	中井竹山 柴野栗山 尾藤二洲 古賀精里 大鹽平八郎	本居宣長 塙保己一	加藤千蔭 上田秋成 村田春海 柄井川柳 小林一茶 山東京傳 式亭三馬 十返舍一九 太田南畝	○高山彦九郎 ○蒲生君平 伊能忠敬 賴山陽 前野良澤 杉田玄白 大槻玄澤 桂川甫周 宇田川玄隨 稻村三伯	喜多川歌麿 松村吳春 圓山應擧 司馬江漢 歌川豐國
家慶以後		平田篤胤	香川景樹 瀧澤馬琴 柳亭種彦 爲永春水	佐藤信淵 江川太郎左衛門 高島四郎太夫	安藤廣重 谷文晁 葛飾北齋

298. 江戸時代の文藝

1. 漢詩文‥賴山陽，齋藤拙堂，梁川星巖，中井竹山。
2. 和歌 (北村季吟，賀茂眞淵，村田春海，加藤千蔭，小澤蘆庵，香川景樹。
3. 通俗文學
   - ㋑俳諧‥松尾芭蕉，榎本其角，服部嵐雪，與謝蕪村，小林一茶，加賀の千代。
   - ㋺狂歌‥太田南畝(蜀山人)，石川雅望。
   - ㋩川柳‥柄井川柳。
   - ㋥戲曲‥近松門左衛門，竹田出雲，紀海音。
   - ㋭小說 (井原西鶴，上田秋成，平賀鳩溪，山東京傳，瀧澤馬琴(南總里見八犬傳、椿說弓張月)，柳亭種彦(田舍源氏)，十返舍一九(道中膝栗毛)，式亭三馬(浮世床、浮世風呂)。
   - ㋬遊藝 (淨瑠璃節‥竹本筑後掾の義太夫節。操芝居(竹田近江)と歌舞伎芝居。(299參照)

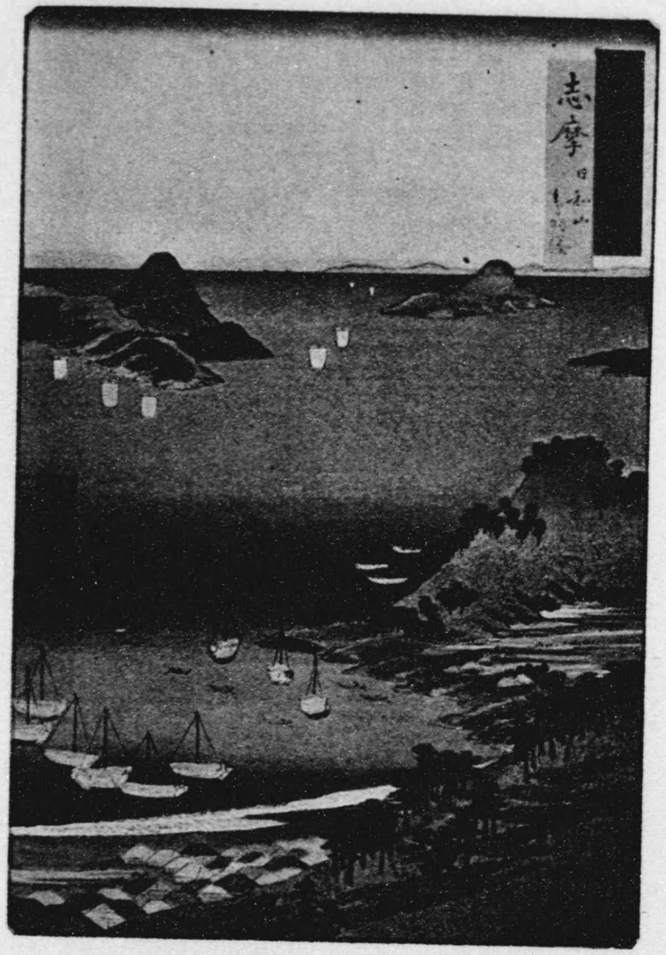
參考問題
- ○近松門左衛門。
- ○松尾芭蕉。
- ○江戸時代の重なる文學者五名を列擧せよ。(廣高師)

299. 江戸時代に於ける平民文化の由來特色を述べ且つそれを文學・繪畫・風俗上から簡單に說明せよ

- 1. 由來
  - 平民階級の擡頭
    - 文化の平民的傾向は室町時代に萌す。
    - 貨幣經濟の發達と產業の勃興。
  - 平民階級の經濟的實權掌握と娛樂の欲求‥文化の平民化。
- 2. 特色
  - 貴族・武家文化の融合と平民の趣味加味。
  - 現實主義的‥通俗的‥一般大衆的。
- 3. 文學
  - 俳諧，狂歌，川柳及び戲曲，小說。(298參照)
  - 人情の機微を穿ち社會の實相描寫。
- 4. 繪畫‥浮世繪(錦繪)‥當時の風俗を如實に描寫。(301參照)
- 5. 風俗
  - 淨瑠璃(江戸節、隨慶節、河東節、一中節、新内節、義太夫節、常盤津、富本、清元)と操芝居の流行。
  - 邦樂の發達‥三味線と小唄・長唄。
  - 歌舞伎芝居の流行‥坂田藤十郎と市川團十郎。

300. 江戸時代の美術工藝 (松本高)

- 1. 建築・彫刻‥桃山時代の流を汲み後には裝飾過度の弊に陷る(左甚五郎)。
- 2. 繪畫
  - ㋑狩野派‥狩野探幽。
  - ㋺大和繪‥土佐光起。
  - ㋩模倣・裝飾畫‥本阿彌光悦，俵屋宗達，尾形光琳。
  - ㋥文人畫‥池大雅，與謝蕪村，渡邊崋山，田能村竹田。
  - ㋭圓山派‥圓山應擧。
  - ㋬四條派‥松村吳春。
  - ㋣西洋畫‥司馬江漢。
  - ㋠和漢洋の折衷‥谷文晁。
  - ㋮浮世繪
    - ①江戸時代美術の特色。
    - ②岩佐又兵衛の創始(家光の頃)。
    - ③菱川師宣版畫(錦繪)を興す(元祿時代)。
    - ④宮川長春，喜多川歌麿，歌川豐國，葛飾北齋，安藤廣重。
- 3. 陶磁器
  - 名工‥柿右衛門(九州)，仁清(京都)。
  - 七寶燒，九谷燒，有田燒，瀨戸燒。



鳥羽港 安藤廣重筆

299. 江戸時代に於ける平民文化の由來特色を述べ且つそれを文學・繪畫・風俗上から簡單に說明せよ

1. 由來
   - 平民階級の擡頭
     - 文化の平民的傾向は室町時代に萌す。
     - 貨幣經濟の發達と產業の勃興。
   - 平民階級の經濟的實權掌握と娛樂の欲求…文化の平民化。
2. 特色
   - 貴族・武家文化の融合と平民の趣味加味。
   - 現實主義的…通俗的…一般大衆的。
3. 文學
   - 俳諧，狂歌，川柳及び戲曲，小說。(298參照)
   - 人情の機微を穿ち社會の實相描寫。
4. 繪畫…浮世繪(錦繪)…當時の風俗を如實に描寫。(301參照)
5. 風俗
   - 淨瑠璃(江戸節、薩摩節、河東節、一中節、新内節、義太夫節、常盤津、宮本、清元)と操芝居の流行。
   - 邦樂の發達…三味線と小唄・長唄。
   - 歌舞伎芝居の流行…坂田藤十郎と市川團十郎。

300. 江戸時代の美術工藝 (松本高)

1. 建築・彫刻…桃山時代の流を汲み後には裝飾過度の弊に陷る(左甚五郎)。
2. 繪畫
   - ㋑狩野派…狩野探幽。
   - ㋺大和繪…土佐光起。
   - ㋩模樣・裝飾畫…本阿彌光悦，俵屋宗達，尾形光琳。
   - ㋥文人畫…池大雅，與謝蕪村，渡邊崋山，田能村竹田。
   - ㋭圓山派…圓山應擧。
   - ㋬四條派…松村吳春。
   - ㋣西洋畫…司馬江漢。
   - ㋠和漢洋の折衷…谷文晁。
   - ㋡浮世繪
     - ①江戸時代美術の特色。
     - ②岩佐又兵衛の創始(家光の頃)。
     - ③菱川師宣版畫(錦繪)を興す(元祿時代)。
     - ④宮川長春，喜多川歌麿，歌川豐國，葛飾北齋，安藤廣重。
3. 陶磁器
   - 名工…柿右衛門(九州)，仁清(京都)。
   - 七寶燒，九谷燒，有田燒，瀨戸燒。

鳥羽港　安藤廣重筆

4. 漆器‥蒔繪‥本阿彌光悦，尾形光琳。
5. 染織‥友禪染(梅丸友禪の新工夫)，透綾(スキヤ)，錦仙。
6. 書道‥御家流の流行と賀茂眞淵，加藤千蔭等の書風。

参考問題 ○司馬江漢。(八高、東美術)
○尾形光琳。(東美術)
○谷文晁。(松本高)

301. 浮　世　繪 (廣高師)

1. 江戸時代の風俗畫‥現實的。
2. 起源‥(寛永の頃)岩佐又兵衞。
3. 大成‥(元祿の頃)菱川師宣‥版畫‥(錦繪)。
4. 全盛‥‥(文化、文政頃) {宮川長春，喜多川歌麿，歌川豐國。 / 葛飾北齋，安藤廣重等。}
5. 江戸平民文化の粹‥世界繪畫史上の異彩。

参考問題 ○岩佐又兵衞。(海經、慶大)

302. 江戸時代文化の特色

1. 文教の奬勵と國民的文化の發達。
2. 平民の社會的擡頭と平民文化の發達。
3. 元祿時代
   - ㋑文化中心‥京阪。
   - ㋺儒教極盛‥朱子學，陽明學，古學，日本主義的學派。
   - ㋩天下太平と上下の奢侈贅澤‥風俗弛緩。
   - ㋥平民文學の勃興‥戯曲，俳句，小說。
   - ㋭美術工藝の進歩‥浮世繪の勃興。
4. 文化・文政時代
   - ㋑文化中心‥江戸。
   - ㋺天下太平と江戸文化の爛熟期‥風俗頽廢。
   - ㋩平民文學最高潮‥狂歌，小說，川柳。
   - ㋥國學の隆盛‥尊皇思想の普及。
   - ㋭美術工藝の民衆化‥浮世繪の流行。
   - ㋬西洋學術の輸入と影響‥科學的方面の向上。

303. 江戸時代の時勢と文化の特色

- 1. 時勢と文化
  - ㋑鎖國政策と文治主義・教育・生活の向上。
  - ㋺二百數十年の太平と文化の發達。
  - ㋩平民の擡頭
    - 經濟生活の向上・・産業の隆興と交通の發達。
    - 平民の經濟的實權掌握。
- 2. 文化の特色。(302參照)

參考問題 ○江戸時代に於ける平民の擡頭が文化上に及ぼしたる影響。(專檢)

○江戸時代の平民文化發達の由來。

304. 各時代を代表すべき文學者五名をあげその代表し得る理由 (三高)

1. 奈良時代―大伴家持・固有文學の和歌に長じ萬葉集を撰す。
2. 平安時代―紫式部・國文の模範源氏物語を著す。
3. 鎌倉時代―藤原定家・歌人、新古今和歌集を撰す。
4. 室町時代―一條兼良・・學問衰微の頃唯一の學者、公事根源等を著す。
5. 江戸時代―近松門左衞門・・平民文學の勃興と淨瑠璃(戲曲)の大成。

305. 近世初期に於ける都市の發達

- 1. 發達の由來
  - ㋑群雄の割據と平地築城(城下町)。
  - ㋺交通通信の發達。
  - ㋩外國貿易及內地商業の隆盛。
  - ㋥生產の發達・・農產の增加と工業の勃興。
  - ㋭人口の集中と物資の必要。
- 2. 都市
  - ㋑三都・・京都、江戸、大阪の繁華。
  - ㋺城下町・・政治經濟、文化の地方的中心。(金澤、仙臺、鹿兒島、名古屋、熊本、廣島等。)

- 2. 發達
  - ㋑交通市(街道筋の宿驛、港町等。(東海道五十三次等)。)
  - ㋥商工業市(工業生產、商業取引の中心。(兵庫、堺、長崎、新潟等)。)
  - ㋭宗教市(神社佛閣の門前町。(山田、奈良、日光、善光寺等)。)

306. 江戸時代に於ける貨幣の鑄造と其の影響

- 1. 貨幣の鑄造・・貨幣制度の確立(慶長年間)・・金・銀・錢貨。
- 2. 影響
  - ㋑貨幣經濟の勃興・・經濟の標準は土地より貨幣に移る。
  - ㋺信用經濟の進步・・紙幣(藩札)及爲替、手形の使用。
  - ㋩商工業の發達・・資本豐富・・商工業の基礎(生產の重大要素)。
  - ㋥町人の擡頭・・資本の運用は町人の經濟生活を豐かにす。

307. 德川時代に於ける產業の發達を助成したる諸種の原因 (東京高)

- 1. 鎖國と太平
  - ㋑鎖國政策は自給自足の國產奬勵となる。
  - ㋺天下太平は產業發達の好機會。
- 2. 都市の發達
  - ㋑平地築城と城下町の發達。
  - ㋺外國貿易の隆盛と海岸都市の發達。
  - ㋩商工業の進步と商工都市の發達。
  - ㋥人口の集中と物資の必要。
- 3. 交通の發達
  - ㋑參勤交代制度の斷行と宿驛道路の整備。
  - ㋺通信機關の進步と產業の發達促進。
- 4. 將軍諸侯の奬勵
  - ㋑幕府の大名統御策と大名の財力費消。
  - ㋺商工業の勃興・・町人の擡頭と武士・農民の衰微。
  - ㋩幕府・諸侯の財政窮乏と產業奬勵。
    - 德川吉宗、德川光圀、池田光政、德川治貞。
    - 保科正之、上杉治憲、細川重賢、松平定信。
- 5. 資本の發達
  - ㋑貨幣經濟の進步・・鑛山業の勃興と外國貿易の刺戟。
  - ㋺資本は產業發達の動力。

308. 江戸時代商業發達の概要

- 1. 原因
  - 交通の發達と貨幣經濟の進歩。
  - 貿易の制限と國產の發達。
- 2. 發達
  - 問屋と問屋組合(仲間)の公許。
  - 市場の繁昌。
  - 金融機關の發達
    - 兩替屋の利用と手形の流通。
    - 掛屋‥(大名の在庫米を擔保とする金融業)。
    - 札差‥(旗本の扶持米を擔保とす金融業)。

309. 江戸時代の交通及び産業の發達 (松江高)

- 1. 交通の發達
  - ㋑由來
    - ①信長・秀吉の交通改善。
    - ②商業の勃興と都市の發達。
    - ③參覲交代制度の影響。
  - ㋺陸上交通
    - ①道路宿驛の整備と驛馬・傳馬。
    - ②五街道
      - 東海道，中山道，
      - 日光・奥州・甲州街道。
    - ③脇街道(北國、中國、長崎、伊勢、水戸)。
    - ④關所の設置と諸川の徒渉。
    - ⑤飛脚
      - 繼飛脚と東海道三度飛脚。
      - 江戸・大阪と全國各都市間。
  - ㋩水運
    - ①江戸，大阪間(元和頃)。
    - ②奥州航路(江戸—荒濱の東廻)(寛文の頃 河村瑞軒)
    - ③出羽航路(江戸—酒田の西廻)(寛文の頃 河村瑞軒)
    - ④大堰(保津)・天龍・富士諸川開鑿(慶長の頃角倉了以)。
- 2. 産業の發達 (交通發達の影響)
  - ㋑國民經濟の成立‥交通・通信の發達と商業の進歩。
  - ㋺農業の保護‥重農主義‥新田開發と農法改善。
  - ㋩工業の發達
    - 仲間制度(同業組合)の發達。
    - 純良な生産品と職人氣質。
  - ㋥將軍(吉宗)各藩主の産業奬勵。

- ㋥地方的特産品
  - 京都の織物・染物。阿波の藍。
  - 上野・下野の織物。
  - 相模・薩摩の煙草。
  - 土佐の鰹節。紀州の蜜柑。

参考問題 ○飛脚。

310. 角 倉 了 以 (海兵、海機、神高工)

1. 京都の貿易商，秀吉及家康の朱印狀を受けて安南地方に活躍。
2. 家康の命を受けて保津川，天龍川，富士川開鑿。

311. 明治初年以前の我が國の印刷術

1. 奈良時代‥孝謙朝經文の印刷‥木版印刷の始。
2. 鎌倉時代‥數種の佛書印刷
3. 吉野朝時代‥論語の印刷(堺に於て) } 木版印刷。
4. 室町時代
   - 刊行物漸く多し
   - 宣教師の活字印刷機(洋式)傳來。
5. 桃山時代‥豐太閤の朝鮮征伐後活字印刷機(支那式)の傳來。
6. 江戸時代
   - 家康の古書刊行‥活字使用(その後行はれず)。
   - 諸書の刊行盛んなるも多く木版使用。
7. 明治初年
   - 西洋印刷術の研究(本木昌造)‥鉛製活字の提供。
   - 活字印刷の進歩‥新聞，雜誌，書籍の刊行。

312. 江戸時代尊皇論勃興の次第とその影響

- 1. 原 因
  - ㋑國史の研究と大義名分論の發達。
  - ㋺漢學の隆盛‥王道覇道の辨(尊皇抑覇)。
  - ㋩國學の發達‥國史古典の研究と國體の明徵。
- 2. 尊皇論者の輩出
  - ㋑儒學上よりの大義名分論者。(290の5參照)
  - ㋺國學上よりの大義名分論者。(293の2參照)

3. 尊皇論者の活躍
   - ㋑竹內式部（寶曆事件）。
   - ㋺山縣大貳と藤井右門（明和事件）。
   - ㋩高山彦九郎と蒲生君平（寬政の三奇人）。
4. 影 響
   - ㋑幕府の抑壓と國民の反感。
   - ㋺尊皇論の普及と幕府倒壞の原因。
   - ㋩皇政復古の成就。

313. 德 川 光 圀（八高、東美術）

1. 家康の孫，水戶藩主。
2. 功業
   - ①質素儉約の奬勵，風俗の匡正，交通の改善。
   - ②大日本史の編纂と湊川建碑（大義名分を正し國體を明にす）。
   - ③朱舜水に師事し，契沖に請うて萬葉代匠記を作らしむ。
3. 尊皇論發達の一原動力となる。

314. 織豐時代より德川時代に至る勤皇思想の發達

1. 織田信長及豐臣秀吉の勤皇。（203參照）
2. 德川時代
   - ㋑尊皇論の由來
     - ①家康の尊皇と文教の奬勵。
     - ②漢學者の自覺
       - 尊王賤覇の思想（儒學の日本化）。
       - 山鹿素行，淺見絅齋等の唱導。（290參照）
     - ③國史研究の流行。
     - ④國學の勃興（儒學隆盛の反動）。
     - ⑤神道の唱導
       - 山崎闇齋（垂加神道）
       - 平田篤胤（復古神道）。
   - ㋺尊皇運動の進展
     - ①寶曆事件（竹內式部罰せらる）。
     - ②明和事件（山縣大貳、藤井右門等刑死）。
     - ③幕府の尊皇運動壓迫と國民の反感。
     - ④高山彦九郎，蒲生君平（山陵志）の唱導。
     - ⑤尊皇論と攘夷・討幕論との結合。
     - ⑥志士の輩出‥幕府滅亡の原動力。

參考問題 ○德川時代の尊皇論發展の大綱。（東高、名高、海兵）
○尊王論發達の經路とその影響。（海經、關岡高）

315. 竹 內 式 部（廣高師、成蹊高、海機、四高）

1. 越後の人，勤皇家，京都に出で德大寺家に仕ふ。
2. 山崎闇齋の神道（垂加流）を學び朝臣間に尊皇論鼓吹。
3. 幕府（將軍家重）に忌まれて京都追放（寶曆事件）‥‥（桃園朝）
4. 山縣大貳の明和事件に連坐して八丈島に流され途中病死。

316. 我が建國以來德川末期に至る外來思想について

1. 儒教‥應神朝傳來‥仁義道德をとき我が國民道德の內容を豐富にす。
2. 佛教‥欽明朝傳來
   - 文化美術の發達を促し祖先崇拜の美風と調和。
   - 因果應報，輪廻轉生（厭世）思想流入。
3. 基督教‥後奈良朝傳來
   - 古風との衝突‥禁止。
   - 西洋文明の傳來。
4. 何れも文化の發達・思想の向上に貢獻。

317. 鎌倉江戶兩時代の士風を比較せよ（諸士）

	鎌 倉 時 代	德 川 時 代
1	質實剛建，勤儉尙武	質實（但初期），文教奬勵
2	武士道奬勵（元寇以後衰ふ）	元祿以後士風軟弱となる
3	武士中心勢力の草創期	武士中心勢力の爛熟期
4	地方土着と散在生活（生產者）	都 市 居 住（消 費 者）

318. 德 川 齊 昭（六高、諸士、松江）

1. 水戶藩主。（十三、十四代將軍頃の人）
2. 弘道館の設置‥文武の奬勵‥藤田東湖の重用。

- 3. 海防留意と大砲の鑄造。
- 4. 攘夷論者の中心として井伊直弼の違勅問題攻撃。
- 5. 安政大獄の際蟄居を命ぜられ萬延元年薨去。

319. 佐久間象山 (海機、神高工)

- 1. 信州松代の藩士。
- 2. 砲術・蘭學を修め，兵學・砲術教授。
- 3. 門人吉田松陰渡米を企て罪を得るや連坐して幽閉。
- 4. 公武合體と開國を唱へ攘夷論者に殺さる (元治元年)。

320. 吉田松陰 (海機、山口高)

- 1. 長州萩の藩士，江戸に出て佐久間象山に學ぶ。
- 2. 安政元年下田に米艦に投じて渡米を企て罪せらる。
- 3. 松下村塾を開いて子弟養成‥逸材輩出 (高杉晉作，伊藤博文、山縣有朋等)
- 4. 井伊直弼の違勅專斷を責め罪を得て殺さる (安政の大獄)。

321. 國號・國旗・國歌の起源

1. 國號
   - ㋑上古
     - 大八洲國，葦原中國，豐葦原瑞穗國，秋津洲。
     - ヤマト‥所謂大和朝廷の皇威振張後。
     - 漢字傳來後「大倭」後に「大和」と書く。
   - ㋺中古
     - 大化改新後
       - 國內の詔書には大八洲天皇。
       - 外國に對しては日本天皇。
     - 日本書紀編纂後‥日本 (ヤマト又はヒノモトと讀む)
   - ㋩いつしかニツポンと稱する樣になる。
2. 國旗
   - ㋑日章は古くからの旗章。
   - ㋺已に中世に皇軍旗に日月旗使用。
   - ㋩天正・永祿の頃海外渡航の船舶日章旗使用。
   - ㋥江戸時代の初期朱の丸を船章に使用。
   - ㋭幕末 (安政元年七月) 島津齊彬の建議により日の丸を船章とす。

   - ㋭明治三年國旗に制定 (太政官布告)。
3. 國歌
   - 明治十三年海軍省にて撰定。
   - 明治二十六年より文部省が小學校に歌はしむ。

322. 難 波

- 1. 神武朝‥‥‥御東征の際の皇軍上陸地。
- 2. 爾來平安の初期まで交通の要衝。
- 3. 仁德朝‥‥帝都 (聖武朝には離宮)。
- 4. 聖德太子四天王寺を建立。
- 5. 後土御門朝 ‥‥一向宗の道場を置く (蓮如上人)
  ‥‥この頃より大阪の名著る。
- 6. 正親町朝‥‥豐臣秀吉の築城 (天正十一年)。
- 7. 江戸時代 ‥‥城代・町奉行をおき關西の重鎭。

→ 大阪。

第五節 現 代

323. 建武の中興と明治維新に就き各々之を致せる事由を略記し竝に共通せる精神につきて述べよ (大阪高)

1. 建武中興の事由
   - ①北條氏の失政
     - ㋑越權の振舞
       - 三上皇の遷幸。
       - 皇位繼承の干渉。
     - ㋺財政困難と奢侈‥德政令の濫發。
   - ②皇政復古運動
     - ㋑承久の亂，正中の變，元弘の亂。
     - ㋺後醍醐天皇の御英邁と皇道主義の勃興。
2. 明治維新の事由
   - ①德川幕府の衰微
     - ㋑武士階級の奢侈と財政困難。
     - ㋺經濟組織の變化と町人の勃興。
     - ㋩外交問題の紛糾。
   - ②尊皇論の發達と討幕運動
     - ㋑幕府の文治主義と學問の隆盛。
     - ㋺儒學の日本化と國史古典の研究。

- ㈥國民の自覺と尊皇論の勃興。
- ㈢尊皇論，攘夷論，討幕論の結合。

3. 共通せる精神‥建國の精神に基く天皇親政，中央集權を理想とす。

参考問題 ○明治維新の大業の精神を五箇條の御誓文によりて說明せよ。(專檢)

324. 皇政復古の際征夷大將軍と併せて攝政關白をも廢せられし理由 (東京高)

1. 征夷大將軍の廢止‥武家政治の廢絕により天皇親政の古に復す。
2. 攝政關白の廢止
   - ①一君萬民を理想とする建國の精神に復す。
   - ②但攝政は天皇御不豫又は御幼少の時に限り置かる。
3. 要するに武家政治・攝關政治の如き變態政治を廢し國體の本義に復する精神に基く。

参考問題 ○皇政復古の意義を問ふ。

325. 五箇條の御誓文につきて記せ (水高、神高工、遞官)

1. 五箇條の御誓文
   - 明治元年(慶應四年)三月，明治天皇紫宸殿に臨御，次の五事を誓約し國是を定め給ふ。
   - ①廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ。
   - ②上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ。
   - ③官武一途庶民ニ至ルマテ各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメンコトヲ要ス。
   - ④舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ。
   - ⑤智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ。
2. 御誓文の趣旨
   - ①建國の精神及大化改新の理想に則る明治新政の根本方針。
   - ②內治外交の方針決定と立憲政治の確立。
     - ㈠輿論の尊重と擧國一致の强調。
     - ㈡階級打破と人才登用。
     - ㈢陋習打破と開國進取，採長補短。

参考問題 ○五箇條御誓文の御主旨。(廣高師、山形高)

326. 一世一元の制 (大商大)

1. 古は祥瑞又變每に改元(支那にては明の時代以後一世一元となる)。
2. 明治改元の際，天皇御一代に年號一つと制定(一世一元の制)。

327. 明治維新の精神について述べよ

1. 復古的精神
   - ㈠敬神崇祖の信念と建國創業の大精神宣揚。
   - ㈡皇室中心の國體の復活育成。
2. 創造的精神
   - ㈠新たなる生活樣式の建設。
   - ㈡政治方面
     - 皇室中心の立憲政體の確立。
     - 國際的地位の向上。
   - ㈢經濟方面‥資本經濟組織の完成。
   - ㈣思想方面‥皇室中心思想の尊重と幕府推戴思想の打破。

328. 天智天皇(中大兄皇子時代を含む)と明治天皇の御事蹟比較 (八高)

	天智天皇	明治天皇
1.	政權を朝廷に復し中央集權の確立(蘇我氏より)	同 (德川氏より)
2.	近江奠都	東京奠都
3.	隋・唐制の採用	西洋(英、獨、佛)の制採用
4.	近江令の制定	帝國憲法・皇室典範の制定
5.	西國防備(水城、長門城等)	全國兵備(陸海軍)
6.	朝鮮への出兵(不利)	日淸・日露の役(大勝)
7.	唐と交通(遣唐使)	世界各國との交際(大、公使)
8.	學校を興す	學制頒布(大、中、小學)
9.	中興の英帝(御治世二十七年御在位は十一年)	不世出の聖帝(御治世四十五年)

329. 大化の改新と明治維新とに於ける土地の處分を比較せよ (東京高、二高)

1. 大化
   - ①土地人民の收公‥食封・布帛を賜ふ。
   - ②班田收授の法を行ふ(口分田)‥(租を收めしむ)。
2. 明治
   - ①幕領幕臣の土地人民沒收‥地主に與へ收公せず。
   - ②版籍奉還‥朝廷直轄。

330. 大化新政と明治新政とを比較せよ (靜高、佐賀高、二高、陸士)

	大化新政	明治新政
①新政前の狀況	氏族制度の弊害，土地人民の私有。 蘇我氏の專權と滅亡。	武家政治の國體背馳，封建制度。 尊皇論の勃興と德川幕府の滅亡。
②外國文化の影響	遣隋使の派遣と大陸文化の輸入。 唐の制度文物模倣參酌。	西洋文化の刺戟‥蘭學の影響。 英・獨・佛の制度文物參酌。
③新政の精神	建國の精神に基く天皇親政。 人才登用。	同 同
④新政の要點	土地人民の收公(中央集權)。 班田收授の法(口分田)。 內臣，左右大臣，八省。 國，郡，里(國司、郡司)。 稅(租、庸、調)は物品勞力。 驛馬，傳馬の制。	幕領幕臣の土地人民沒收(地主の私有)。 版籍奉還と廢藩置縣(中央集權)。 總裁，議定，參與，六省。 道，府，縣，郡(知事、長)。 稅は貨幣にて納付。 郵便，鐵道，海運。
⑤新政の結果	社會の實情に合はず，缺點多し。 莊園の增加・武家の勃興誘致，改革の不徹底	社會の實情の適合。 新政の徹底。

參考問題 ○大化新政と明治維新との相似點。(山口高商)

331. 版籍奉還及び廢藩置縣について (福岡高、京城法專)

1. 版籍奉還
   - ①地方政治統一の必要
     - 幕府・幕臣の土地人民沒收(府縣の設置)と諸藩の併立。
     - 諸侯の土地人民私有と政府の財政の基礎不定。
     - 全國劃一政治の不能(中央集權の實擧らず)。
   - ②版籍奉還の運動
     - 姬路酒井忠邦の上書建白(明治元年)。
     - 木戶孝允，大久保利通の奔走。
     - 四藩主(薩、長、土、肥)の奏請(明治二年)。
   - ③版籍奉還の勅許
     - 封建的藩の全廢‥土地人民は朝廷の直轄。(明治二年六月)
     - 知藩事の任命‥皇政復古の實擧る。
2. 廢藩置縣
   - ①廢藩の必要
     - 府・縣・藩三行政區の分立。
     - 知藩事と人民との舊主從の情去らず。
     - 藩の位置・區域の大小等頗る錯雜。
     - 中央集權の實績猶擧らず。
   - ②廢藩置縣の運動‥大久保利通・木戶孝允等の奔走。
   - ③廢藩置縣の實現
     - 詔勅の降下と知藩事の罷職(明治四年)。
     - 二百六十三藩の廢止と三府七十二縣の設置。
     - 全國統一の郡縣制度整備。

參考問題
- ○版籍奉還について述べよ。(各高、陸士、鹽南高工、北大豫、其他)
- ○廢藩置縣について述べよ。(都岡高、山口高、北大豫、東高師、東女高師、廣高、各高、神高商、小樽高商、東美術)
- ○木戶孝允。(東美術)
- ○廢藩置縣の由來とその効果。(東商船)
- ○知藩事(陸士)

332. 德川氏の大政奉還後廢藩置縣に至るまでの經過（山形高）

1. 皇政復古
   - ①皇政復古の大號令渙發（慶應三年十二月）‥萬機親裁。
   - ②攝政・關白・征夷大將軍の官職褒止‥總裁・議定・參與の設置。
2. 戊辰の役
   - ①新政に對する舊幕府の反動勢力の鎭壓。
   - ②鳥羽伏見の戰
     - 德川慶喜の恭順と舊幕臣及會津・桑名藩士の不平。
     - 慶喜の入京‥薩（討薩表）・長藩士と衝突し江戸に逃れ歸る。
   - ③江戸開城
     - 官軍の東征‥慶喜の恭順。
     - 西鄕隆盛と勝海舟の會見‥江戸開城。
   - ④上野戰爭‥彰義隊の反抗。
   - ⑤奧羽戰爭
     - 松平容保奧羽諸藩と結んで反抗。
     - 若松城落城‥白虎隊。
   - ⑥函館戰爭
     - 榎本武揚函館五稜郭に據り反抗。
     - 武揚等降り海內全く平定（明治二年五月）。
3. 五箇條の御誓文の宣布。（325參照）
4. 卽位と奠都及改元と一世一元の制。
5. 版籍奉還と廢藩置縣（331參照）‥中央集權政治の確立。

參考問題 ○明治新政の基礎の確立せし經過について述べよ。

333. 外國文化の傳來に際し其の各時代に於ける我國情と國民の態度（東京高）

1. 國民性‥模倣性と同化力。
2. 漢學工藝‥（應神朝）‥未開新興の時代にして新文化輸入に恰好の時期。
3. 佛教‥（欽明朝）
   - 蘇我物部對立時代（政爭の惹起）
   - 物部氏の滅亡と佛教の普及

   } 模倣から融合へ。
4. 遣唐使の派遣と支那文化の輸入……
5. 遣唐使廢止後……融合から同化へ。
6. 西洋文物
   - （後奈良朝）鐵砲と自然科學の傳來‥戰國‥利用。
   - （明治時代）開國進取‥採長補短主義。

334. 明治初年に於ける歐米文物の採用とその影響

1. 採用模倣
   - ㋑制度上
     - 教育制度（學制頒布）……（明治五年）
     - 司法制度（改定律例の編纂）……（明治六年）
   - ㋺風俗習慣上
     - 太陽曆の採用（明治六年元旦）と祝祭日の制定。
     - 階級制度の撤廢‥四民平等。
     - 風俗の一新‥散髮，廢刀，禮裝（洋服）。
     - 新聞の發行‥萬國新聞紙，中外，江湖，東京日日，郵便報知新聞等。
   - ㋩物質上
     - 交通通信機關‥汽車，汽船，自轉車，郵便，電信等。
     - 其他洋風建築，ランプ，瓦斯燈，寫眞等。
2. 影響
   - ㋑西洋心醉の弊害
     - 舊物打破の惡風‥古美術・舊跡の毀損。
     - 國民道德・固有の風俗習慣の排斥。
   - ㋺反動思想の擡頭
     - 國粹保存論の勃興。
     - 地方の騷亂惹起‥神風連の亂等。

參考問題 ○明治初年に於ける歐米文物の採用。（三高）
○明治初期までの外來思想輸入の歷史及びその國家國民に及ぼしたる影響を論述せよ。（海機）

335. 明治初年に於ける諸般の改革

1. 外交‥外交の方針の確立と使節の派遣。（358參照）
2. 內治
   - ㋑交通・通信機關の輸入
   - ㋺社會組織‥風俗習慣の一新
   - ㋩教育，司法，徵兵の諸制度の改革

   （前問334參照）

336. 明治初年に於ける地方の騷亂

1. 原因
   - ①維新以來政治上・社會上の急變革
     - ㋑保守主義者の不平。
     - ㋺新政の誤解と人心の動搖。
   - ②不平政治家の政府反對‥政府の對鮮政策への不滿等。

2. 諸亂
- ①佐賀の亂
  - 江藤新平(憂國黨、征韓黨)叛す(明治七年)。
  - 大久保利通の鎭撫。
- ②熊本の亂
  - 神風連(熊本藩士)叛す(明治九年)。
  - 鎭臺兵により鎭定。
- ③秋月の亂‥筑前秋月の藩士神風連に應じて叛す。直ちに鎭定。
- ④萩の亂‥前原一誠神風連に應じて叛す。直ちに鎭定。
- ⑤西南の役
  - ㋑由來
    - 西鄕隆盛の辭職歸鄕(桐野利秋、篠原國幹も共にす)。
    - 私學校の經營と生徒の不穩。
    - 政府の鹿兒島海軍機械所，陸軍製彈廠移轉計畫。
    - 隆盛私學校生徒に擁せられ擧兵(明治十年二月)。
  - ㋺戰況
    - 賊軍の熊本城攻圍‥谷干城の防戰。
    - 官軍の南下‥征討大總督有栖川宮熾仁親王。
    - 賊軍の連敗
      - 田原坂の戰。
      - 城山陷落‥隆盛以下自殺。
  - ㋩結　果‥政府の失費甚大と有爲青年の戰死。

3. 影響
- ①徵兵制度の意義確認と政權の確立。
- ②博愛社の組織(日本赤十字社の起源)
  - 西南の役中傷病兵の救護。
  - 佐野常民・大給恒等の盡力。

參考問題 ○大政奉還より明治十年までの事變と，その簡單なる說明。(海兵)

○日本赤十字社の起原。(京城大)

○西南の役の原因。(廣女專)

○西南の役。(陸士)

○博愛社。

○西南の役の原因とその結果(海兵)

337. 北海道の開拓

1. 德川時代に於ける施設(276の2參照)
2. 開拓使の設置と改稱‥蝦夷地を北海道とす(明治二年)。
3. 黑田清隆の赴任と諸施設
   - 交通，開墾，興産。
   - 內地人の移住奬勵。
   (同三年)。
4. 屯田兵をおく‥國防と開墾(同 八年)。
5. 函館，札幌，根室の三縣をおく(同十五年)。
6. 北海道廳を設け(同十九年)屯田兵を廢し第七師團を置く。
7. 內地文化の進入と利源の開發。

338. 東京京都大阪の起源沿革 (八高)

1. 東 京
   - ㋑江戶築城
     - 太田道灌
       - 後花園朝長祿元年。
       - 北條氏に奪はる(大永四年)。
     - 德川家康
       - 正親町朝天正十八年。
       - 爾來漸く殷盛。
       - 政治・文化の中心。
   - ㋺帝都(明治二年)。
2. 京 都
   - ㋑帝都(延曆十三年)‥‥爾來千七十餘年の都。
   - ㋺福原遷都後次第に衰頽應仁亂後荒涼甚し。
   - ㋩織豐時代より漸く復興次第に繁華を加ふ。
   - ㋥御卽位禮は依然京都に於て行はる。
3. 大 阪 (322參照)

339. 明治時代に於ける法典の編纂の次第を述べよ

1. 法典編纂の動機
   - 全國劃一の法律制定の必要‥新時代の要求。
   - 不平等條約改正の實行を期する爲。
2. 新律綱領(明治三年)と改定律例(明治六年)‥西洋法律の參酌。
3. 刑法・治罪法の實施(明治十五年)と法典取調局の設置。
4. 刑事訴訟法・行政裁判法・裁判所構成法の發布(明治二十三年)。
5. 民事訴訟法の發布(明治二十九年)と民法の實施(明治三十一年)。
6. 商法の實施(明治三十二年)と刑法の逐次改正。

參考問題 ○新律綱領。(神皇、海兵)

340. 明治廿三年教育勅語御下賜以前の思想を觀察せよ (二高)

1. 西洋崇拜の思想
   - ㋑舊物打破と歐化主義の唱導。
   - ㋺自由民權の思想の輸入と道德教育の輕視。
2. 教育主義の不統一
   - ㋑傳統的の舊思想と西洋風の新思想。
   - ㋺思想界の混沌と國民の歸趨困迷。
3. 教育勅語の御下賜
   - ㋑國民道德の大本と國民思想の適歸する所御明示。
   - ㋺正しき日本精神の發輝‥國粹保存と外來文化の同化。
   - ㋩確固不拔の根本精神確立。

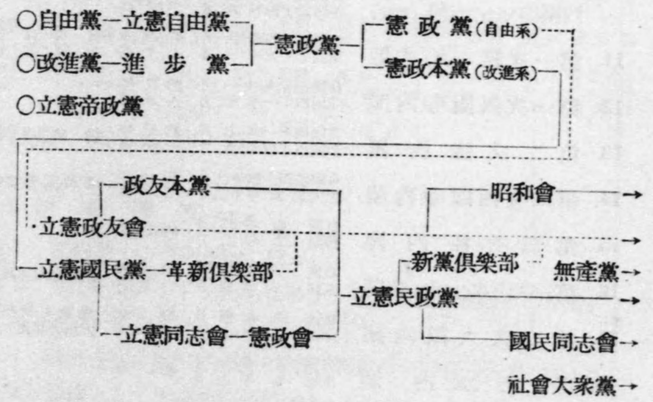
341. 廣く會議をおこし萬機公論に決する我が國是は明治初年より今日まで如何に實現せしか

1. 我が國立憲政體の確立
   - ㋑五箇條の御誓文‥御誓文の宣布と輿論尊重の傾向。
   - ㋺立憲運動
     - 木戸孝允の憲法制定建議(明治六年)。
     - 板垣退助等の民選議院設立建白(同七年)。
     - 板垣退助等の國會開設請願(同十三年)。
     - 中江兆民等の自由主義鼓吹。
   - ㋩政府の漸進主義とその施設
     - 元老院・大審院の設置(同八年)。
     - 地方官會議を開く(同 年)。
     - 府縣會を開く(同十二年)。
   - ㋥國會開設の大詔渙發と政黨の組織(同十四年)。
   - ㋭立憲政體創立の準備
     - 立憲制度の取調(伊藤博文の歐洲視察と憲法起草)。
     - 內閣制度の創設(同十八年)と樞密院設置(同二十一年)。
     - 地方自治制の發達
       - 市町村制(同二十一年)。
       - 府縣制(同二十三年)。
   - ㋬憲法發布と皇室典範の制定(同二十二年二月十一日)。
   - ㋣帝國議會の開設(同二十三年)。

2. 政黨の組織とその消長
   - ㋑自由黨の結成(明治十四年)‥板垣退助等の急進主義。
   - ㋺改進黨の組織(同十五年)‥大隈重信等の漸進主義。
   - ㋩立憲帝政黨の組織(同 年)‥丸山作樂等の保守主義。
   - ㋥離合集散屢々行はれたるも大方は二大政黨の對立。
3. 政黨政治の發達
   - ㋑政黨內閣の組織
     - ①大隈・板垣の聯立內閣(明治三十一年)。
     - ②原內閣‥(大正七年)。
     - ③加藤,高橋,犬養(護憲三派)の聯立內閣(大正十三年)。
     - ④若槻一田中一濱口一犬養內閣。
   - ㋺普通選擧法の公布(大正十四年)と實施(昭和三年)。

參考問題
- ○我が國に於ける立憲政體の確立。(各高、高岡高商、海機、海經)
- ○我が國立憲政體の由來。(五高)
- ○我が國帝國議會開設の由來。(新潟高)
- ○帝國憲法制定の由來。(大商大、五高、三高、大阪高、學習院)
- ○內閣制度の起源。(廣高師)

342. 政黨の對立離合表 (參考)



343. 歷代內閣表（參考）

	內閣	存立期間	重要事項
1.	第一次伊藤（博文）內閣	自明治十八年十二月 約二年 至同二十一年四月 四ケ月	
2.	黑田（清隆）內閣	自同二十一年四月 約一年 至同二十二年十月 五ケ月	憲法發布
	三條（實美）內閣（臨時）	自同二十二年十月 至同二十二年十二月 約二ケ月	
3.	第一次山縣（有朋）內閣	自同二十二年十二月 約一年 至同二十四年五月 五ケ月	帝國議會開設
4.	第一次松方（正義）內閣	自同二十四年五月 約一年 至同二十五年八月 三ケ月	
5.	第二次伊藤內閣	自同二十五年八月 約四ケ年 至同二十九年九月	日清戰役
	黑田內閣（臨時）	自同二十九年八月 十八日 至同二十九年九月	
6.	第二次松方內閣	自同二十九年九月 約一年 至同三十一年九月 三ケ月	
7.	第三次伊藤內閣	自同三十一年一月 至同三十一年六月 約五ケ月	
8.	第一次大隈（重信）內閣	自同三十一年六月 至同三十一年十月 約四ケ月	
9.	第二次山縣內閣	自同三十一年十一月 約一年 至同三十三年十月 十一ケ月	北清事變
10.	第四次伊藤內閣	自同三十三年十月 至同三十四年五月 約六ケ月	
	西園寺（公望）內閣（臨時）	自同三十四年五月 至同三十四年六月 二十四日	
11.	第一次桂（太郎）內閣	自同三十四年六月 約四年 至同三十九年一月 七ケ月	日英同盟 日露戰役
12.	第一次西園寺內閣	自同三十九年一月 約二年 至同四十一年七月 六ケ月	
13.	第二次桂內閣	自同四十一年七月 約三年 至同四十四年八月 一ケ月	韓國併合
14.	第二次西園寺內閣	自明治四十四年九月 約一年 至大正元年十二月 三ケ月	明治天皇崩御
15.	第三次桂內閣	自同元年十二月 至同二年二月 約二ケ月	
16.	第一次山本（權兵衛）內閣	自同二年二月 約一年 至同三年四月 一ケ月	昭憲皇太后崩御
17.	第二次大隈內閣	自同三年四月 約二年 至同五年十月 五ケ月	世界大戰開始 大正天皇御大禮
18.	寺內（正毅）內閣	自同五年十月 約二ケ年 至同七年九月	

	內閣	存立期間	重要事項
19.	原（敬）內閣	自大正七年九月 約三年 至大正十年十一月 一ケ月	ヴエルサイユ講和會議
	內田（康哉）內閣（臨時）	自同 十年十一月 十日 至同	
20.	高橋（是清）內閣	自同 十年十一月 至同 十一年六月 約六ケ月	ワシントン會議 攝政皇太子
21.	加藤（友三郎）內閣	自同 十一年六月 約一年 至同 十二年八月 二ケ月	
	內田內閣（臨時）	自同 十二年八月 至同 十二年九月 九日	
22.	第二次山本內閣	自同 十二月九月 至同 十三年一月 約四ケ月	關東大震災
23.	清浦（奎吾）內閣	自同 十三年一月 至同 十三年六月 約六ケ月	
24.	加藤（高明）內閣	自同 十三年六月 約一年 至同 十五年一月 六ケ月	
25.	第一次若槻（禮次郎）內閣	自大正十五年一月 約一年 至昭和二年四月 三ケ月	大正天皇崩御
26.	田中（義一）內閣	自昭和二年四月 約二年 至昭和四年六月 二ケ月	今上天皇御大禮
27.	濱口（雄幸）內閣	自同 四年七月 約一年 至同 六年四月 十ケ月	ロンドン會議
	幣原（喜重郎）內閣（臨時）	自同 五年十一月 至同 六年三月 約五ケ月	
28.	第二次若槻內閣	自同 六年四月 至同 六年十二月 約九ケ月	
29.	犬養（毅）內閣	自同 六年十二月 至同 七年五月 約六ケ月	滿洲國建設
30.	齋藤（實）內閣	自同 七年五月 約二年 至同 九年七月 二ケ月	滿洲國承認
31.	岡田（啓介）內閣	自同 九年七月 約一年 至同 十一年三月 八ケ月	退聯盟脫退 國際聯盟ロンドン會議 二・二六事件
32.	廣田（弘毅）內閣	自同 十一年三月	

344. 伊藤博文（海機）

1. 長州藩士。吉田松陰に學ぶ。
2. 文久年間ロンドン大學に學び下關事件後歸朝國事に奔走。
3. 岩倉大使の副使として歐米視察（明治四年）。
4. 歐洲各國の憲法諸制度の調査，歸朝後帝國憲法起草（明治十五年）。
5. 全權として天津條約締結（明治十八年）。

6. 同年內閣總理大臣となる。爾來幾多の要職歷任。立憲政體の確立・國威の發展に盡力。
7. 全權として下關條約締結(明治二十八年)。
8. 韓國統監となり施政改善に貢獻(明治三十八年)。
9. 滿洲ハルビン驛にて鮮人に暗殺さる(國葬)(明治四十二年十月)。

345. 明治大正時代に於ける教育の普及

1. 政府の努力
   - 文部省の新設(四年)と學制發布(五年)。
   - 義務教育の制
     - 明治十八年より四ヶ年とす。
     - 明治四十年より六ヶ年とす。
2. 教育機關の發達
   - ㋑小學校(尋常、高等)。
   - ㋺中等教育と師範教育‥中學校,師範學校,高等師範學校。
   - ㋩高等教育‥高等學校, 高等專門學校, 大學校。
   - ㋥實業教育‥農工商業學校, 各種高等專門學校。
   - ㋭女子教育‥高等女學校, 其他各種學校。
   - ㋬私立諸學校の設置‥慶應・早稻田・同志社大學等。
3. 維新後の教育主義
   - ㋑洋學萬能主義‥自然科學・物質文明の發達强調。
   - ㋺自由民權主義‥自由主義の唱導と道德教育の輕視。
   - ㋩國家教育主義‥ドイツ思潮の影響。
   - ㋥教育方針の確立‥教育勅語の下賜。

參考問題 ○德川幕府末及び維新以來學制の沿革。(東高船)

346. 福 澤 諭 吉 (山口高商、鹿南高工、大高商、遞官)

1. 豐前中津の人, 英米學者‥明治初年西洋學術の輸入と紹介に貢獻。
2. 慶應義塾の創設‥私學の先驅。
3. 時事新報の創立と時代精神の鼓吹。

347. 明治大正時代の精神的文化について述べよ

1. 宗 教
   - ㋑祭政一致の理想と神道の勃興‥神社・寺院の分立。
   - ㋺佛教‥僧侶の自覺と各派合同の勢力挽回努力。
   - ㋩基督教‥信教の自由と基督教の傳道並に日本化。
2. 教育の普及。(345參照)
3. 學術の發達
   - ㋑印刷術の發達
     - 活字印刷の進步‥本木昌造(明治初年)。
     - 新聞雜誌書籍の出版(學問の發達に貢獻)。
   - ㋺西洋學術の流行
     - 英米學‥福澤諭吉。
     - 佛 學‥中江兆民。
     - 獨 學‥加藤弘之。
   - ㋩自然科學の發達
     - 醫 學‥青山胤通, 北里柴三郎。
     - 數 學‥菊池大麓。
     - 天文學‥平山信。
     - 物理學‥山川健次郎, 長岡半太郎。
     - 化 學‥松井直吉。
     - 地震學‥大森房吉。
   - ㋥人文科學の大勢‥法律, 政治, 經濟, 哲學等‥英・佛・獨學說の輸入紹介。
   - ㋭學術の保護奬勵‥帝國學士院, 官公私立の各種研究所設立。
4. 文學の發達
   - ㋑傳統文學‥假名垣魯文(西洋膝栗毛)。
   - ㋺政治小說‥矢野龍溪(經國美談)と末廣鐵腸(雪中梅、花間鶯)。
   - ㋩文學革新
     - 坪內逍遙の寫實主義唱道(小說眞髓、當世書世氣質)。
     - 西洋文學の研究
       - 坪內逍遙(英文學)
       - 森 鷗外(獨文學)
   - ㋥小說戲曲‥尾崎紅葉, 幸田露伴, 夏目漱石, 樋口一葉, 田山花袋。
   - ㋭評論‥高山樗牛, 大町桂月。

- ㈡詩歌
  - 俳句‥正岡子規。
  - 和歌‥落合直文，與謝野寛，佐々木信綱。
  - 新體詩‥土井晩翠，島崎藤村。
- ㈢文學趣味の普及と新進作家の輩出‥口語體の流行。

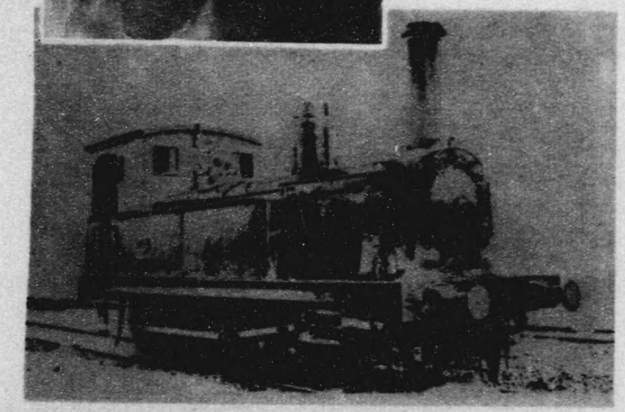
5. 美術工藝の進歩。(348參照)
6. 音樂娯樂の變遷
   - ㈠西洋音樂の流行‥東京音樂學校の設立(明治廿年)。
   - ㈡演藝‥歌舞伎劇と西洋劇の移入。
   - ㈢活動寫眞の發達(明治卅年頃より)。

參考問題 ○明治大正時代に於ける學術の發達について述べよ。
○明治大正時代に於ける文藝について述べよ。

348. 明治大正時代の美術工藝について述べよ

1. 繪畫
   - 日本畫
     - ①明治初年の舊物打破の思潮と古美術の遺棄……日本畫家の窮迫。
     - ②古美術復興の氣運(明治十年頃より)
       - ㈠國粹美術運動‥米人フエノロサの刺戟と岡倉覺三。
       - ㈡狩野芳崖，橋本雅邦，川端玉章等の努力。
       - ㈢美術學校の設立と美術展覽會の開催。
       - ㈣大家の輩出
         - 寺崎廣業，横山大觀，
         - 下村觀山，竹內栖鳳，
         - 山元春擧，菊池芳文。
   - 西洋畫
     - ①小山正太郎，淺井忠の開拓と黑田清輝の唱道‥興隆。
     - ②新進作家の輩出と美術團體の續出。
2. 彫刻
   - 日本風彫刻の復興‥高村光雲，竹內久一。
   - 洋風彫刻の發達‥朝倉文夫，荻原守衛。
3. 工藝‥染織，刺繡，陶磁器，漆器等の發達。
4. 建築‥洋式建築の發達。

狩野芳崖筆慈母觀音



明治初年の機關車(京濱間使用)

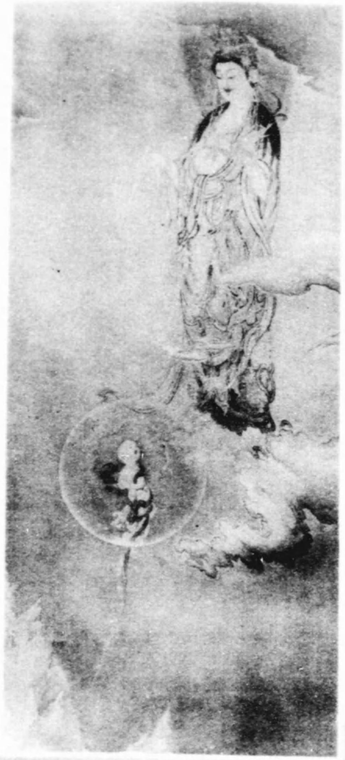
- ㋑詩歌
  - 俳句…正岡子規。
  - 和歌…落合直文，與謝野寛，佐々木信綱。
  - 新體詩…土井晩翠，島崎藤村。
- ㋺文學趣味の普及と新進作家の輩出…口語體の流行。

5. 美術工藝の進歩。(348參照)
6. 音樂娯樂の變遷
   - ㋑西洋音樂の流行…東京音樂學校の設立(明治廿年)。
   - ㋺演藝…歌舞伎劇と西洋劇の移入。
   - ㋩活動寫眞の發達 (明治卅年頃より)。

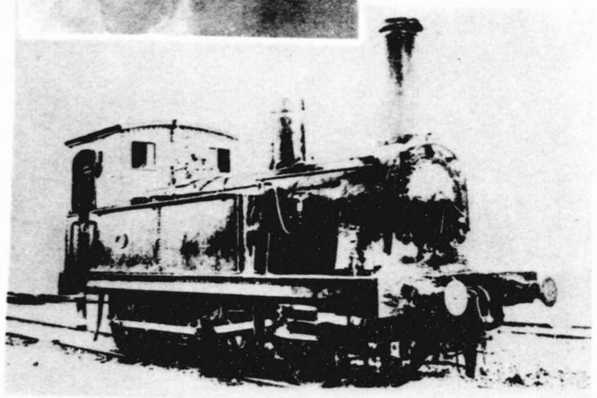
參考問題 ○明治大正時代に於ける學術の發達について述べよ。
○明治大正時代に於ける文藝について述べよ。

348. 明治大正時代の美術工藝について述べよ

1. 繪畫
   - 日本畫
     - ①明治初年の舊物打破の思潮と古美術の遺棄……日本畫家の窮迫。
     - ②古美術復興の氣運(明治十年頃より)
       - ㋑國粹美術運動…米人フェノロサの刺戟と岡倉覺三。
       - ㋺狩野芳崖，橋本雅邦，川端玉章等の努力。
       - ㋩美術學校の設立と美術展覽會の開催。
       - ㋥大家の輩出
         - 寺崎廣業，橫山大觀，下村觀山，竹內栖鳳，山元春擧，菜花芳文。
   - 西洋畫
     - ①小山正太郎，淺井忠の開拓と黒田清輝の唱道…興隆。
     - ②新進作家の輩出と美術團體の續出。
2. 彫刻
   - 日本風彫刻の復興…高村光雲，竹內久一。
   - 洋風彫刻の發達…朝倉文夫，荻原守衛。
3. 工藝…染織，刺繍，陶磁器，漆器等の發達。
4. 建築…洋式建築の發達。



狩野芳崖筆慈母觀音



明治初年の機關車 (京濱間使用)

349. 明治大正時代の物質文明に就いて述べよ

1. 經濟的文化の大勢
   - ㈠國民經濟の成立‥中央集權確立の結果。
   - ㈡國際經濟の發達‥歐米の物質文化の輸入。
   - ㈢經濟中心の移動‥生產經濟より交換經濟に移る。
2. 商業の發達
   - ㈠同業組合の設立と會社法の制定。
   - ㈡勸工場，百貨店の設立。
   - ㈢株式取引所，商業會議所の設立。
3. 工業の發達
   - ㈠工業生產と商業營利との發達は表裏關係をなす。
   - ㈡消費の爲の生產より消費を見越しての生產となる。
   - ㈢交通，通信の發達と商工業の進歩。
   - ㈣產業革命
     - 水力電氣の利用と日露戰後の大躍進。
     - 手工業より機械工業へ。
     - 家內工業より工場工業へ。
     - 世界大戰役と化學工業の勃興。
     - 資本と勞力の集中‥資本主義。
   - ㈤工業保護政策
     - 模範工場の設立と勸業博覽會の開催
     - 民間工業の進出‥製絲業，綿絲紡績業。
     - 工場法の制定（明治四十四年）‥勞働者の保護。
4. 通信交通機關の發達。（350參照）
5. 金融幣制の整理
   - ㈠兌換制度の確立（明治十五年）
     - 日本銀行の設立
     - 兌換券發行
   - ㈡金本位制‥明治三十年斷行。
   - ㈢金融機關の發達‥各種銀行の設立。
6. 貿易の進展
   - ㈠金本位制の確立と商業教育・產業・通信・海運の發達。
   - ㈡關稅自主權の獨立は外國貿易進展促進。
   - ㈢貿易總額は明治初年二千六百萬圓が大正末年四十七億圓に躍進‥‥但し輸入超過の趨勢。

350. 明治維新後に於ける我が通信交通機關發達の概要

1. 通信
   - ①電　信‥(明治二年　東京横濱間)。
   - ②郵便制‥(同　四年　東京大阪間、五年には全國に實施)。
   - ③郵便爲替‥(同八年)と小包郵便(同廿五年)。
   - ④萬國郵便聯合加入(同十年)と萬國電信聯合加入(同十二年)
   - ⑤海底電信(同四年)、電話(同十年東京横濱、同廿三年一般公開)無線電信とラヂオの發達。
2. 海運
   - ①郵便汽船三菱會社(明治七年)
   - ②共同運輸會社(同十五年)
   - (①②合併して日本郵船會社となる)
   - ③大阪商船會社(同十七年)‥内地沿岸、揚子江、韓鮮、北清、タコマ、臺灣航路。
   - ④日本郵船會社(同十八年)‥孟買、歐洲、米國、濠洲航路。
   - ⑤東洋汽船會社(同廿九年)‥北米、南米航路。
   - ⑥日清汽船會社(同四十年)‥揚子江。
3. 鐵道
   - ①東京横濱間(明治五年)。
   - ②京都神戸間(同十二年)。
   - ③東海道全通(同廿二年)。
   - ④東京青森間(同廿五年)(私設)。
   - ⑤私鐵奬勵と鐵道國有制度(同卅九年)。
   - ⑥電車網(同卅四、五年頃より)と自動車網の發達(明治末頃より)。
4. 航空路
   - ①東京一清水。
   - ②東京一富山。
   - ③大阪一白濱。
   - ④東京一新潟。
   - ⑤大阪一松山一別府。
   - ⑥東京一名古屋一大阪一福岡一韓鮮一大連。
   - ⑦新義州一奉天一滿洲里一清津。
   - ⑧奉天一山海關一新京。
   - ⑨名古屋一二見。
   - ⑩城崎一松江。
   - ⑪福岡一臺北。

参考問題　○明治維新後に於ける我が國交通機關發達の概要。(遞信)

351. 明治維新後に於ける社會事業の發達

1. 東京養育院の創立‥‥‥‥‥‥‥‥(明治五　年)
2. 博愛社の創立‥佐野常民、大給恒‥(同　十　年)
3. 萬國赤十字社加盟(博愛社の改稱)‥‥(同　十九年)
4. 愛國婦人會の設立(奥村五百子)‥‥‥(同三十四年)
5. 濟生會の成立‥明治天皇恩賜金‥‥(同四十四年)
6. 其他
   - 救世軍、慈善病院、育兒院、孤兒院、養老院、保育院の設立、
   - 出獄者の保護、無料宿泊所、托兒所、人身賣買の禁止等。

352. 社會問題の發生とその政策について述べよ

1. 發生の原因
   - ㋑產業革命による產業組織の一變‥勞働者の激增。
   - ㋺資本主義と貧富の隔絕。
2. 社會問題の頻發
   - ㋑勞働爭議‥資本家と勞働者との利益分配に關する衝突
   - ㋺小作爭議‥地主と小作人との利益分配に關する衝突
   - (㋑㋺罷業と怠業。)
   - ㋩人口問題・都市失業者の救濟・地方農村疲弊救濟。
3. 對策
   - ㋑政府の社會政策
     - 工場法の制定、勞働者の保護計畫、職業紹介所、小作爭議調停法、勞働爭議調停法等。
   - ㋺社會事業の發達
     - 赤十字社、濟生會、養育院、養老院、施療院、不良兒童感化院、托兒所等々。

353. 最近の內政問題について

1. 關東大震火災と復興事業‥國民生活の重點。
2. 普通選擧法の公布(大正十四年)と實施(昭和三年)。
3. 陪審法實施(昭和三年)‥國民の司法裁判實施に參與。
4. 經濟不況と對策
   - ㋑世界大戰の反動と關東大震災の影響。
   - ㋺緊縮政策の實施‥財政の縮少と節約奬勵。
   - ㋩金輸出解禁と再禁止‥我が爲替相場の低落。

354. 我が國に於ける政權推移の大要 (大阪高、陸士、海兵其他)

1. 天皇親政時代……神武朝—武烈朝 (約 1160 年間)
2. 大臣大連專權時代……繼體朝—皇極朝 (約 140 年間)
3. 天皇親政時代……孝德朝—仁明朝 (約 200 年間)
4. 藤原氏專權時代……文德朝—後冷泉朝 (約 220 年間)
5. 天皇親政時代……後三條朝—白河朝 (約 20 年間)
6. 院政時代……堀河朝—二條朝 (約 80 年間)
7. 平氏專權時代……六條朝—安德朝 (約 20 年間)
8. 源氏執政時代……後鳥羽朝—順德朝 (約 35 年間)
9. 北條氏執政時代……仲恭朝—花園朝 (約 100 年間)
10. 建武中興時代……後醍醐朝 (約 2 年間)
11. 吉野朝時代……後醍醐朝—後龜山朝 (約 60 年間)
12. 足利氏執政時代……後小松朝—正親町朝 (約 180 年間)
13. 織田豐臣執政時代……正親町朝—後陽成朝 (約 30 年間)
14. 德川氏執政時代……後陽成朝—孝明朝 (約 270 年間)
15. 天皇親政時代……明治朝————

355. 我が國軍備兵制の歷史的變遷 (海機)

1. 上古‥大伴氏，物部氏，久米氏等部民と率ゐて軍備に任ず。
2. 中古
   - ㋑國民皆兵の制(大寶令)‥二十一歲より六十歲迄の正丁の三分の一徵集。
   - ㋺中央‥五衞府{左右兵衞府／衞門府／左右衞士府}後六衞府{左右近衞府／左右兵衞府／左右衞門府}となる。
   - ㋩地方‥軍團(諸國)と防人(サキモリ)(九州、壹岐、對島)。
3. 近世‥武家時代に入り兵馬の權は武士に歸す。(侍所—守護／諸大名の軍役負担)。
4. 明治維新
   - ㋑兵馬の權朝廷に歸す。
   - ㋺兵部省(明治四年)
     - 一萬石につき五人徵兵。
     - 東京に親兵，東山・西海に鎭臺。

5. 軍備の充實
   - ㋑陸・海軍省の新設(明治五年)。
   - ㋺徵兵令の發布(明治六年)
     - 大村益次郎の建議。
     - 國民皆兵主義‥六鎭臺。
   - ㋑軍人勅語の下賜(明治十五年)。
   - ㋺七箇師團と三鎭守府(明治十九年)。
   - ㋩日清戰後の擴張‥十三箇師團と四鎭守府及び艦艇の建造。
   - ㋥日露戰後の擴張‥十九箇師團(明治四十年)と艦艇の建造。
   - ㋭世界大戰後の擴張‥二十一箇師團(大正五年)。
6. 軍備の縮少
   - ㋑軍縮會議に制限條約締結。主力艦(ワシントン條約)補助艦(ロンドン條約)の縮少。
   - ㋺四箇師團廢止(大正十四年)。

356. 明治以來現在に至る我が國の領土統治區域の變遷

1. 千島・樺太の交換。(362參照)
2. 小笠原島の東京府編入‥英・米の領有主張を一蹴(明治十三年)。
3. 琉球の領有確認
   - ①琉球の鹿兒島縣編入(明治四年)。
   - ②沖繩縣の新設
     - 淸國の異議(明治十二年)。
     - 米國前大統領グラントの仲裁。
     - 宮古・八重山群島と共に領有。
4. 臺灣・澎湖島‥明治二十七八年戰役の結果下關條約にて淸國より割讓。(遼東半島還附)
5. 南樺太・關東州‥明治三十七八年戰役の結果ポーツマス條約にて露國より割讓。
6. 朝鮮‥明治四十三年日韓併合條約により合併。
7. 膠州灣‥ドイツより租借權讓與(大正八年)後支那へ還附(大正十二年)。
8. 南洋諸島‥日獨戰役の結果，パリー媾和會議(大正八年)にて我委任統治地となる。

參考問題 ○朝鮮，臺灣，樺太，關東州及南洋群島の我が治下に入りし由來。(海兵)

○明治初年以來如何なる變遷を經て我が國の現在の領土統治區域，租借地が確定したか。(佐賀高)

○明治初年より今日に至る我が國領土及び勢力範圍の擴張を述べよ。(松江高)

○明治二十七八年戰役後に於ける我が帝國の新領土，租借地委任統治地の位置を略圖に示し併せてその由來を簡單に記せ。(各高)

357. 我が國有史以來の對外戰を列擧し併せてその原因結果を略述せよ (原因結果省略、各項參照)

1. 崇神天皇の任那救援……御即位六十五年。
2. 神功皇后の新羅征伐……仲哀天皇九年。
3. 齊明・天智天皇の百濟救援…齊明天皇七年，天智天皇二年。
4. 刀伊の入寇……後一條天皇寬仁三年。
5. 元　　寇……{龜山天皇文永十一年。
後宇多天皇弘安四年。
6. 應永の外寇……稱光天皇應永二十六年。
7. 豐臣秀吉の朝鮮征伐……後陽成天皇文祿元年，慶長二・三年。
8. 臺灣征伐……明治七年。
9. 日清戰役……同二十七・八年。
10. 北清事變……同三十三年。
11. 日露戰役……同三十七・八年。
12. 日獨戰役……大正三年——八年。
13. シベリヤ出兵……同　七年。
14. 濟南事件……昭和三年。
15. 滿洲事變……同　六年。
16. 上海事變……同　七年。

參考問題 ○日本歷史に現れたる外寇。(八高)

(江戶時代の露國の北邊入寇、英國の西隘侵掠をも一言すべし)

358. 明治初年の外交

1. 外交方針の確立・・開國主義{外國事務總裁と取調掛の設置。
萬國公法準據 (明治元年)。
2. 英・佛・蘭公使の引見と我が公使の英・佛・普・米駐劄 (明治三年)。
3. 岩倉具視等の歐米視察と條約改正の提議・・(明治四年一六年)。
4. 排外思想と外交問題の頻發。
5. 日鮮(359參照) 日支(368參照) 日露(362參照) 關係。

359. 太古以來韓國併合に至るまでの日鮮關係の大要 (陸士、海機)

1. 上古 (18參照)
2. 中古・・仁明天皇の頃新羅の朝貢斷絶後關係中絶。
3. 近古
   - ①龜山天皇の御代高麗蒙古と共に入寇(元寇)。
   - ②吉野朝時代倭寇高麗の沿海を侵す。
   - ③李氏朝鮮の建國と應永の外寇。
   - ④貿易開始と對馬の宗氏(癸亥條約と壬申條約)。
   - ⑤豐太閤の朝鮮征伐(文祿、慶長の役)。
4. 近世
   - ①家康の修交(宗氏の斡旋)・・宗氏の通商條約 (己酉條約、慶長十四年)。
   - ②朝鮮信使の來聘とその待遇・・新井白石の改正。
   - ③竹島問題{鬱陵島・・豐太閤の征韓の役以來占領。
綱吉の時日鮮漁民の衝突(元祿九年還附)。
   - ④幕末の混亂と日鮮國交斷絶(文化八年以降)。
   - ①修交回復の要求・・對馬の宗氏の斡旋・・朝鮮の無禮・・(明治元年一六年)。
   - ②征韓論・・岩倉具視等の反對・・西鄕隆盛等致仕(同六年)
   - ③江華島事件(明治八年){江華島砲臺の我が軍艦砲撃。
修交條約の締結(明治九年)。
   - ④明治十五年(壬午)の變{國王李熙の新政・・大院君一派の亂。
我が公使館を燒く。
我が國の出兵と濟物浦條約。

5. 現代
- ⑤明治十七年(甲申)の變
  - 獨立黨，事大黨の軋轢。
  - 事大黨日本公使館を燒き居留民を殺す。
  - 京城條約と天津條約(明治十八年)。
- ⑥東學黨の亂と日清兩國の出兵‥日清戰役。
- ⑦露西亞の勢力扶植と日露協商(韓國內政不干涉)…(明治二十九年と三十一年)。
- ⑧露西亞の韓國侵略と日露戰役‥韓國に於ける優越權獲得。
- ⑨日韓議定書の交換(明治三十七年)と保護條約の締結(明治三十八年)。
- ⑩日韓併合條約の締結(明治四十三年八月)と庶政一新。

參考問題 ○三韓征伐，朝鮮征伐及び日韓併合を中心とした我國と朝鮮との史的關係。(弘前高)
○征韓論。(陸士)
○明治維新以後の日本と朝鮮との關係。(神皇)
○明治初年より同二十七年までの日鮮の關係。(浦和高)
○江華島事件。(海兵、海經、陸士、廣女專)

360. 日韓併合の顚末 (海機)

1. 併合の由來
- ①ポーツマス條約により我が國の優越權確認さる。
- ②日韓保護條約
  - 外交權を收む(明治卅八年十一月)。
  - 統監府の設置‥(伊藤博文)。
- ③ハーグ密使事件後の內政指導‥(明治四十年)。
- ④伊藤博文韓人に暗殺さる‥(明治四十二年)。
- ⑤日韓併合の請願‥一進會長李容九等。

2. 併合條約
- ①寺內正毅と李完用の協議締結‥(明治四十三年)。
- ②韓國皇帝は一切の統治權を我が天皇陛下に讓らる。

3. 朝鮮の經營
- ①韓國皇族の優遇と貴族の禮遇。
- ②朝鮮總督府の設置と庶政刷新。

參考問題 ○日韓併合の由來。(各高、海兵、遞官)
○統監府。(陸士)

○韓國併合と列國との關係。

361. 明治時代に於ける條約改正の顚末 (神皇、京城大、松本高、山形高、廣高師、陸士、鹿北高商、神高商、東高師)

1. 改正の必要
- ①安政の不平等條約‥關稅自主權の喪失と治外法權。
- ②國力の充實と弊風刷新‥外國文化の輸入と諸般の改良。

2. 改正の交涉
- ①岩倉具視一行の歐米巡遊と改正提議‥不成立(明治四年)。
- ②外務卿寺島宗則の稅權恢復案‥英公使反對(同十一年)。
- ③外相井上馨案(外人法官任用の條項)‥朝野の反對(十九年)。
- ④外相大隈重信立案(井上案と大同小異)同(二十一年)。
- ⑤外相青木周藏の對等案‥大津事件の爲挫折(二十四年)。

3. 改正の實施
- ①外相陸奧宗光と駐英公使青木周藏の努力。
- ②對英條約改正成功(二十七年七月)と各國の新條約調印。
- ③改正條約の實施‥治外法權の撤廢と外人の內地雜居(三十二年)。
- ④對等條約の締結‥外相小村壽太郎の關稅條約の改締(四十四年)。

參考問題 ○明治二十年以後の條約改正。(神皇、海兵)
○內地雜居。(靜高、長崎高商)
○治外法權。(長崎高商)
○條約改正の沿革。(廣高師、陸士、海兵)
○陸奧宗光。(東高師、海兵、海經)

362. 寬政以來日露戰前までの日露關係 (海經)

1. 德川時代 (269參照)

- 2. 明治時代
  - ㋑北邊境界問題
    - ①北緯五十度分界設提議‥露應ぜず‥(明治三年)。
    - ②副島種臣の北緯五十度以北買收提議‥‥‥‥‥‥露應ぜず(明治五年)。
    - ③千島・樺太の交換。(同八年)
      - 黒田清隆の提議。
      - 駐露公使榎本武揚の盡力。
  - ㋺湖南事件‥露西亞皇太子の遭難(明治二十四年)。
  - ㋩日露戰役の原因
    - ①露の滿洲・朝鮮進出
      - 三國干渉‥遼東半東の還附‥(同二十八年)。
      - 朝鮮親露派の優勢‥(露の內政干渉)(同二十九年)。
    - ②第一日露協商‥日露協同の朝鮮指導‥(同二十九年)。
    - ③第二日露協商‥‥‥‥‥(同三十一年)
      - ㋑日露兩國の韓國內政不干渉。
      - ㋺露は日韓の商工業發達に妨害せざること。
      - ㋩韓に練兵の教官・財政顧問の派遣は兩國協議。
    - ④露の滿洲侵略
      - ㋑東支鐵道の敷設，沿線の鑛山採掘權，旅順大連の租借權獲得。
      - ㋺北淸事變に乘じて露の滿洲出兵と占領企劃。
      - ㋩日英米の抗議と日英同盟。
      - ㋥露の不誠意と極東軍備整修充實。
      - ㋭韓國龍巖浦占領‥(明治三十六年)。
  - ㋥日露開戰‥東洋平和と自國保全の爲(明治三十七年二月)。

參考問題 ○明治三十七・八年戰役の原因及び結果。(東女高師、陸士、各高、神皇、海兵、松本高)

○日淸戰役後に於ける露西亞の極東經營。(東高師)

○樺太・千島に關する日露交涉の顚末。(東高師、陸士、海兵、陸經、東商大其他)(269及362參照)

○樺太・千島の交換。(東商船、海兵、陸經)

363. 明治維新後の日露關係

1. 日露戰役前。(362參照)
2. 日露戰役とポーツマス條約。(362及365參照)
3. 第一次日露協約‥ポーツマス條約の確認(明治四十一年)。
4. 第二次日露協約
   - ①米國の滿洲鐵道列國共同管理提議
   - ②日露の新協約‥‥滿洲の現狀維持

   (明治四十三年)。
5. シベリヤ出兵‥シベリヤの秩序維持とチエツコ救援(大正七年)。
6. 尼港事件
   - ①露國過激派パルチザンの我が守備兵居留民虐殺。
   - ②沿海州の一部と北樺太の保障占領(大正九年)。
7. 日ソ協約成立
   - 國交恢復と撤兵‥(大正十四年)。
   - 北樺太の石油・石炭の採掘權獲得。

參考問題 ○尼港事件。

364. 日本海々戰の國史上の意義

1. 露國のバルチツク艦隊の派遣による日本海制海權掌握の企圖。
2. 皇國の興廢此の一戰に決せらる。
3. 世界海戰史上未曾有の大勝利。
4. 天皇陛下の御稜威と我が將士の義勇奉公の結果。

參考問題 ○日本海々戰の重要なる決戰なりし所以。(海經)

○東鄕平八郎。(東美術)

365. ポーツマス條約 (松本高、七高、海兵、東女高師、東商、松山高、和高商等)

1. 米國大統領ルーズヴエルトの居中調停と日露戰役の終局。
2. 米國ポーツマスに於ける媾和條約(明治三十八年九月)。

- 3. 兩國全權 ①日 本‥小村壽太郎，高平小五郎。 ②露西亞‥ウイツテ，ローゼン。
- 4. 條約の要項 ①韓國に於ける我が優越權承認。 ②關東洲の租借權，長春以南の鐵道，沿道の炭坑に關する特權を日本に讓渡。 ③樺太の北緯五十度以南を日本に割讓。 ④沿海州の漁業權を日本に讓渡。

参考問題 ○日露講和會議。(東高商、肺皇、其他)

366. 日露戰役の影響 (遞信)

1. 對內的影響
   - ①國民の自尊心の向上と浮華輕佻の風 採長補短主義。 戊申詔書の煥發。
   - ②陸海軍の充實と軍人崇拜の風起る。
   - ③增稅と內外公債の增加。
   - ④商工業の勃興 貧富の差を甚だしくし無產者の資本家に對する反感高まり社會主義の活躍の端を發す。
   - ⑤日韓併合の基礎。
2. 對外的影響
   - ①アジヤ民族の自覺 白色人種に對する反抗心誘發。 汎アジヤ主義の勃興。
   - ②ペルシヤ，トルコ，支那，露西亞の憲法制定と議會の創設。
   - ③我が國に對する列國の猜忌‥黃禍論と排日運動。
   - ④國際的地位の向上 日英同盟の擴張。 一等國の班に列し，列强との大使交換と新協商。

参考問題 ○日露戰役後に於ける我が國の對外關係。(各高)

367. 明治三十七八年戰役後同四十五年に至る我が國と歐米諸國との外交一般 (實高師) (各項參照)

1. 日英同盟の改締 (明治三十八年、同四十四年)。
2. 日佛協約(明治四十年)。

3. 日露協約(明治四十年、同四十三年)
4. 日米覺書の交換 (明治四十一年)。
5. 各國との條約改正(關稅自主權の確立)の完成 (明治四十四年)。

368. 明治維新後の日支關係 (東美術、大高商)

1. 國交恢復‥伊達宗城の修交條約締結 (明治四年)。
2. 臺灣征伐 ㋑臺灣生蕃人の我が漂民虐殺・掠奪。 ㋺西鄉從道の征臺‥清國の異議‥(明治七年)。 ㋩大久保利通の談判と英公使ウエードの仲裁‥和議成立。
3. 我が琉球領有確定‥清國の異議と米前大統領グラントの調停 (明治十三年)。
4. 明治十五・十七年朝鮮の變と日支關係‥清國の朝鮮事大黨煽動。
5. 天津條約 伊藤博文，李鴻章の會見‥(明治十八年)。 日清兩國の撤兵と出兵の要ある時は行文知照の事。
6. 日清戰役と下關條約‥(369參照)
7. 北清事變‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥(370參照)
8. 日露戰役とポーツマス條約 我が國の滿洲に於ける露西亞の利權繼承。 清國の承認 (明治三十八年)。
9. 靑島占領と日支交涉 新興中華民國と條約の更新。 二十一ヶ條々約の締結 (大正四年)。
10. 九ヶ國條約の締結‥支那の自主權尊重(大正十一年)。
11. 膠州灣還附(大正十二年)。
12. 南京事件 (昭和二年)と濟南事件 (昭和三年) ‥‥支那の革命と山東出兵‥居留民保護。
13. 滿洲事變と上海事變。(第一章4頁參照)
14. 滿洲國の獨立と其後 日支關係未だ正調に復らず。 成都事件と北海事件 (昭和十一年)。

参考問題 ○天津條約。(海機)
○西鄉從道。
○臺灣征伐。(東商船)

369. 日清戰役の原因結果とその我が國に及ぼしたる影響について述べよ

1. 原因
   - ㋑遠因
     - ①臺灣征伐と琉球歸屬の紛議。
     - ②朝鮮事變(壬午、甲申)に於ける彼我の衝突と其後の反目。
     - ③朝鮮防穀令問題と金玉均誘致暗殺事件。
   - ㋺近因
     - ①朝鮮東學黨の亂と彼我の朝鮮出兵。
     - ②我が朝鮮內治改革の提議‥清國の我が撤兵要求と威壓。
2. 戰況
   - ㋑豐島沖の海戰と宣戰の大詔。
   - ㋺平壤の陷落と黃海の海戰。
   - ㋩九連城,旅順口,威海衞の占領と北京進擊。
3. 結果
   - ㋑下關條約
     - ①伊藤博文・陸奥宗光と李鴻章の媾和條約締結。
     - ②清國は朝鮮の獨立確認。
     - ③償金二億兩の支拂。
     - ④遼東半島,臺灣,澎湖島の割讓。
     - ⑤沙市,重慶,蘇州,杭州の開港。
   - ㋺三國干涉
     - ①下關條約と露西亞の極東政策との衝突。
     - ②露,佛,獨の遼東半島還附强要。
     - ③勸告容認(半島還附と代償金…三千萬兩)。
4. 影響
   - ㋑國民精神の振興‥國民の團結堅實。
   - ㋺軍備の大擴張と經濟的向上。
   - ㋩條約改正の機運促進‥國際的地位の向上。

參考問題 ○東學黨の亂。(陸士)
○日清戰役の原因及結果。(陸經)
○下關條約。(高知高、神皇、東高師、海兵)
○日清戰役の原因。(陸士、海經、各高、山口高商)
○遼東半島の還付。(國大二回、一高、二高、松山高)
○三國干涉。(神皇、長高商)
○李鴻章。(海機、陸經、山口高商)

○金玉均。(臺南工)
○日清戰役の影響。(遞官)

370. 北清事變の顚末 (海兵)

1. 原因
   - ㋑列國の清國壓迫
     - ①露
       - 東清鐵道及ハルピン旅順間の鐵道敷設權,鑛山採掘權。
       - 關東州の租借。
     - ②獨
       - 山東省內の鐵道敷設權と鑛山採掘權。
       - 膠州灣の租借。
     - ③英‥威海衞及九龍半島の租借。
     - ④佛‥廣東,廣西,雲南の鑛山採掘權と廣州灣の租借。
     - ⑤日‥福建省不割讓條約。
   - ㋺清國民の排外思想熾烈。
2. 經過
   - ㋑義和團の蜂起
     - ①鐵道・敎會襲擊と外人宣敎師の慘殺。
     - ②北京亂入と列國公使館襲擊‥官兵の參加。
     - ③獨公使及我が公使館書記生慘殺さる。
   - ㋺鎭定‥日英米佛露獨墺伊の共同出兵と日本軍の活躍。
3. 結果‥清國和を乞ふ
   - ①日獨へ謝罪使派遣。
   - ②列國へ償金(四億五千萬兩)。

參考問題 ○義和團。(五高、海兵、陸士、臺南工)

371. 大正三年青島陷落以後大正十一年膠州灣還附までの支那問題に關する我が國と支那及び米國との關係 (京城大)

1. 米國の對支進出策‥日露戰役後に於ける對日態度の一變。
2. 日支二十一ヶ條條約(大正四年五月)
   - ㋑支那の革命と中華民國の成立‥日支條約更新の必要。
   - ㋺關東州の租借期限の延長其他滿蒙の特殊利權協定。
   - ㋩山東省に於ける舊ドイツ利權の繼承。
   - ㋥支那人の誤解と排日運動の動因。

3. 日米共同宣言（大正六年十一月）
   - ㋑二十一ヶ條々約に對する米國の猜疑と日米外交文書の交換。
   - ㋺米國は日本の滿蒙に於ける特殊利權の確認。
   - ㋩支那の獨立保全，商工業の機會均等主義の支持。
4. ワシントン會議（大正十・十一年）
   - 九ヶ國條約の締結（大正十一年）
     - 支那の領土保全。
     - 機會均等主義，門戸開放主義の尊重。
   - 日本の膠州灣還付（大正十一年）。

372. ペリー來朝以來の日米關係

1. ペリーの來朝と和親條約
2. ハリスの來朝と通商條約
   （270參照）
3. 明治維新以來學者宗教家の來朝と文化への影響。
4. 明治三十年頃，邦人の米國移住，兩國の關係極めて親善。
5. 明治三十八年日露媾和會議斡旋。
6. 日露戰後兩國關係の險惡と排日問題‥加州に於ける我が學童の就學禁止。
7. 日米覺書交換（紳士協約）（明治四十一年）
   - 大平洋上に於ける兩國の自由平穩の發達。
   - 領土の現狀維持。
   - 清國の領土保全と機會均等主義尊重。
8. 米國の滿洲鐵道中立提議（明治四十三年）。
9. 日支條約（大正四年）締結後の排日問題と日米共同宣言（大正六年）。
10. ワシントン會議と支那問題。（四國協約、九ヶ國條約等）
11. 排日法案（大正十三年移民問題）の制定と兩國感情の疎隔。
12. 現今。（ロンドン條約，滿洲問題、ロンドン會議等々）

參考問題 ○日英米三國間に於ける最近の時局（東美衛）

373. 明治三十八年以後現代に至る迄の外交問題一覽表

事件	摘要	年月	西暦
1. 日英攻守同盟	印度，支那の保全と攻守同盟	明治 三八・八	1905
2. ポーツマス條約	日本の優越權確認，樺太南半割讓等	同 三八・九	同
3. 第二日韓協約	韓國を保護國とする	同 三八・一一	同
4. 日佛協約	東亞の現狀維持，清國保全	同 四〇・六	1907
5. 日露協約	東亞の現狀維持，清國保全	同 四〇・七	同
6. 日米外交文書交換	太平洋の現狀維持，機會均等主義	同 四一・一一	1908
7. 日露新協約	滿洲の現狀維持	同 四三・七	1910
8. 日韓併合條約	韓國併合	同 四三・八	同
9. 日英第三次條約	攻守同盟の改訂	同 四四・七	1911
10. 條約改正	關稅自主權の確立	同 四四・九	同
11. 對獨宣戰	青島陷落，獨領南洋占領	大正 三・八	1914
12. 日支條約	二十一ヶ條約，關東州租借延長	同 四・五	1915
13. 日米共同宣言	支那に於ける我國の特殊利權，支那の門戸開放機會均等主義の支持	同 六・二	1917
14. シベリヤ出兵	チエツコ救援，シベリヤの秩序維持	同 七・八	1918
15. 對獨媾和條約成立	山東省利權獲得，國際聯盟加入	同 八・六	1919
16. ワシントン會議	軍備制限，四國協約，膠洲灣還附，九ヶ國條約	同 一〇・一一	1921
17. アメリカの我が移民禁止	排日法案の制定と兩國感情の疎隔	同 一三・七	1924
18. 日露國交恢復	日露親善（尼港事件）（大正九年）	同 一四・一	1925
19. ジユネーブ會議	日，英，米海軍協定決裂	昭和 二・六	1927
20. 山東省出兵	居留民保護（南京事件）（濟南事件）	同 二・七	同

21.	不戰條約	世界の平和確立の爲	同 三・八	1928
22.	ロンドン條約	軍備（補助艦）制限	同 五・一	1930
23.	滿洲事變	特殊權益保護の爲滿洲出兵	同 六・九	1931
24.	上海事變	居留民保護の爲上海出兵	同 七・一	1932
25.	滿洲國承認	攻守同盟締結	同 七・九	同
26.	國際聯盟離脫	滿洲問題に對する列國の强制	同 八・三	1933
27.	世界一般軍縮會議	ジュネーブに於て	同 八・一	同
28.	世界經濟會議	不景氣打開(不成功)	同 八・六	同
29.	日印通商條約	日印通商關係打開	同 九・四	1934
30.	ロンドン軍縮會議	軍備の平等權主張，脫退	同 一一・一	1936

374. 德川・明治兩時代の日英の關係（神皇）

1. 德川時代（268參照）
2. 明治時代
   - ①公使の交換駐劄……（明治 三 年）
   - ②小笠原島の領有主張……（同 十三年）
   - ③改正條約に調印……（同二十七年）
   - ④日英同盟の締結。（次問 375參照）

參考問題 ○我が國が英吉利と交通を始めてから日英同盟を結ぶまでの關係。（一高）

375. 日英同盟に關し知る所を記せ（水戸高、靜高、八高、廣高師、大商大、東商大專、長高商、鹿北高商）

1. 同盟の締結（明治三十五年）
   - ①露國の東亞經略に對する東洋平和確保の爲，期限五箇年。
   - ②清韓の領土保全，機會均等，門戶開放と清韓に於ける日英兩國の利權確保。
   - ③兩締盟國の一方が他の一國と戰ふ時他の一方は嚴正中立，若し二國以上と戰ふ時は他の一國は之を助くべき事。
2. 同盟の擴張（明治三十八年）
   - ①東亞及印度に於ける兩國の領土權保護。
   - ②攻守相援くること。期限十箇年。
3. 同盟の改訂（明治四十四年）
   - ①兩締盟國の一方が第三國と仲裁々判條約を締結したる時は他の一方とその第三國と開戰しても參戰の義務なきことを協定。
   - ②更に十ヶ年繼續。
4. 同盟の廢棄……大正十一年のワシントン會議に於ける四國條約（日英米佛）の締結實施と共に廢棄。

參考問題 ○日英同盟の成立を促したる原因。（商經）

376. 明治大正時代に於ける我が國際的地位の向上について述べよ

1. 維新當時に於ける國勢の微弱……不平等條約。
2. 獨立國家として地位向上……朝鮮事變（明治十五、七年）と天津條約（同十八年）。
3. 日清戰役と國威の發揚……東洋の最强國として地位獲得。
4. 條約改訂の實現……治外法權の撤廢と關稅自主權の回復（361參照）。
5. 北清事變に於ける國威の發揚。
6. 日英同盟の締結による國際的地位の加重。
7. 日露戰役により一等國の班に入り列强と大使交換。
8. 世界大戰の結果五大强國の一に列す。
9. 軍縮會議には三大海軍國として世界平和維持に磐石の重きをなす。

※ 最近國際聯盟及軍縮會議の脫退により國際的孤立の狀態にあるも依然その地位は最高峯に在り。

377. 世界大戰に於ける日本の活動とその結果

1. 參加の理由
   - ①日英同盟の條章に基く國際的信義。
   - ②東洋平和の確保。
2. 日本の活動
   - ①對獨宣戰（大正三年八月）と獨逸の東洋根據地膠州灣の占領（同十一月）。
   - ②獨領南洋諸島（赤道以北）の占領……英海軍と共力獨艦隊の掃蕩。

③地中海出動‥聯合國の船舶保護。
④西比利亞出兵‥チエツコ軍援助，治安維持，居留民保護。

3. 結果
①パリー媾和會議‥五大國の一として重きをなす。
②膠州灣租借權の繼承(後支那に還付)。
③山東省に於ける獨逸利權の繼承。
④赤道以北舊獨領南洋諸島の委任統治權獲得。
⑤國際聯盟の常任理事國として世界問題に干與。

參考問題 ○日獨戰役の原因。(普文)
○青島占領の理由。(廣高師)
○世界大戰と我國との關係につき次の二項に答へよ(陸士)
1. 世界大戰中我が國は如何なる活動をなしたか。
2. その結果我國の獲たる利權。
○パリー媾和會議。(松山高)

378. 世界大戰の我が國に及ぼせる影響 (水戸高、專檢)

1. 我が國の得たる利權。(377の3參照)
2. 國內產業の隆盛
歐洲への物品補給と好景氣來。
國民の物質主義と奢侈の風誘發。
3. 國際的地位の向上と國民の自覺(五大强國、三大海軍國の一)。

參考問題 ○世界大戰に我が國の參加したる事由及び同戰役が我が國際的地位に及ぼせる影響。

379. 我が國の關與せる軍備縮少會議の大要

1. ワシントン會議 (大正十、十一年)
各國の軍備競爭と世界の不安‥‥米大統領ハーデイングの軍縮提議。
參加國‥日・英・米・佛・伊・支・白・蘭・葡の九ヶ國。
全權‥德川家達，加藤友三郎，幣原喜重郎。
①海軍々備制限條約
主力艦・航空母艦及備砲口徑の制限。
日(3)英(5)米(5)佛(1.75)伊(1.75)の比率。

②四國協約
日・英・米・佛の太平洋に於ける領土權の尊重。
太平洋問題の紛議の解決。(協約國共同會議による)。
太平洋防備の協定と日英同盟の廢棄。
③九ヶ國條約‥支那の領土及自主權の尊重，機會均等・門戶開放主義の確認。
④日支・英支・佛支條約‥日(膠州灣)英(威海衛)佛(廣州灣)の租借地還附。

2. ジユネーブ會議 (昭和二年)
①米大統領クーリツヂの提議，日英米參加。
②全權‥齋藤實，石井菊次郎。
③補助艦制限問題‥主張の不一致‥不成功。

3. ロンドン會議 (昭和五年)
①英國の招請。日・英・米の參加と佛・伊の傍聽。
②全權‥若槻禮次郎，財部彪。
③補助艦制限條約‥日(7弱)英(10)米(10)の比率。
④期間‥昭和十一年(A.D.1936)まで。

4. 世界一般軍縮會議 (昭和八年より)
①ジユネーブに於て，陸・海・空の全軍備の縮少討議。
②參加國五十有餘。獨逸の脫退と前途絕望。

5. ロンドン豫備會議 (昭和九年)
昭和五年ロンドン條約の改定期昭和十一年(1936)の會議を圓滑ならしめる爲日・英・米會議‥主張不一致。
全權‥山本海軍少將。

6. ロンドン會議 (昭和十、十一年)
①ワシントン條約及昭和五年のロンドン條約の修正存續に關する會議。
②我が國の軍備平等權主張‥脫退。
③全權‥永井松三，永野修身。

參考問題 ○ワシントン會議及び山東問題の解決。(六高)
○ワシントン會議。(松本高、靜高、大阪高、山口高、七高)
○世界大戰以來我國の關係した重大なる國際會議(條約)について述べよ。
○ロンドン會議。(高校 高商、豐北高商、海兵、豐南工、東美術)

380. 外交文書，協約，條約の相違點及び大使と公使の差を述べよ

1. 外交文書
   - 一國の外交官が駐在國の外務大臣との間に往復する文書。
   - 覺書，最後通牒，聲明書(一事件に關し自國の意見又は希望を開陳するもの)。
2. 協約(協商)‥國家相互間の法律關係の設定。
3. 條約‥國家相互間の法律關係の設定に對し元首の批准をなしたるもの。
4. 大使と公使
   - ①外務大臣の監督下に外交事務を處置する爲外國に派遣せられたる外交官。
   - ②君主の名代を大使とし，政府の代表を公使といふ。

381. 國際聯盟 (League of Nations) (遞信、京城大)

1. 組織
   - ①米大統領ウイルソンの提唱(大正九年二月組織)。
   - ②本部‥スイスのジユネーブ。
   - ③總會，理事會，事務局，常設國際司法裁判所等。
2. 目的
   - ①紛爭の平和的解決と戰爭の防止(軍備制限)。
   - ②人類共同の幸福增進(婦人兒童賣買禁止、疾病の豫防撲滅、勞働條件の改良)。
3. 參加國
   - ①全世界的(五十有餘)。
   - ②米國の不參加と日本・獨逸の脫退。
   - ③ソビエート聯邦の參加。

參考問題 ○不戰條約。
○委任統治。

〔終〕

附 錄 (一)

●昭和五年以降國史科學校別入學試驗問題集

I. 高等師範學校及び陸海軍諸學校

◇東京高等師範學校

○昭和五年度

①上古に於ける韓土內附の顚末に附きて記せ。(18參照)
②鎌倉時代の佛教及び文學に就きて記せ。(139・142)
③次の各項に就きて記せ。
宗門改(265) 天平時代(49參照) 櫻田門外の變(246參照)
廢藩置縣(331)

○昭和七年度

①藤原時代文化の特徵に就きて記せ。(87)
②江戶幕府の對大名政策に就きて記せ。(223)
③次の各項に就きて記せ。
貞永式目(134) 聚樂第(309) 下關條約(369參照)

○昭和九年度

①鎌倉幕府創設後明治維新前に於ける皇政復古運動の顚末概要。(130. 243・248參照)
②奈良時代に於ける文學美術の特徵。(47)
③江戶幕府が執りたる鎖國政策の影響。(260)
④次の各項の解說。
㈠帝國憲法の發布(341參照) ㈡古事記傳(293參照)
㈢鐵砲の傳來(195參照) ㈣班田收授(33)

○昭和十年度　(東洋史)……參考

①唐と我が國との文化的關係。
②ロシヤの極東經略概要。
③下記人物の事蹟及び各項の解說。
　㋑鄭　和　　㋺製紙法の發明
　㋩榮　浪

○昭和十一年度

①我國上古の氏族制度。(17參照)
②鎌倉時代に起りたる新佛教の一般的特徵と其の宗派及宗祖。(139)
③下記の人物及び各項の解說。
　㋑藤原良房(74)　　㋺本居宣長(293參照)
　㋩日本書紀(48參照)　　㋥條約改正(361)

◇廣島高等師範學校

○昭和五年度

①日英同盟の沿革を記せ。(375)
②令の官制を說明せよ。(38參照)
③江戸時代に於ける重要なる文學者五名を列擧せよ。(298參照)

○昭和七年度

①氏族制度を說明せよ。(17參照)
②鎌倉時代の新佛教に就きて述べよ。(139參照)
③新井白石の事蹟を記せ。(229)

○昭和九年度

①我が國體の尊嚴無比なる所以を簡敍せよ。(1)
②我が國に於ける政權推移の大要を記せ。(354)
③奈良・鎌倉兩時代の文化を比較せよ。(84・141參照)

○昭和十一年度

①神武天皇御卽位以後今日までの我が歷史を五時代に區分し且つ其の理由(根據)を述べよ。
②我が國體の特異性を說明するのに最も適切であると思はれる歷史事實十箇を列擧せよ。
③海外諸國より輸入した異國文化の日本化とは如何なる意味か，國史上に實例を求めて之を說明せよ。(61・62・81・82等參照)

◇陸軍士官學校

○昭和五年度

①遣唐使の派遣と停廢とに就きて述べ，且つ其の我が國に及ぼせし影響を附記せよ。(94・95參照)
②文永の役に就きて記せ。(123)
③儒學の發達に就きて記せ。(296參照)

○昭和六年度

①大寶令に定められたる地方官制に就きて記せ。(38參照)
②東山時代の美術工藝に就きて記せ。(183)
③世界大戰役と我が國との關係に就きて次の二項に答へよ。(377)
　㋑この戰役中我が國は如何なる活動をなせしか。
　㋺其の結果我が國の獲たる利權。

○昭和七年度

①平安朝末に於ける地方の狀態に就きて述べよ。(78)
②德川時代に於ける國學の發達と尊皇論との關係に就きて述べよ。(293・312參照)

○昭和八年度

①德川幕府の對諸侯策を問ふ。(223)
②次の事項に就きて述べよ。

㋑法隆寺(25)　　㋺勸學院(64參照)
㋩養和團(370參照)

○昭和九年度

①鎌倉幕府の政治組織(中央のみ)に就きて述べよ。(116)
②下記の二項に就きて記せ。
㋑記錄所(99)　　㋺神奈川條約(271)

○昭和十年度

①神武天皇御即位後の御政治に就きて記せ。
②次の事項の內，今上天皇の攝政をなし給ひし御時に起りし三事項の上に○印を附せよ。
巴里媾和大會議　教育勅語發布　ポーツマス條約締結
日・英・米・佛四國協約　日英同盟廢棄　奉天大會戰
ロンドン海軍條約　膠州灣地方還附　青島陷落
③江戶幕府創業時代に於ける日本人の海外活躍に就きて記せ。(251)

○昭和十一年度

〔第一問題〕
①平安時代に於ける佛教の日本化に就きて述べよ。(80·81·82參照)
②我が國力の發展に伴ひ「條約改正」は如何に進捗したるか。(361)
〔第二問題〕
①懷良親王の御事蹟に就きて述べよ。(161)
②次の三項に就きて記述せよ。
㋑風土記(48參照)　　㋺書院造(184)
㋩和學講談所(285·293參照)

◇陸軍經理學校

○昭和十一年度

①大寶律令の大要を述ぶべし。(38)

②　(西洋史)

◇海 軍 兵 學 校

○昭和五年度　(海經に同じ)

①朝鮮・臺灣・樺太・關東州及び南洋群島が我が統治下に入りし由來を簡單に記せ。(356)
②㋑下記稱呼は凡そ何時頃のことなりや。且つ其の著名なる現存建築物を擧げよ。(16·49·88·183·217參照)
飛鳥時代　天平時代　藤原時代　東山時代　桃山時代
㋺下記史實を年代順に置換へよ。
延曆の治　島原の亂　厩戶皇子の攝政　ペリー來朝　弘安の役
鐵砲傳來　大化改新　頼朝幕府を開く　前九年の役　應仁の亂
③下記に就き知れる處を簡單に記述せよ。
野見宿禰(6)　本地垂迹說(81)　御成敗式目(134)
神皇正統記(156參照)　荻原重秀(226參照)

○昭和六年度　(海經に同じ)

①鎌倉時代に於ける武士の氣風及び其の我が文化に及ぼせる影響を述べよ。(144)
②次の人々が政權掌握又は覇業大成の後朝廷に對し奉りて執りたる態度を略述せよ。
源頼朝(118)　北條義時(130)　足利義滿(168)　織田信長(202)
豐臣秀吉(203)　德川家康(220)
③下記の事項に就き知る所を記せ。
德政(173)　藤原百川(56)　鳥佛師(16參照)　孔舍衙坂の戰(4參照)
國學の四大人(293參照)

○昭和七年度　(海經に同じ)

①國初より大化の新政に至るまでの我が皇威伸展の概要を記せ。(22)
②江戶幕末に於ける海防論と我が邊要の事情とに就て略述せよ(273の2・276參照)

③下記につき知る所を記せ。
　渤海の入貢(46參照)　後藤祖乘(183參照)　北清事變(370)
　平安遷都(58)　三奉行(222)

○昭和八年度
①鎌倉時代に於ける新佛教隆昌の理由を述べよ。(139參照)
②聖德太子の治國上の御理想を問ふ。(24參照)
③德川幕府は治國平天下の爲に學問の奬勵に努めたり，その影響を記せ。(287)
④下記の事項につき知る所を簡述せよ。
　㋑四大節　　㋺鴻ノ臺
　㋩倘　兵(112)　　㋥三　藏(28)
　㋭四條畷(155參照)

○昭和九年度　(海軍に同じ)
①紀元以後明治維新に至る政權推移の大要を記せ。(354)
②元寇の顚末を略述し戰捷の原因を擧げよ。(123)
③下記に就き知る所を記せ。
　㋑伊勢外宮(13の5參照)　　㋺調伊企儺(18の5參照)
　㋩忍壁親王(37の4參照)　　㋥三　蹟(88の3參照)
　㋭隱　元(283參照)　　㋬靖獻遺言(290の5參照)

○昭和十年度　(海經に同じ)
①上古より中古に至る蝦夷經略の概要を記せ。(97)
②楠木正成一族の勤王と其の後世に及ぼせる影響を述べよ。(155)
③下記に就き知る所を記せ。
　㋑鹿ヶ谷の會合(108)　　㋺目　付(222參照)
　㋩角倉了以(310)　　㋥陸奥宗光(361・369參照)
　㋭ロンドン會議(375參照)

○昭和十一年度

①我が建國の精神を略述し且つそれが下記の事項に如何に現はれたるかを說明せよ。(1・24・55・327等參照)
　㋑十七條憲法　　㋺和氣清麻呂
　㋩明治維新
②關ヶ原合戰が起るまでの經過と戰後の結果に就きて述べよ。(218)
③下記につき知れる所を記せ。
　㋑道　元(139參照)　　㋺松下村塾(320參照)
　㋩榮　浪(20參照)　　㋥八　幡　船(196)
　㋭日本書紀(48參照)

◇海軍經理學校

○昭和五・六・七年度　(海軍兵學校に同じ)

○昭和八年度
①大化の改新を行ひし理由及び新政の大綱を問ふ。(31・32)
②江戶幕府が鎖國政策を採るに至りし始末を說明せよ。(260)
③下記につき知る所を記せ。
　笠縫邑(7參照)　岩佐又兵衞(301)　五攝家(135)
　江華島事件(359參照)　菊池武光(154・161)

○昭和九・十年度　(海軍兵學校に同じ)

○昭和十一年度
①奈良時代に於ける國史地誌の撰修に就いて述べよ。(48)
②源平二氏の對立より平氏滅亡までの經緯を簡記せよ。(104・105・106)
③室町時代以後德川末期に至る我が對外貿易の變遷を述べよ。(195・211・254・266等參照)

◇海軍機關學校

○昭和五年度

①次の詔勅の線を施せる部分を歴史的に講解せよ。

我國の軍隊は世々天皇の統率し給ふ所にそある。昔神武天皇躬つから大伴物部の兵ともを率ゐ，中國のまつろはぬものともを討ち平け給ひ，高御座に即かせられて天下しろしめし給ひしより，二千五百有餘年を經ぬ。此間世の樣の移り換るに隨ひて兵制の沿革も亦屢々なりき。

古は天皇躬つから軍隊を率ゐ給ふ御制にて，(1)時ありては皇后皇太子の代らせ給ふこともありつれど，大凡兵權を臣下に委ね給ふことはなかりき。(2)中世に至りて文武の制度皆唐國風に倣はせ給ひ，六衞府を置き，左右馬寮を建て，防人なと設けられしかは，兵制は整ひたれとも，打續ける昇平に狃れて朝廷の政務も漸文弱に流れけれは，兵農おのつから二に分れ，古の徴兵はいつとなく壯兵の姿に變り，遂に武士となり，(3)兵馬の權は一向に其武士ともの棟梁たる者に歸し，世の亂と共に政治の大權も亦其手に落ち凡七百年の間武家の政治とはなりぬ。世の樣の移り變りて斯なれるは人力もて挽回すへきにあらすといひなから，且は(4)我國體に戻り且は我祖宗の御制に背き奉り淺間しき次第なりき。

降りて弘化嘉永の頃より德川の幕府其政衰へ剩(5)外國の事とも起りて其侮をも受けぬへき勢に迫りけれは，朕か皇祖仁孝天皇・皇考孝明天皇いたく宸襟を惱し給ひしこそ恭くも又惶けれ。然るに朕幼くして天津日嗣を受けし初，征夷大將軍其政權を返上し，(6)大名小名其版籍を奉還し，年を經すして海內一統の世となり，古の制度に復しぬ。……(下略)

②大寶律令と貞永式目とを比較せよ。(137)

③次の各項に就き知れる所を簡單に述べよ。

太安麻呂。(48參照)

山內豐信(容堂)。(248參照)

竹內式部事件。(315)

人臣攝政の始。(68參照)

雜訴決斷所。(149參照)

○昭和六年度

①明治初期までの外來思想輸入の歴史及びその外來思想の國家・國民に及ぼせし影響を論述せよ。(333參照)

②寬政以來日露戰前に至るまでの日露關係を略述せよ。(362)

③次の諸書の著作者(又は撰者)及び作成年代を擧げ如何なる書なるかを略述せよ。

日本書紀(48)　古事記傳(293)　土佐日記(90)　西洋紀聞(295)
神皇正統記(159)　海國兵談(276)　枕草紙(30)　國姓爺合戰(304)

○昭和七年度

①國史の編纂撰述の歴史及びその國家社會に及ぼせる影響を略述せよ。(294)

②我が軍備，兵制の歴史的變遷を略述せよ。(355)

③次項各時代政府の財政經濟狀態を略述せよ。

㋑大化改新前に於ける。(29參照)　㋺藤原隆盛期に於ける。(93參照)
㋩元寇役後に於ける。(124參照)

○昭和八年度

①鎌倉時代より文化文政に至る尊王思想の發達を略述せよ。(314)

②日韓併合の顚末を記せ。(360)

③次項に答へよ。

弓月君(14參照)　三浦安針(274)　戸籍の始(5・34參照)
德　政(173)　衞　士(38參照)　守　護(122)
群書類從(293參照)

○昭和九年度

①わが立憲政體確立の顚末を述べよ。(341)

②德川初期に於けるわが國人の海外發展を略述せよ。(251)

③次の諸項について述べよ。

㋑出雲大社(3參照)　㋺宅磨爲成(88參照)

㋩青蓮院流(御家流)(145參照)　㋥粟田口吉光(145參照)

㋭書院造(184)

④源頼朝を論ぜよ。(118參照)

○昭和十年度

①日清戰役以後現今に至る我が外交を略述せよ。(373參照)

②奈良朝時代に於て佛教の國家社會に及ぼせる影響を略述せよ。(52・54參照)

③次の神社の所在地及び其の祭神を記せ。

㋑鹿島神宮　㋺霧島神宮

㋩香椎宮　㋥鎌倉宮

㋭北野神社　㋬談山神社

㋮護王神社　㋯湊川神社

㋰藤島神社　㋱建勳神社

④日本歷史を學びて各自の最も感銘したる史實を擧げその理由を述べよ。

○昭和十一年度

①次の憲法，詔勅發布の年時を記し，その聖旨の大要を謹述せよ。

㋑憲法十七條　㋺大化改新の詔

㋩五箇條の御誓文　㋥國會開設の詔

②中世以來武家政治の國家に致せし功罪を略述せよ。

③次の諸項を略述せよ。

㋑防　人(38・355參照)　㋺豐臣秀吉の檢地(208參照)

㋩新井白石の貨幣政策(229參照)　㋥二宮尊德(238參照)

㋭大伴家持(49參照)

II. 各高等學校

◇第一高等學校

○昭和五年度

①蝦夷人を征服同化したる始末を記せ。(97參照)

②織田信長及び豐臣秀吉の皇室尊崇の事蹟を記せ。(202・203)

③新井白石の建議によつて江戸幕府の行ひたる重要事業を記せ。(229參照)

○昭和十年度

①敬神崇佛の調和の必要があつた理由と，調和の目的を以て行はれた重なる實例とを述べよ。(81・82參照)

②征夷大將軍の沿革を記せ。(117)

③德川時代に於ける西洋學術の發達した有樣を記せ。(296參照)

④五箇條御誓文の第一條を記し，その主旨の實現された事情を述べよ。(325・341參照)

◇第二高等學校

○昭和七年度

①大化の改新と明治維新の新政とを比較せよ。(330)

②江戸幕府時代に於ける邦人海外發展の狀況を述べよ。(251)

③次の諸項を說明せよ。

渤　海(46・96參照)　記錄所(99)　頼山陽(291參照)

天龍寺船(159)　遼東半島(369參照)

○昭和十年度

①明治二十三年十月三十日明治天皇教育に關する勅語を下し給ふ以前の思想を觀察せよ。(340)

②莊園の成立と崩壞とを述べよ。(75・76參照)
③我が國體上より武家政治の當否を批判せよ。(136)
③江戸幕府が鎖國を勵行したる理由及び其の利害如何。(260)

◇第三高等學校

○昭和七年度

①上古より近世に至る間に於ける我が國と支那との關係を略述せよ(21・94・96・123・195・210・254參照)
②各時代を代表し得べき文學者五名を擧げ，其の代表し得る理由を明示せよ。(304)
③參覲交代の影響を問ふ。(224)
④明治初年に於ける歐米文明の採用に就きて記せ。(334)

○昭和十年度

①平安朝初期(醍醐天皇の頃まで)の學問及び學校に就いて記せ。(64・86)
②德政令に就いて知る所を記せ。(173)
③帝國憲法制定の由來を問ふ。(341參照)
④左の四項に答へよ。

㋑增　鏡	㋺一條兼良(181)
㋩旗　本(222參照)	㋥青木昆陽(231參照)

◇第四高等學校

○昭和五年度

①平安時代の美術・工藝に就きて記せ。(88)
②江戸時代に於ける國學の興起に就きて記せ。(293參照)
③次の事項を略解せよ。

齋　藏(28參照)　內　覽(129參照)　守　護(122)
昌平黌(285參照)　公武合體(247)

○昭和八年度

①德川幕府の鎖國政策の由來及びその影響に就きて記せ。(260)
②我が國に於ける立憲政體の確立に就きて記せ。(341參照)
③次の事項に就て記せ。

皇紀と西曆との區別　　班田收授(33)　　德　政(173)
海國兵談(276參照)

④次の人々の事蹟を記せ。

聖德太子(24)　　李成桂(164)　　竹內式部(315)
青木文藏(昆陽)(231參照)

○昭和十年度

①奈良平安時代，室町時代及び明治大正時代の三時代に於ける日支關係を比較せよ。(94・195・368參照)
②武家政治成立の由來を述べよ。(115)
③織田信長，豐臣秀吉の勤皇の事蹟を述べ且その事蹟が時代の要求に合致したる所以を說明せよ。(203)
④江戸時代に於ける主なる學問の種類及びその發達の狀況を述べよ(288)

◇第五高等學校

○昭和七年度

①鎌倉時代の武士道に就きて述べよ。(119・120參照)
②井伊直弼の違勅調印問題と安政の大獄との關係を說明せよ。(245・246參照)
③憲法發布に至るまでの經過を述べよ。(341參照)
④次に就きて記せ。

防　人(38・355參照)　　攝政關白(68)　　後藤祝乘(183參照)
義和團(370參照)

○昭和十年度

①奈良朝、平安朝時代に於ける律令制度の日本化に就いて述べよ(62)
②武士道と儒教・佛教との關係を述べよ。(120參照)
③安土・桃山時代に於ける西洋文化の影響に就いて記せ。(195の4參照)
④享保の治に就いて述べよ。(230)
⑤次の諸項に就いて記せ。
㋑犬上御田鍬(21參照)　　㋺祥瑞五郎太夫(183參照)
㋩ロンドン會議(379參照)

◇第六高等學校

○昭和八年度

①江戸時代に於ける洋學の興起及び其の輿論に及ぼせし影響に就きて述べよ。(296)
②上古及び中古に於ける歸化人と其の文化的貢献とに就きて述べよ。(14參照)
③室町時代と安土桃山時代との文化の特色を比較せよ。(216)
④次の各項に就きて述べよ。
金澤文庫(143)　　山崎闇齋(290の5參照)　記錄所(99)

○昭和十年度

①室町時代の學問・文學につきて述べよ。(180)
②平安時代に於ける政權推移の大要につきて述べよ。(101參照)
③明治元年より同十年に至る間の年表を作り政治上及び文化上の重要事項を記入せよ。(總說參照)
④次の諸項につき略說せよ。
㋑御朱印船(252)　　㋺屯倉(17參照)
㋩水野忠邦(235)　　㋥繪卷物(148)
㋭淡海三船(49參照)

◇第七高等學校

○昭和六年度

①天智天皇の時代以前に於ける我が國の朝鮮半島經營に就きて略述せよ。(18)
②建武中興に就きて述べその失敗したる理由を說明せよ。(149)
③江戸時代の美術・工藝に就きて記せ。(300)
④次の各項に就きて記せ。
六國史(90參照)　繪卷物(148)　淺見絅齋(290參照)
公事方定書(239參照)　ワシントン會議(379參照)

○昭和八年度

①奈良時代に於ける國史及び地誌の撰修に就きて記せ。(48)
②江戸幕府の諸大名に對する政策に就きて記せ。(223)
③ポーツマス條約に就きて記せ。(365)
④次の各項に就きて記せ。
北畠親房(156)　　渤海(46・96參照)　杉田玄白(296參照)
三管領(165參照)

○昭和十年度

①佛教の傳來と其の影響に就いて。(10・11參照)
②武士道の起原と其の發達に就いて。(119・120參照)
③江戸時代に於ける國學の勃興と尊皇思想の發達に就いて。(293・314參照)
④　㋑鎖國(260・278・279參照)　㋺ワシントン會議(379參照)

◇第八高等學校

○昭和五年度

①日本歷史に現はれたる外寇を略述せよ。(357參照)

②崇神天皇の御事蹟を記せ。(5)
③次の事項に就きて記せ。
六國史(90參照)　僧　兵(112)　司馬江漢(300參照)
④次の人及び地に就きて略述せよ。
舍人親王(48參照)　北畠顯家(154參照)　渤　海(46・96參照)
平　戸(259)　長久手(206參照)

○昭和八年度

①下記の各年號を時代順に配列し其年の重なる事件名を記せ。
建武元年　承久三年　天文十二年
天正十年　和銅三年　延曆十三年
大化元年　壽永四年　保元元年
弘安四年　嘉永六年　元祿十五年
慶長五年　慶應三年
②平安初期に於ける蝦夷經營に就きて記せ。(97參照)
③鎌倉時代の佛教に就きて記せ。(139)
④江戸幕府の大名に對する政策を述べよ。(223)
⑤下記事項に就きて記せ。
刀伊の入寇(96參照)　正倉院(50)　德川光圀(313)

○昭和十年度

①尊皇論の沿革を記せ。(312・314參照)
②奈良時代に於ける日本と大陸との交通に就いて述べよ。(94參照)
③建武中興の經過を述べよ。(149)
④江戸初期に於ける邦人の海外發展に就いて述べよ。(251)
⑤次の事項に就いて記せ。
㋑法隆寺(25)　㋺踏　繪(262)
㋩日英同盟(375)

◇新潟高等學校

○昭和七年度

①國史の時代區分を順を追うて記し，各時代の概略年數を記せ。(緒說參照)
②武士道につきて記せ。(119・120參照)
③明治維新以前に於ける西洋文明輸入の概要を記せ。(275)
④我が帝國議會の開設に至る次第を記せ。(341參照)

○昭和八年度

①我が國と支那との關係の大要を時代順に記せ。(256・368參照)
②我が國の兵役制度の變遷を記せ。(355)
③執權北條氏の功罪に就きて記せ。(127)
④江戸時代に於ける武士教育及び庶民教育の施設を記せ。(285)

○昭和十年度

①奈良時代の文化と平安時代の文化との特色を例を擧げて說明せよ(84)
②戰國時代に於ける勤皇の事蹟につき記せ。(193參照)
③江戸時代に於ける洋學の輸入と其の影響とにつき記せ。(296)
④明治以後に於ける我が國領土の擴大發展につき記せ。(356)

◇松本高等學校

○昭和六年度

(七高に同じ)

○昭和十年度

①我が國と隋唐との交通及びその我が國に及ぼしたる影響に就いて記せ。(21・94參照)
②江戸時代に於ける國史，古典の研究に就いて記し，且つその尊皇思想の勃興を促せる理由を說明せよ。(291・293參照)

③次の各項に就いて記せ。

㋑正 倉 院(50)　　㋥神皇正統記(156參照)

㋒條約改正(361)

◇山口高等學校

○昭和六年度

①次の記述に歴史上事實の誤があれば訂正して下さい。(若し誤あれば誤ある部分の右側に傍線——を引き，更にその部分の記述の訂正をすること)

天孫の降臨神武天皇建國の御偉業に始る我日本歴史は，景行天皇の四道將軍派遣，神功皇后の新羅征伐と展開する。ついで應神天皇の御代には佛教傳來し，後に聖德太子の國分寺建立となつて現れた。この聖德太子は，用明天皇の攝政として，大いに制度を改革せられた。その改革を，大化の改新と云ふ，又遣唐使派遣を始められたのもこの方である。平城奠都，平安奠都を經て，藤原氏專權時代となり，その時代の末武士興起し，源頼朝の鎌倉幕府創設となつた。時に建久三年(皇紀一八四〇)である。元寇の國難，建武中興に勤王精神の發露を見る。かくて室町時代になるが，この時代の末期，即ち天文十二年，キリスト教は種子島に漂着せるポルトガル人によつて傳へられた。

德川幕府は家康の開く處で，爾來約二百五十年間繼續した，がその末期，內憂外患の爲勢力失墜して，慶應四年(皇紀二五二七)德川慶喜大政を奉還した。於是明治天皇は，明治二年五箇條の御誓文を御發布になり，御親政の御方針を天下に告示せられた。爾來我國文化は駸々として進み，明治二十三年の憲法發布となり，その翌年には國會開設せられ，日清，日露の役，明治四十二年の韓國併合，大正三年の歐洲大戰參加，大正十一年十一月のベルサイユ講和會議參列となり，遂に今日の昭和聖代に到達した。

②次の事柄をなるべく簡單明瞭に說明せよ。

神 祇 官(41)　　金澤文庫(143)　　大 內 氏(198)

松下村塾(320參照)　　毛利敬親(242・331參照)

③開港勅許(慶應元年)に至るまでの日米・日露關係に就きて述べよ。(270)

④信長・秀吉・家康・家光四人の天主教に對する態度を述べよ。(204・263參照)

○昭和十年度

①聖德太子と天智天皇の兩御事蹟を比較し率りその歴史的關係を明かにせよ。(24・34參照)

②江戸時代學術の特長を述べ各學風を代表する最も著名なる學者各一名を擧げよ。(290・291・293・296參照)

③下記の事項を簡單に說明せよ。

㋑正 倉 院(50)　　㋥守護・地頭(122)

㋒倭　　寇(196)　　㋓東山時代(183參照)

㋔宗 門 改(265)　　㋕林 子 平(276參照)

㋖廢藩置縣(331)　　㋗伊藤博文(344)

㋘福澤諭吉(346)　　㋙ワシントン會議(379參照)

◇松山高等學校

○昭和六年度

①次の理由を問ふ。

㋑平氏滅亡の原因。(106參照)

㋥織田信長が群雄に先んじて，海內統一の事業を進捗させ得た理由。(202)

②鎌倉時代の文學に就きて記せ。(142)

③巴里講和に就きて記せ。(377參照)

④次の人物は　1 何時に　2 何地にて　3 如何なる事を爲したるか下記番號の下に記入せよ。

㋑阿倍比羅夫　1　2　3　(97參照)

㋥小早川隆景　1　2　3　(213)

㈥平野國臣　1　2　3　(242參照)
㈦北條早雲　1　2　3　(199參照)

○昭和七年度

①奈良・平安時代に於ける唐との交通を略述し併せて其の時代の文明に及ぼせし主なる影響を說明せよ。(94)
②德川幕府の諸侯に對する政策を述べ併せてこれを批評せよ。(223)
③次の名稱に就きて知る所を記せ。
太田持資(177)　島津齊彬(237)　蔚　山(214)
檢非違使(61)　吾妻鏡(142參照)

○昭和八年度

①奈良時代より德川時代に至る迄の間に於て編纂せられたる著名なる國史書を擧げ，且つそれぞれの著者の名，編纂の事情及び特色を示せ。(204參照)
②大化の改新及び鎌倉幕府・德川幕府の政治に於いて，地方の政治の組織制度を比較して各々の特徴を明かにせよ。(32・116・222參照)
③德川幕府は西洋諸國との交通及び其の文化の傳播に對して如何なる政策の變更を行ひしか。(254參照)
④下記事項に史的說明を加へよ。
記錄所(90)　足利義持(195の3參照)　遼東半島(369參照)

○昭和十年度

①大寶令に定められたる土地制度に就きて述べ且その崩壞するに至る事情を說明せよ。(76參照)
②德川時代に於ける江戸と大阪との都市としての特色を比較し併せて兩者の關係を考察せよ。(305參照)
③次の名稱に就きて知る所を記せ。
㋑賀名生(163參照)　㋺阿倍比羅夫(97參照)
㋩群書類從(293參照)
④次の事項に就きて知る所を記せ。

㋑新補地頭(133)　㋥地方官會議(341參照)
㋭連　歌(182)

◇水戸高等學校

○昭和七年度

①奈良時代及び平安時代に於ける學校に就きて記せ。(64參照)
②東山時代の美術工藝に就きて記せ。(183參照)
③信長・秀吉・家康の對宗教政策を述べよ。(204・263・281參照)
④日英同盟に關して知る所を記せ。(375)

○昭和八年度

①明治以前に於ける遷都に就きて記せ。(34・43・58・322・338參照)
②鎌倉幕府及び室町幕府の組織を述べ，之を比較せよ。(116・165・167參照)
③次に就きて知る所を記せ。
本地垂迹說(81)　公武合體(247)　藩　學(285參照)
刀　伊(96參照)

○昭和十年度

①我國に行はれたる佛教の諸宗派を列擧し，且つ之を傳へ或は開きし僧侶の名を記せ。(51・63・139・283參照)
②江戸時代に於ける我國とイギリスとの關係を述べよ。(268)
③五箇條の御誓文につきて記せ。(325)

◇山形高等學校

○昭和五年度

①奈良朝に於ける國史の編纂に就きて記せ。(48)
②御朱印船に就きて記せ。(252)
③新井白石の事業に就きて記せ。(229)

④條約改正の沿革に就きて記せ。(361)

○昭和八年度

①元寇以後室町末期に至る對支關係に就きて記せ。(195參照)
②洋學の起源及び其の發達に就きて記せ。(295・296參照)
③本地垂迹說に就きて記せ。(81)
④五箇條の御誓文の趣旨を述べよ。(325)

○昭和十年度

①遣唐使の派遣及び其の停止が我が國の文化に及ぼしたる影響について述べよ。(94・95參照)
②德川氏の大政奉還後廢藩置縣に至るまでの經過を述べよ。(332)
③次の各項に讀方を附し且つ之を解說せよ。
㋑和銅開珎(57)　㋺神皇正統記(156)
㋩下剋上(192)　㋥踏　繪(262)
㋭貞永式目(134)

◇佐賀高等學校

○昭和七年度

①武士の起源及び彼等が勢力を得るに至りし所以を說明せよ。(77)
②江戶幕府の外國に對する方針は如何に變りゆきしか，又それに伴ひて如何なる結果を生ぜしか。(254・260參照)

○昭和十年度

①守護地頭の設置，建武中興，廢藩置縣は何故にいづれも國史上の重大事件の中に數へられるか。
②江戶幕府の法令につきて敍述し，且それ等が如何なる効力をあらはしたるかを說明せよ。(221・239參照)

◇弘前高等學校

○昭和七年度

①我が武家政治の國史上の意義を說明し特に次の條項を詳述せよ。(244參照)
㋑武家政治は何故成立せしや　㋺武家政治崩壞の遠因・近因
②推古時代，奈良時代，平安時代の我が文化の特色を當時の外國關係によりて說明せよ。(15・84・86參照)
③室町時代より江戶時代に至る我が佛教と政治との關係を說明せよ(234)
④次の事項を說明せよ。
律　令(37)　國分寺(54)　記錄所(99)
足高の制(230)

○昭和八年度

①我が政權推移の大勢中，氏族政治・攝關政治及び立憲政治の成立せし顚末を述べ且その國史上如何なる意義を有せしものなるかを說明せよ。(17・69・341參照)
②我が漢學・國學及び蘭學の興起せし原因及びその效果を述べよ。(86・290・293・296參照)
③次に就きて述べよ。
德政の令(173)　宗門改(265)　上げ米(230)
安政の假條約(272)

○昭和十年度

①律令制定の理由を說明しこれと我が上代政治との關係を述べよ。(37參照)
②奈良時代及び平安時代の佛教の性質の相違を述べこれによりて當時の我が文化の特色を說明せよ。(83)
③室町時代に於ける下剋上の當時の我が世相に及ぼせる影響及びその結果を述べよ。(191)

④次に就きて述べよ。

㋑庚午年籍(34參照)　　㋺政　　所(116・167參照)

㋩元和偃武(219參照)　　㋥蛤御門の變(元治の變)(242參照)

◇松江高等學校

○昭和六年度

①元寇の顚末に就きて記せ。(123)

②江戸時代に於ける交通及び產業の發達に就きて記せ。(309)

③立憲政體の確立に就きて記せ。(341)

④次の諸項に就きて記せ。

藤原不比等(42)　　檢非違使(61參照)　　鳥 佛 師(15參照)

李 成 柱(164)　　荷田春滿(293參照)

○昭和八年度

(文科)

①奈良朝に於ける書籍の編纂に就きて記せ。(48・49參照)

②德川時代の海外貿易に就きて記せ。(251・254・266參照)

③次の諸項に就きて記せ。

足利學校(185)　　記 錄 所(99)　　板垣退助(341・359參照)

(理科)

①德川時代に於ける蘭學の勃興に就きて記せ。(296)

②次の諸項に就きて記せ。

北畠親房(156)　　白江口(白村江)の戰(18參照)　　天龍寺船(159)

○昭和十年度

①武士興起の由來を問ふ。(77)

②室町時代に於ける都市の發達に就いて述べよ。(194)

③明治初年より今日に至る我國の領土及び勢力範圍の擴張を述べよ。(356)

◇東京高等學校

○昭和七年度

①聖武天皇の御政治について知る所を書きない。(44)

②德川時代に於ける尊王論の發展についてその大綱を述べなさい。(312)

③昭和七年は皇紀何年ですか。

④次の事項について說明しなさい。

㋑遣 唐 使(21・94參照)

㋺蒙古襲來の際わが國民的意氣の發露(123參照)

㋩井伊直弼(246)

○昭和十年度

①源頼朝の政治と足利義滿の政治をその組織上その精神上より比較論述せよ。(166)

②建武中興の精神を問ふ。(149參照)

③次について知る所を記せ。

㋑法然上人(139參照)　　㋺藤原賴長(102參照)　　㋩大日本史(292)

◇大阪高等學校

○昭和八年度

①建武中興と明治維新とに就き各々之を致せる事由を略記し，並に共通せる精神に就きて述べよ。(323)

②帝國憲法の發布は皇紀何年何月何日なるか。且つ其の制定の由來に就きて述べよ。(341參照)

③次に就きて述べよ。

四道將軍(5・22參照)　渤 海 國(46・96參照)　貞永式目(134)

關 孝 和(288參照)

○昭和十年度

①皇大神宮及び熱田神宮の起源に就きて述べよ。(7)
②奈良朝に於ける國史及び地誌の編纂に就きて述べよ。(48)
③鎌倉時代に於ける佛教の新宗派とその開祖を擧げよ。(139)
④ワシントン會議に就きて述べよ。(379參照)

◇浦和高等學校

○昭和六年度

①法隆寺に就きて知る所を記せ。(25)
②保元の亂は政治及び道德上如何なる意義を有するか。(102)
③江戸時代に於ける日露兩國の關係を略述せよ。(269)

○昭和十年度

①朝廷の政權が武家に移つた經過を略述せよ。(77參照)
②鎌倉時代の美術工藝について記せ。(145)
③戰國時代に於ける西洋文化の輸入について述べよ。(195參照)
④櫻田門外の變以後大政奉還に至るまでの大勢の推移を略述せよ。(242)

◇福岡高等學校

○昭和五年度

①大政奉還に就きて記せ。(248)
②律令の撰定に就きて記せ。(37)
③鎌倉時代の文物に就きて記せ。(140)

○昭和八年度

①我が建國の事情に就きて述べよ。(1・4參照)
②應仁の亂とその影響とに就きて記せ。(172)
③尊王論に就きて述べよ。(312・314參照)

④版籍奉還及び廢藩置縣に附きて記せ。(331)

○昭和十年度

①神武天皇より神功皇后に至るまでの我が國土の發展を列記せよ。(22參照)
②楠木正成の一代を簡單に述べよ。(155參照)
③鎖國政策の由來及び利害について記せよ。(260)
④立憲政體の確立について述べよ。(341參照)

◇靜岡高等學校

○昭和六年度

①奈良時代と平安時代との文化を比較して,其の特色を說明せよ(84)
②鎌倉時代に佛教の新宗派の多く起りしは何故か。(139)
③參覲交代の及ぼした影響を考察せよ。(224)
④次の各項に就いて簡單に述べよ。
阿直岐(14參照)　種子島(46・195參照)　廢藩置縣(331)

○昭和八年度

①ワシントン會議の大要を說明せよ。(379參照)
②中古に於ける奧羽の拓植に就きて述べよ。(97參照)
③江戸時代の國史の研究とその影響とを述べよ。(201)
④次の各項に就きて說明せよ。
貞永式目(134)　法隆寺(25)　德政(173)

○昭和十年度

①鎌倉幕府の創立を述べその影響について考察せよ。(115參照)
②奈良時代と平安時代との佛教の特色を比較せよ。(83)
③江戸時代に於ける日蘭の關係について述べよ。(267)
④次の各項について說明せよ。
㋑下剋上(192)　㋺氏　姓(17參照)

㈥日英同盟(375)

◇高知高等學校

○昭和七年度

①室町時代の文化に就きて述べよ。(186)
②聖德太子の御功績に就きて知る所を記せ。(24)
③次の各項のヨミカタと其の簡單なる說明を求む。
　公文所(116參照)　塙保己一(233參照)　義良親王(162)
④次の各項に就きて略述せよ。
　元祿風(227參照)　藤原賴通(71)　下關條約(369)
　杵築宮(3)　大阪夏の陣(219參照)

○昭和十年度

①上古の支那との交通について述べよ。(21)
②室町時代の風俗について述べよ。(188)
③江戸時代產業振興の情況を例をあげて說明せよ。(307・309參照)
④立憲政體の確立について略述せよ。(341參照)
⑤次の事項について記せ。
　㈠正倉院(50)　㈡伊能忠敬(276參照)
　㈢北畠親房(156)　㈣厨川柵
　㈤彰考館(292參照)

◇姬路高等學校

○昭和六年度

①鎌倉時代に於ける新佛教の起因と其の宗派とを問ふ。(139)
②江戸時代に於ける西洋學術の傳來に就きて記せ。(295)
③次の諸項に就きて知る所を簡單に記せ。
　德政(173)　勘合符(197)　伊能忠敬(276參照)

○昭和十年度

①佛教の傳來。(10)
②建武の中興。(149)
③次の事項につき說明せよ。
　藤原良房(74)　風土記(48參照)　班田收授法(33)
　書院造(184)

◇廣島高等學校

○昭和十年度

①承久の役に就きて述べよ。(130參照)
②天主教の傳播に就きて述べよ。(263參照)
③次の諸項に就きて記せ。
　㈠國分寺(54參照)　㈡檢非違使廳(61參照)
　㈢新井白石(君美)(229)　㈣山內豐信(容堂)(248參照)

◇臺北高等學校

○昭和六年度

室町時代に於ける我が國と明との交通に就きて記せ。(195參照)

○昭和十一年度

①奈良・平安兩時代に於ける美術工藝の特質について記せ(47・88參照)
②江戸時代末期に於ける露國人の來航と我が海防策とにつき記せ。(269・276參照)
③次の各項を解說せよ。
　㈠牢人所と檢非違使廳(61參照)　㈡金澤文庫(143)
　㈢版籍奉還(331)　㈣ワシントン會議(379)

◇東京府立高等學校

○昭和五年度

①外國文化の傳來に際し其の各時代に於ける我が國情及國民の態度について述べよ。(333)

②德川期に於て產業の發達を助成したる諸種の原因について述べよ。(307)

○昭和八年度

①土地制度を中心に我が國古來の地方政治の變遷を略述せよ。(17・76・122・133・208・221・331參照)

②次の諸時代に於ける文化特にその美術・工藝に表はれたる特色を述べよ。

飛鳥時代(15)　天平時代(47)　東山時代(174)
桃山時代(217)

③次の各事項に就きて其の歷史的意義を述べよ。

㋑院　政(100)　㋺倭　寇(196)　㋩　鎖國(260・279參照)

○昭和十年度

①我國體の萬邦無比なる所以を史實に基きて闡明せよ。(1參照)

②奈良・平安・鎌倉・室町・江戶の各時代に於ける學問の傾向を略敍し，江戶期に至りて國學勃興するまでの徑路を示せ。(86・141・180・287參照)

◇成蹊高等學校

○昭和六年度

江戶時代に於ける國史の研究に就いて述べよ。(291)

○昭和七年度

①帝國憲法に就きて述べよ。(341參照)

②貞永式目に就きて述べよ。(134)

○昭和八年度

①江戶時代に於ける國學の勃興に就きて。(293)

②鎌倉時代の文化の特色に就きて。(141)

③下記の說明をなせ。

正 倉 院(50)　金澤文庫(143)

III. 商業關係諸學校

◇東京商大豫科

○昭和八年度

①武家の勃興の鎌倉時代の文化に及ぼせる影響。(144參照)

②江戶時代に於ける我が國とイギリス國との關係を述べよ。(268)

◇東京商大商學專門部並商業教員養成所

○昭和十年度

①德川時代を初期，中期，末期に別ち幕府の朝廷に對する態度の變遷を述べよ。(228參照)

②次の事項について知る所を記せ。

㋑元 老 院(341參照)　㋺政黨內閣の始(341參照)
㋩日鮮修好條約(359參照)　㋥日英同盟(375)

○昭和十一年度

①日露戰役の原因を說明せよ。(362參照)

②次の四項につきて記せ。

㋑公家諸法度(228參照)　㋺助　鄕

㈥山鹿素行(290の5參照)　㈡高野長英(277參照)

◇大阪商大豫科

○昭和十年度

①大阪を中心としての國史上の諸事件を擧げその概要を說明すべし。(322參照)

②次の項について記せ。

㋑勘合符(197)　㋺大日本帝國憲法の制定(341參照)

○昭和十一年度

㋑平安朝時代の文化について記せ。(93參照)

㋺次の項について記せ。

㋑天龍寺船(159)　㋺享保の治(230)

◇大阪商大高商部

○昭和十年度

(中學出)

①大阪を中心として國史上の諸事件を擧げその概要を說明すべし。(322參照)

②次の事項に付て記せ。

①御朱印船(252)　㋺大日本帝國憲法の制定(341參照)

(商業出)

①(中學出に同じ)

②次の事項に付て記せ。

①貨幣の出現(57參照)　㋺福澤諭吉(346)

○昭和十一年度

(中學出)

①明治維新以後の對支關係につきて述べよ。(368)

②次の項について記せ。

㋑班田收授法(33)　㋺金澤文庫(143)

(商業出)

①(中學出に同じ)

②次の項について記せ。

①貞永式目(134)　㋺札　差(308參照)

◇長崎高等商業學校

○昭和十年度

(商業出)

①鎌倉時代の武士道に就きて記せ。(119・120參照)

②江戸時代の國學の興起と，その結果とに就きて記せ。(293)

③次に就きて知るところを記せ。

㋑法隆寺(25)　㋺北畠親房(156)

㋩御朱印船(252)

(中學出)

①②商業出に同じ。

③次に就きて知るところを記せ。

㋑法隆寺(25)　㋺神皇正統記(156參照)

㋩德　政(173)

○昭和十一年度

①大化の新政につきて記せ。(32)

②德川幕府の鎖國せし動機とその影響につきて述べよ。(360)

③日英同盟につきて記せ。(375)

◇山口高等商業學校

○昭和十年度

①聖德太子の御事蹟について述べよ。(24)

②德川初期に於ける對外關係を說明せよ。(254)

○昭和十一年度

①奈良朝時代の外來文化に就きて述べよ。(94參照)

②我が國に於ける立憲政治成立の次第を述べよ。(341參照)

◇小樽高等商業學校

○昭和十年度

①聖德太子の御事蹟について記せ。(24)

②近世に於ける我が國と海外諸國との交通について述べよ。(254)

○昭和十一年度

①鎌倉時代の佛教に就いて記せ。(139參照)

②江戶時代に於ける尊王思想の勃興を述べよ。(312參照)

◇名古屋高等商業學校

○昭和十年度

(中學出)

①我が國體を說き，なほこれを諸外國の國體と比較してその特色を述べよ。(1參照)

②江戶時代初期に於ける諸外國との通商の概況を述べ，併せて鎖國に至りし事情及鎖國後の影響を說くべし。(251・254・260參照)

(商業出)

①室町時代に於ける支那との交通を說き，併せてその影響を述べよ。(195參照)

②江戶時代に於ける尊王思想の勃興に就て述べよ。(312參照)

○昭和十一年度

(中學出)

①室町時代に於ける文化の特徵。(186・187參照)

②次につき知るところを述べよ。

㋑淺見絅齋(290)　　㋺城 下 町(194・305參照)

(商業出)

①鎌倉時代の佛教。(139參照)

②次につき知る所を述べよ。

㋑倭　寇(196)　　㋺渡邊崋山(277參照)

◇福島高等商業學校

○昭和十年度

三種の神器に就いて知る所を述べよ。

○昭和十一年度

①我が國體の世界無比なるわけを說明せよ。(1)

②大化改新，建武中興及び明治維新を一貫する精神を明かにせよ。(31・323參照)

◇大分高等商業學校

○昭和十年度

①大化改新の概要を問ふ。(32)

②遣唐使について知る所を記せ。(21・94參照)

③安政假條約の改正について記述せよ。(361參照)

○昭和十一年度

(商業出)

①佛教の傳來について記せ。(10參照)

②江戶幕府が鎖國を勵行せし理由を記せ。(260參照)

③次の各項について記せ。

㋑倭　寇(196)　　㋺坂下門外の變(247參照)

(中學出)

①守護地頭の設置について記述せよ。(122)

②天主教禁制の理由を記せ。(豐臣秀吉の禁制と江戸幕府の禁制と各々別々に其の理由を記せ)(263參照)

③次の各項について記せ。

㋑八　幡　船(196參照)　　㋺本地垂迹說(81)

◇彦根高等商業學校

○昭和十年度

①鎌倉時代の士風とそれが當時の社會に及ぼせる影響とを述べよ。(144參照)

②次の各項を說明せよ。

㋑正　倉　院(50)　　㋺朱　印　船(252)

㋩北畠親房(156)

○昭和十一年度

①推古天皇の御代より奈良時代の終頃までの日支の國交とそれが當時に於ける我が國の文化に及ぼせる影響とを述べよ。(21・94參照)

①次の各項を解說せよ。

㋑日本最初の國史撰修(294參照)　　㋺平安時代の美術工藝(88)

㋩伊能忠敬(276參照)

◇和歌山高等商業學校

○昭和十年度

①江戸時代に於ける皇政復古運動に就いて說明せよ。(243・248參照)

②次の各項を解說せよ。

㋑朱　印　船(252)　　㋺ポーツマス(Portsmouth)條約(365)

○昭和十一年度

①明治維新より三國干涉に至る我國外交上の重大事件につき說明せよ。(總說參照)

②次の二項を解說せよ。

㋑北畠親房(156)　　㋺新井白石(229)

◇横濱高等商業學校

○昭和十年度

①奈良朝に於ける國史撰修の次第とその後世我國民思想に及ぼせる影響に就きて記せ。(48・295參照)

②我國立憲政體發達の基礎とその確立に至る經過とに就きて記せ。(341參照)

○昭和十一年度

①明治初期に至るまでの美術工藝の發達と外來思想との關係を概說せよ。(16・49・88・145・183・300・348參照)

②大正末期に至るまでの我國と英露との關係を概說せよ。(268・269・362・374參照)

◇高松高等商業學校

○昭和十年度

①次の二項を略述し且つ國體の精華の現はれと認めらるる點を說明せよ。

㋑文永，弘安の役(元寇)(123)　　㋺帝國憲法發布(341參照)

②次の諸項を略述せよ。

㋑院　　政(100)　　㋺藤島神社(154參照)

㋩近藤守重(重藏)(276參照)　　㋥ロンドン會議(379參照)

○昭和十一年度

①大化の改新とその精神。(31參照)

②明治三十七八年戰役の原因。(362參照)

◇高岡高等商業學校

○昭和十年度

①上古に於ける我が國と支那との交通を述べよ。(21)
②我が國に於ける立憲政體確立の次第を述べよ。(341參照)
③次の各項に就いて知るところを記せ。
㈠本居宣長(293參照)　㈡安政の大獄(245)
㈢德　政(173)　㈣莊　園(75)

○昭和十一年度

(中學出)
①國學の四大人を列擧し各其の業績を略述せよ。(293參照)
②次の地名につき歷史的回顧をなすべし。
㈠比 叡 山(63參照)　㈡金　澤(武藏)(143參照)
㈢安　土
(商業出)
①奈良奠都，平安奠都及び東京奠都につき知れる所を記せ。(43・58・338參照)
②下記項目を略說せよ。
㈠倭　寇(196)　㈡六 國 史(90)

◇京城高等商業學校

○昭和十年度

①德川時代に於ける對外關係に就きて說明すべし。(266參照)
②下記五項中三項を選擇して略述すべし。
(注意，必ず三項に止むべし)
㈠神皇正統紀(156參照)　㈡和銅開珎(57)
㈢法 隆 寺(25)　㈣莊　園(75)
㈤澁澤榮一

○昭和十一年度

①明治時代に於ける日鮮の重要交涉に就きて說明すべし。(359參照)
②下記五項中三項を選擇して略述すべし。
㈠賢　所　㈡日本書紀(48參照)
㈢德　政(173)　㈣寺 小 屋(285參照)
㈤岩崎彌太郎

◇臺北高等商業學校

○昭和十年度

①鎌倉時代の文化。(140)
②明治時代條約改正の顚末。(361)
③次の各項を解說すべし。
㈠部曲の民(17參照)　㈡本地垂迹說(81)
㈢天龍寺船(159)　㈣出　島(261)

○昭和十一年度

①上古に於ける我國と朝鮮半島との關係を述べよ。(18)
②江戶時代初期に於ける邦人の海外發展について記せ。(251)
③次の各項を解說せよ。
㈠貞永式目(134)　㈡勘 合 符(197)
㈢博 愛 社(336・351參照)　㈣日英同盟(375)

◇橫濱商業專門學校

○昭和十年度

①中大兄皇子の御事蹟について記せ。(34)
②文化文政時代の政治，文物について詳述せよ。(233・302參照)
③次の語につき讀方を記しかつ簡單に解說せよ。
㈠大寶律令(38)　㈡北畠親房(156)
㈢守護・地頭(122)　㈣采覽異言(229參照)

○昭和十一年度

日本歷史の大要を二千字以内にて略述すべし。
（但句讀點。括弧等は一字に計算す。）

◇神戸高等商業學校

○昭和十年度

①奈良時代の文化に就きて略述せよ。(47•48•51等參照)

②江戸時代に於ける我國と外國との關係に就きて記せ。(266•267•268•269•270參照)

③次に列擧せる十一事項は何れも我國史上政治的に重要なる影響ありし事件なり。各事件を年代の古き順に配列し，各項の下の欄内に今を距る大凡何年前なるかを記入し，且つ其の事件の大要を摘記すべし。

大政奉還(248)　　建武の中興(149)　　應仁の亂(172)
白河上皇の院政(100)　　秀吉の海内統一(207)
聖德太子の憲法制定(24)　　江戸幕府の創立(220.222參照)
平安遷都(58)　　神武天皇の御即位(4參照)
鎌倉幕府の創立(115•116參照)　　大化の改新(32)

項　名	今を距る大略の年數	摘要（各項三行以内にて書くべし）
①		
②		
③		

○昭和十一年度

①次に列擧せる對外關係事項を年代の古き順に配列し，各項の下の欄内に今を距る大凡何年前なるかを記入し，且つ其の事件の大要を摘記すべし。

神功皇后の新羅征伐(8)　　佛教の傳來(10)
王仁の來朝(9)　　秀吉の朝鮮征伐(211)
任那の日本府の廢止(18參照)　　遣唐使(21•94參照)
蒙滿の明との交通(168參照)　　元　寇(123)
安政の和親條約(271)　　條約改正(361)
家光の鎖國(260參照)　　基督教の傳來(263)

事　項　名	今を距る大略の年數	摘要（各項三行以内に書くべし）
①		
②		
③		

②江戸時代に於ける國學及び尊王思想の發達について述べよ。(293•314參照)

③鎌倉時代の文化につきて記せ。(140)

◇大倉高等商業學校

○昭和十年度

①德川時代初期に於ける朝廷と幕府との關係を述べよ。(228)

②次の各項に就て知れる所を略述せよ。

㈠正倉院(50)　　㈡莊　園(75)
㈢天龍寺船(159)　　㈣前野良澤(296參照)

○昭和十一年度

①織田信長及び豐臣秀吉の勤王について具體的に記せ。(203參照)

②次の各項につきて知る所を述べよ。

㈠口分田(33參照)　　㈡問注所(116•165•167參照)
㈢德　政(173)　　㈣足高制(230參照)

IIII. 其他諸學校

◇神宮皇學館

○昭和五年度

①我が國上古の氏族制度に就きて記せ。(17參照)
②江戸時代に於ける日露兩國の關係を問ふ。(269)
③次の各項に就き知る所を述べよ。
北條時行(152)　　藩　學(285參照)　　新律綱領(339參照)

○昭和六年度

①上古に於ける美術・工藝の發達。(16)
②後北條氏の興亡。(199)
③德川・明治兩時代に於ける我が國とイギリスとの關係。(374)

○昭和七年度

①平安時代に於ける我が國と外國との關係を問ふ。(96)
②德川幕府の諸大名に對する政策に就きて記せ。(223)
③次の各項に就きて知る所を記せ。
學制頒布(345參照)　　盟神探湯(17參照)

○昭和八年度

①鎌倉時代に於ける武士と文化との關係。(144參照)
②織田信長・豐臣秀吉及び德川家康の朝廷に對し奉れる態度。(203・220・228の1參照)
③統監府(360參照)　庚午年籍(34參照)　藤原通憲。

○昭和九年度

①明治維新後に於ける教育の發達。(345)

②日明の交通。(195・211・255・266參照)
③　㋑藏人所(61參照)　　㋺西川如見(295參照)
　　㋩三　藏(28)

○昭和十年度

①江戸時代に於ける朝廷の御有樣について述べよ。(228參照)
②奈良朝及平安朝時代の漢文學について述べよ。(49・85參照)
③北畠親房の事蹟について述べよ。(156)

○昭和十一年度

①元明天皇の御事蹟。(43・48參照)
②室町時代の美術工藝。(183)
②江戸時代末期の國防。(276參照)

◇京城法學專門學校

○昭和八年度

①版籍奉還廢藩置縣について記せ。(331)
②次の各項につきて知るところを記せ。
㋑神皇正統記(156參照)　　㋺本居宣長(293參照)
㋩參覲交代(224)　　㋥源 實 朝

○昭和十年度

①上古に於ける我國と朝鮮との關係。(18)
②次の項目につき記せ。
㋑貞永式目(134)　　㋺伴　造
㋩木下順庵(290參照)

○昭和十一年度

①明治維新の原因。(243)
②次の項目につき記せ。

㋑加　羅(18參照)　　㋥貞永式目(134
㋒德　政(173)

◇大阪外國語學校

○昭和七年度

①大政奉還の原因を大局より觀察して列擧し簡單なる說明を加へよ。(243參照)

②次の二問に答へよ。

㋑近古に於けるポルトガル・イスパニヤ兩國人の渡來及びその影響。(275參照)

㋥天平時代。(44・47・49參照)

○昭和十年度

①德川時代の封建制度を實例を擧げて批判的に說述せよ。(221・223等參照)

②次の諸問につき知る所を記し且つ傍線を施せるものには讀假名を附せよ。

㋑大內裏　　㋥下關條約の主要條項(369參照)
㋒小野妹子(21・24參照)　　㋭王　仁(9・14參照)
㋓神皇正統記(156參照)

○昭和十一年度

①歷史を學びて我國體の如何に世界無比なるかを知れりや大要を述べよ。(1)

②次の諸問題に答へよ。

㋑明治三十七八年戰役の起因。(362參照)
㋥大化新政の主眼點。(31)
㋒德川時代に於ける江戶・大阪兩都市の特色。(338參照)

◇臺南高等工業學校

○昭和八年度

①下記の人名を年代順にならべ且つ何をなしたる人なるかを簡單に記せ。

新島襄　　平賀源內(296・298參照)　　小野妹子(21參照)
杉田玄白(296參照)　　稗田阿禮(48參照)　　本居宣長(293參照)
陸奧宗光(361・369參照)　　間宮林藏(276參照)　　上杉治憲(237參照)
北條時宗(124・127參照)　　僧最澄(63)　　藤原定家(142參照)
大江廣元(116參照)　　山田長政(251參照)

②江戶時代初期に於ける海外貿易につきて記せ。(251)

③我が國政上の三大變革について記せ。(32・115・248・327參照)

○昭和九年度

①國史に現はれたる著名な例を擧げて我が建國の精神を說明せよ。(1・31・149・327等參照)

②朝鮮半島と我が國との歷史上の關係を略述せよ。(359)

③下記につき知れる所を簡單に記せ。

㋑院　政(100)　　㋥建武中興(149)
㋒皇室典範(341參照)　　㋭版籍奉還(331)
㋓僧月照　　㋒金玉均
㋦福澤諭吉(346)

○昭和十年度

①遣唐使停廢の理由及び其の結果を問ふ。(95參照)

②國學興起の影響と之に與りし人々の事蹟を述べよ。(293參照)

③次の諸項について記述せよ。

㋑國分寺(51)　　㋥大寶令(38)
㋒和氣清麿(55)　　㋭檢非違使(61參照)
㋓清少納言(79・90參照)　　㋒ロンドン會議(379參照)

㋩義 和 團(370)　　㋭北畠親房(156)
㋮五ヶ條の御誓文(325)

○昭和十一年度

①武家政治の各時代を年代順に列記し各時代に起りし二三の重大なる出來事を簡單に記せ。

②下記のものにつき知る所を記せ。

㋑笠 縫 邑(5參照)　　㋺聖德太子(24)
㋩日本書紀(48參照)　　㋥萬 葉 集(47參照)
㋭山 家 集(142參照)　　㋬金 槐 集(142參照)
㋩古事記傳(293參照)　　㋭松平定信(232)
㋮遼東還附(369參照)　　㋱戊申詔書(366參照)
㋲國際聯盟(381)　　㋳尼港事件(363參照)
㋴倫敦條約(379參照)　　㋵國體明徵問題

◇神戸高等工業學校

○昭和十年度

①三種の神器に就きて記せ。

②次に就きて簡單に記せ。

㋑王　　仁(9•14參照)　　㋺法 隆 寺(25)
㋩空　　海(63)　　㋥古 事 記(48參照)
㋭佐久間象山(319)

③「國史を學ぶ目的」に就きて所見を述べよ。
(所定答案用紙一頁以內)

○昭和十一年度

①「五箇條の御誓文」に就きて述べよ。(325)

②次に就きて簡單に記せ。(91)

㋑熱田神宮(7)　　㋺任　　那(18參照)
㋩寢 殿 造(91)　　㋬大日本史(292)

㋭角倉了以(310)

③下記の標題にて一小論文を草せよ(所定答案用紙一頁以內)。
「軍縮會議の推移」(379參考)

◇京城大學豫科

○昭和五年度

①明治時代に於ける條約改正問題の經過に就いて說明せよ。(361)

②平安時代の美術工藝に就て記せ。(88)

③織田信長及び豐臣秀吉の尊王の事蹟に就いて說明せよ(203•314參照)

④江戸時代に於ける名藩主を擧げその事蹟に就て記せ。(237)

○昭和七年度

①大正三年青島陷落以後大正十一年膠州灣還附に至る間の支那問題に關する我が國と支那及び米國間の關係に就きて記せ。(371)

②江戸時代に於ける我が國と支那との關係に就きて記せ。(255)

③鎌倉時代の美術・工藝に就きて記せ。(145)

④次の諸項に就きて說明せよ。

阿知使主(14參照)　　刀伊の入寇(96の3參照)　上杉憲實(171)
日本赤十字社の起源(336•351參照)

○昭和八年度

①明治二十年より明治三十年に至る間に於ける我國史上重要なる事件を年代順にあげ且つ簡明に說明せよ。(總說第五節參照)

②平安時代及び鎌倉時代に於ける宋との交通及びその影響について記せ。(146)

③德川吉宗の教育及び產業の奬勵に就きて記せ。(230參照)

④次の諸項につきて說明せよ。

㋑大阪夏の陣(219)　　㋺四　　職(165參照)
㋩水野忠邦(235)　　㋥中 尊 寺(89)

○昭和九年度

①建武中興に功ありし勤皇諸將について記せ。(149參照)

②世界大戰役に於ける我が戰闘經過につきて記せ。(377參照)

③次の諸項につきて記せ。

㋑豐受大神(13參照)　　㋺臨 濟 宗(139參照)

㋩本朝通鑑(201參照)

◇遞信官吏練習所

○昭和五年度

①室町幕府時代に於ける我が國と明との交通につきて述べよ。(195の3參照)

②明治維新の遠因及び近因を列擧せよ。(243)

③次につきて記せ。

㋑莊　　園(75)　　㋺六波羅探題(132)

○昭和六年度

①大化改新に於ける班田收授の法と平安朝に於ける莊園の發達との關係を論ぜよ。(75・76參照)

②江戸時代に於ける日蘭通商とその日本文化に及ぼしたる影響を問ふ。(267・275參照)

③次の問題に答へよ。

㋑勘 合 符(197)

㋺日本に於ける電信，郵便，鐵道の開始されし年代。(350參照)

○昭和七年度

①奈良時代に於ける文化の特色を述べよ。(47・48・49・51等)

②江戸幕府が鎖國政策をとるに至りし理由及びその國民生活に及ぼせる影響を記せよ。(260參照)

③次の人物につき知ることを記すべし。

㋑北畠親房(156)　　㋺福澤諭吉(346)

○昭和八年度

①聖德太子の御事業を略述しそれに現はれたる太子の政治思想を論ぜよ。(24參照)

②鎌倉時代の新興佛教，諸宗派について概說しそれ等の興起せし理由を述べよ。(139)

③次の問題に答へよ。

㋑フランシスコ，ザビエル(263參照)　　㋺大日本史(292)

㋩三國干涉(369の3參照)

○昭和九年度

①桓武天皇の御偉業を述べ當時の事勢を大觀せよ。(59參照)

②江戸時代の國學勃興に就きて概說しその理由及び影響を考察せよ。(263)

③下記の事につきて知れる處を記せ。

㋑漢學の傳來(9)　　㋺後三條天皇(98)

㋩懷良親王(161)　　㋥五箇條の御誓文(325)

○昭和十年度

①次の問題につきて述べよ。

㋑弘法大師(63の2參照)　　㋺御成敗式目(貞永式目)(134)

②林子平と松平定信の德川時代に於ける海防に關係せる處を問ふ。(276參照)

③帝國議會の開設に至れる經過を論述せよ。(341參照)

○昭和十一年度

①次の問題を論述せよ。

㋑大化改新のなされたる理由(31の1參照)

㋺日露戰役の內外に及ぼしたる影響。(366)

②次の問題を說明せよ。

㋑任那日本府(18參照)　　㋺和氣廣蟲

㋩藤原賴長(102參照)　　㋥雜訴決斷所(149參照)

㊦山崎闇齋(200參照)

◇東京美術學校

○昭和五年度

次の事項を年代順に記し略述せよ。

尊皇論(314參照)　鳳凰堂(92)　安土城

ボーツマス條約(365)　東山殿(174參照)　踏　繪(262)

吉野朝廷(總說第三節參照)　尾形光琳(300參照)　五稜郭(332參照)

鳥佛師(15の2參照)

○昭和六年度

①昭和六年は西曆紀元何年に當るか，神武卽位紀元何年に當るか。

②明治時代に起りし重要な事件を問ふ。(總說第五節參照)

③次の人の略傳紀を問ふ。

明惠上人　　德川光圀(313)

○昭和八年度

①桓武天皇の京都奠都の理由に就きて記せ。(58の1參照)

②室町時代の文化に就きて記せ。(186)

③下記の各項を簡單に說明せよ。

源實朝　　神皇正統記(156參照)　新井白石(229)

本居宣長(293參照)　遼東半島(369參照)

○昭和九年度

▲建築科

①聖武天皇の御事蹟に就いて記せ。(44)

②平安時代の國文學に就いて記せ。(79)

③(西洋史)

④下記の各項を簡單に說明せよ。

㋑足利義滿(168)　　㋺大日本史(292)

㋩㋥(西洋史)

▲日本畫科，油畫科，彫刻科

①佛教の傳來と其の興隆に就いて記せ(10)

②鎌倉時代の文化に就いて記せ(140)

③桃山時代の造營に就いて記せ(217參照)

④下記の各項を簡單に說明せよ。

㋑光明皇后(45)　　㋺源氏物語(79·90參照)

㋩金閣(168參照)　　㋥渡邊崋山(277參照)

▲工藝科，師範科

①②及び④の㋑㋺(建築科に同じ)

③元寇に就いて記せ(123)

④下記の各項を簡單に說明せよ。

㋩萬葉集(47參照)　　㋥フランシス·ザヴイエル(263參照)

○昭和十年度

▲建　築　科。

①聖德太子の御事蹟に就いて記せ(24)

②(西洋史)

③下記の各項を時代順に配列せよ。

(A)大日本史，平等院，光明皇后，壇の浦の戰，金澤文庫。

(B)(西洋史)

▲日本畫科，油畫科，彫刻科。

①奈良時代の文化に就いて記せ。(48,49,51參照)

②下記の各項を說明せよ。

㋑金色堂(89參照)　　㋺榮西(139參照)

㋩水戶學(290參照)

③下記の各項を時代順に配列せよ。

王　仁	遣唐使廢止	島原の亂
平等院	元　寇	大化の改新
雪　舟	德川慶喜	源賴朝
東大寺		

▲工藝科，師範科

①(建築科に同じ)

②下記の各項を說明せよ。

㋑最澄(63參照)　　㋺聚樂第(209)

㋩ワシントン條約(379參照)

③下記の各項を時代順た配列せよ。

新井白石	藤原道長	平安遷都
神功皇后	蘇我馬子	安政大獄
國分寺	法然上人	古事記
狩野元信		

○昭和十一年度

▲建　築　科

①日本とロシヤとの關係を略述せよ。(269,362,363參照)

②(西洋史)。

③下記の各項を時代順に配列せよ。

風土記	高向玄理	坂上田村麻呂
細川勝元	千利休	山鹿素行
藤原時平	天草の亂	東學黨の亂
間注所の初。		

▲日本畫科，油畫科，彫刻科。

①日本に於けるキリスト教の傳播に就いて述べよ。(263參照)

②下記の各項を說明せよ。

㋑藤原惺窩(286參照)　　㋺勸學院(64參照)

㋩德　政(173)

③下記の各項を時代順に配列せよ。

北條顯時	都良香	日本外史
四道將軍	源爲義	承久の變
大鹽平八郎	近松門左衞門	賀茂眞淵
條約改正	飯尾宗祇	雜訴決斷所
檢非違使の初	親　鸞	木村重成。

▲工藝科，師範科

①(建築科に同じ)

②下記の各項を說明せよ。

㋑隱元(283參照)　　㋺南蠻寺(204參照)

㋩下剋上(192)

③下記の各項を時代順に配列せよ。

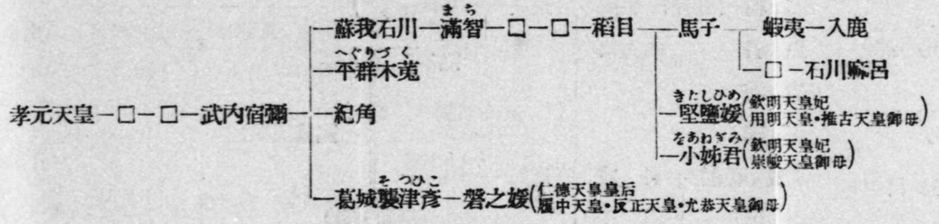
山縣大貳	風土記	御定書百ヶ條
高向玄理	坂上田村麻呂	細川勝元
千利休	山鹿素行	藤原時平
平將門	東學黨の亂	松永久秀
壇の浦の戰	天草の亂	問注所の初。

山はさけ海はあせなん世なりとも
君に二心われあらめやも
源實朝

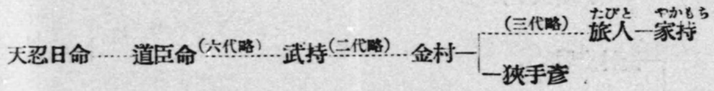
附　錄　(二)

●諸家略系譜

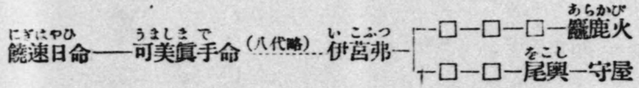
◇蘇我氏



◇大伴氏



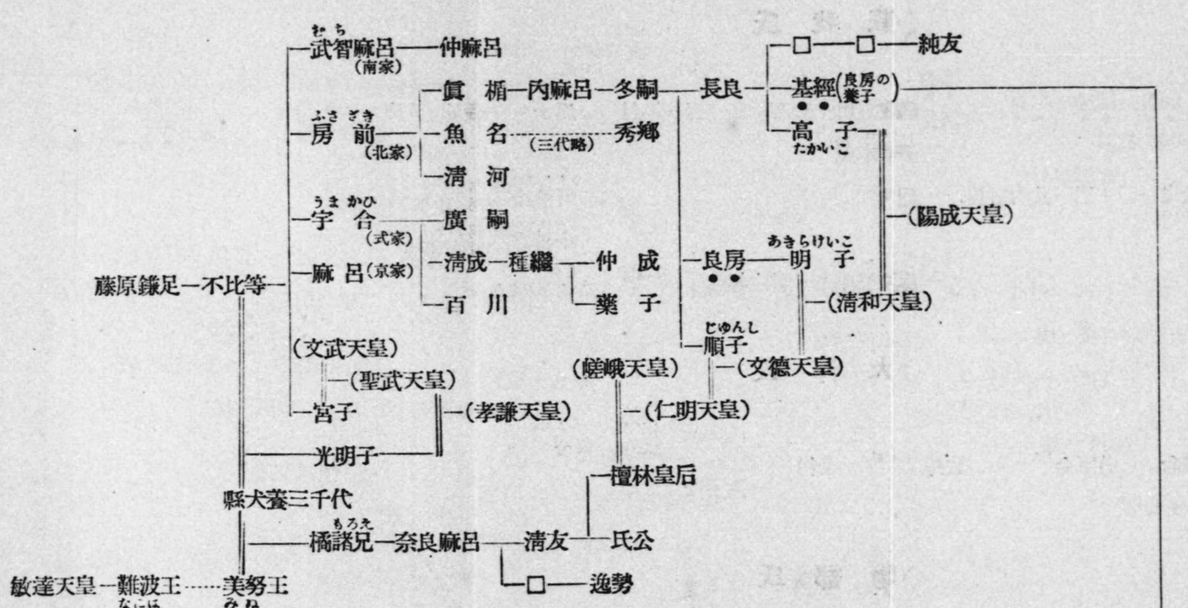
◇物部氏

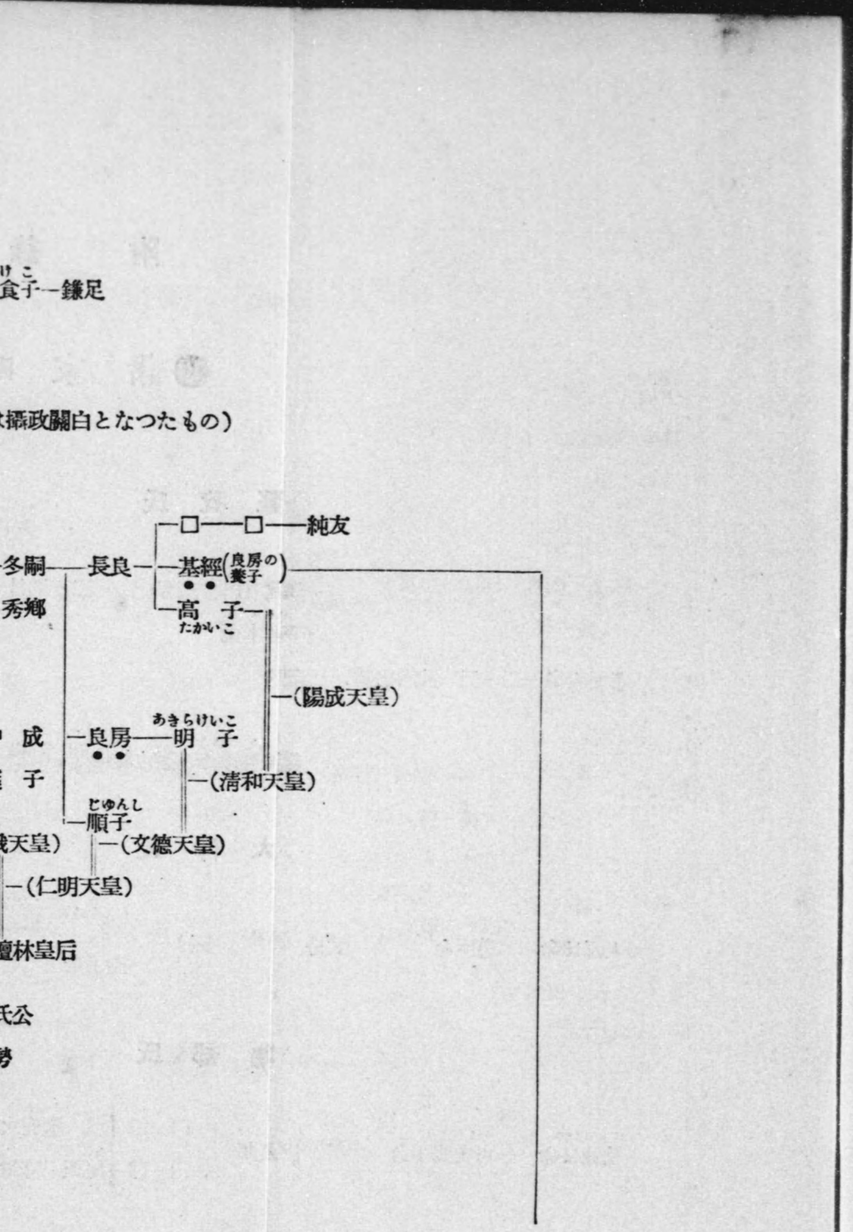


◇中　臣　氏

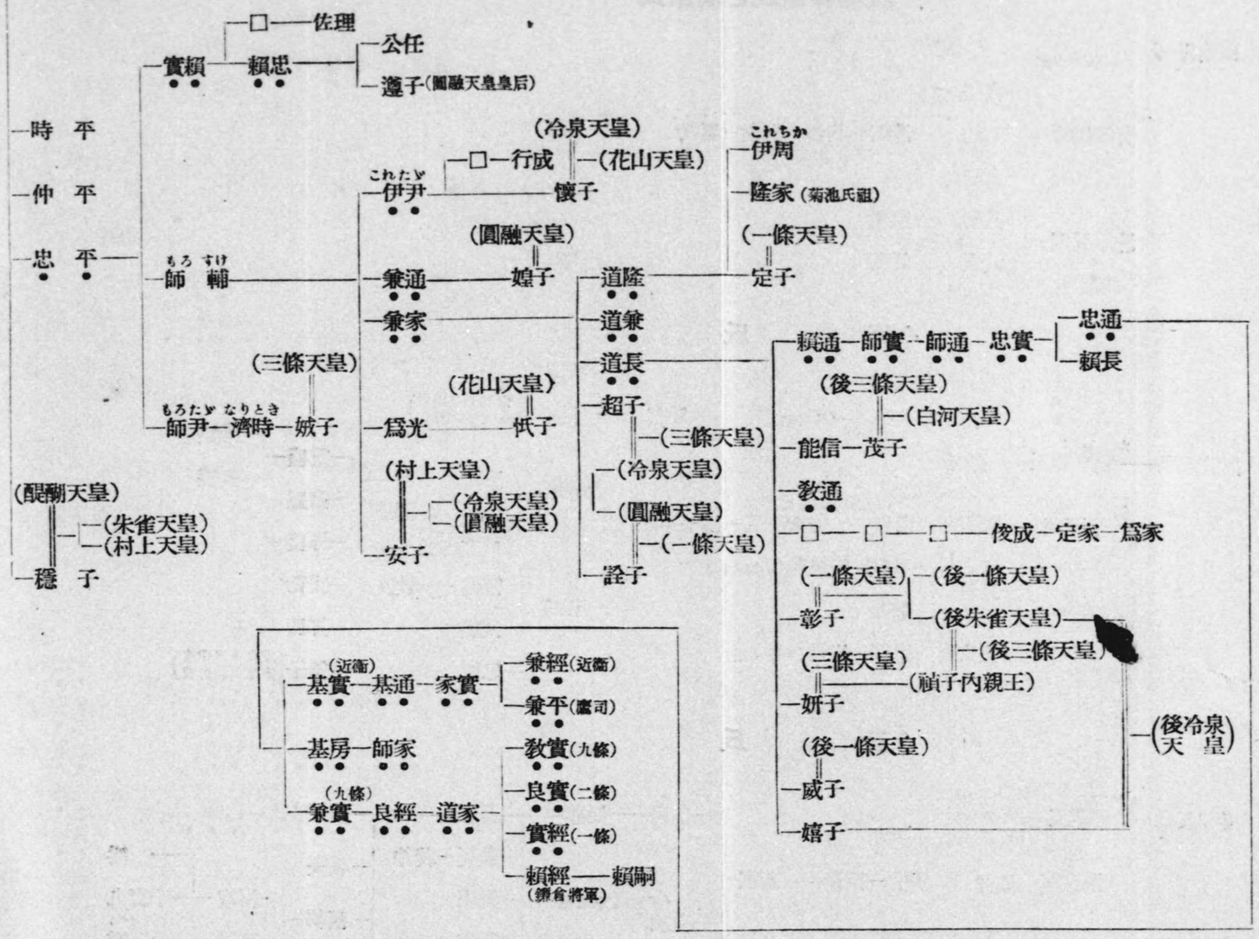
天兒屋根命……天種子命（十三代略）鎌子——黒田—□—□—御食子（みけこ）—鎌足

◇藤原氏と橘氏　（••は攝政關白となつたもの）



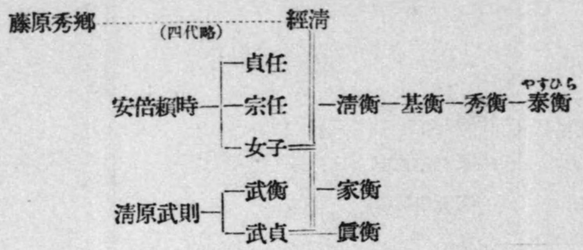


食子—鎌足
攝政關白となつたもの)
□—□—純友
冬嗣—長良—基經(良房の養子)
秀郷
高子
(陽成天皇)
成
良房—明子
子
(清和天皇)
順子
天皇)
(文德天皇)
(仁明天皇)
壇林皇后
氏公

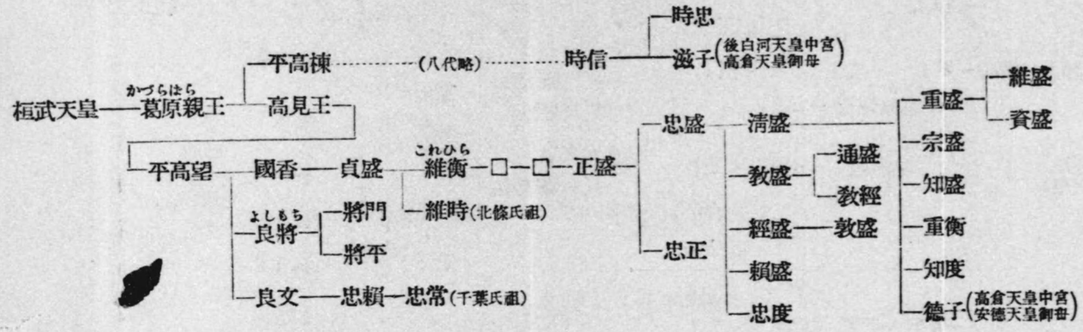


□—佐理
實賴—賴忠—公任
遵子(圓融天皇皇后)
時平
仲平
忠平
師輔
(冷泉天皇)
□—行成
(花山天皇)
伊尹
懷子
伊周
隆家(菊池氏祖)
(圓融天皇)
(一條天皇)
兼通
媓子
道隆
定子
兼家
道兼
道長
(三條天皇)
(花山天皇)
超子
師尹—濟時—娀子
爲光
忯子
(三條天皇)
(村上天皇)
(冷泉天皇)
(圓融天皇)
(冷泉天皇)
(圓融天皇)
(一條天皇)
安子
詮子
(醍醐天皇)
(朱雀天皇)
(村上天皇)
穩子
賴通—師實—師通—忠實—忠通
賴長
(後三條天皇)
(白河天皇)
能信—茂子
教通
□—□—□—俊成—定家—爲家
(一條天皇)
(後一條天皇)
彰子
(後朱雀天皇)
(後三條天皇)
(三條天皇)
(禎子內親王)
妍子
(後一條天皇)
威子
嬉子
(後冷泉天皇)
(近衛)
基實—基通—家實
兼經(近衛)
兼平(鷹司)
基房—師家
教實(九條)
良實(二條)
(九條)
兼實—良經—道家
實經(一條)
賴經—賴嗣
(鎌倉將軍)

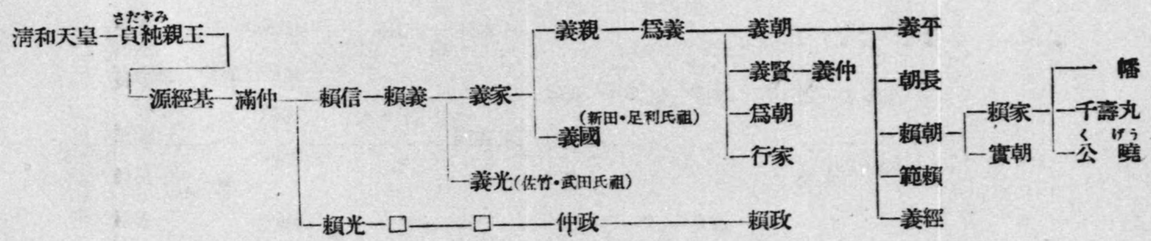
◇陸奥藤原氏と清原氏



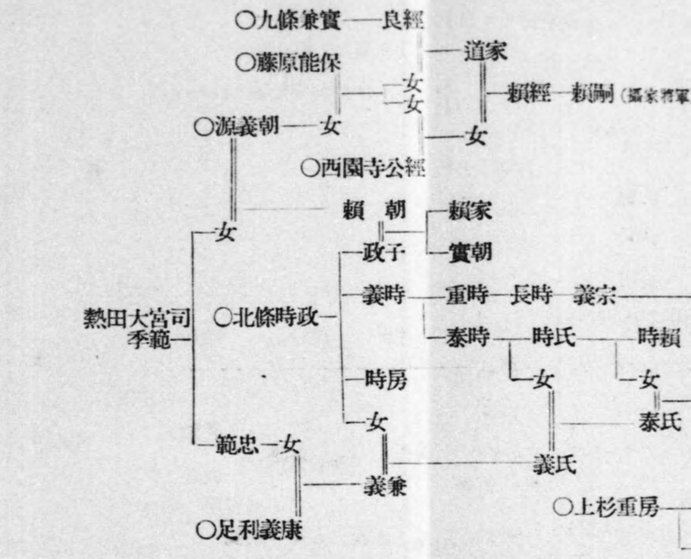
◇平　　氏



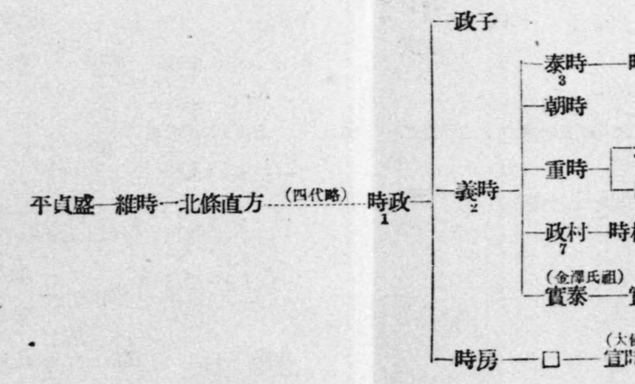
◇源　　氏



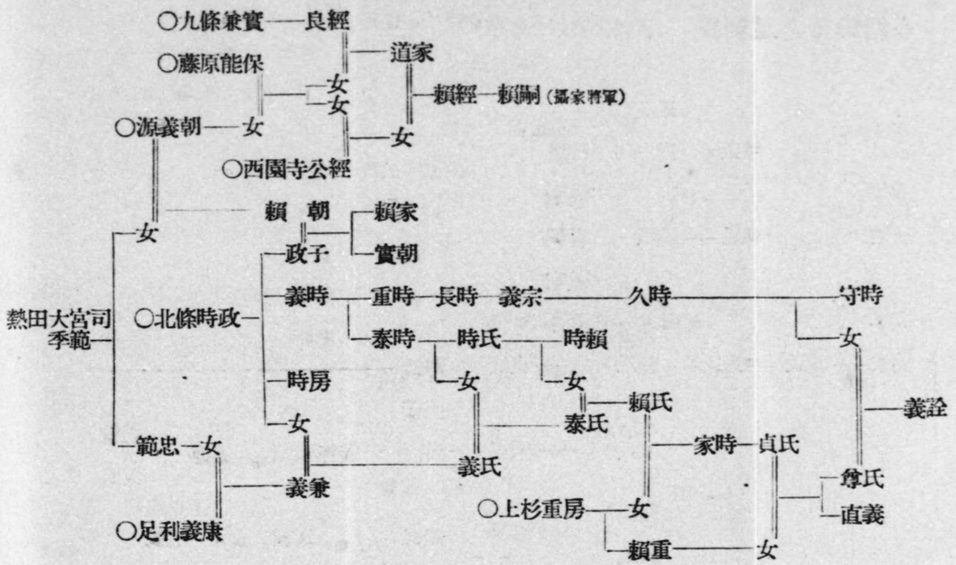
◇藤原氏・源氏・北條氏・



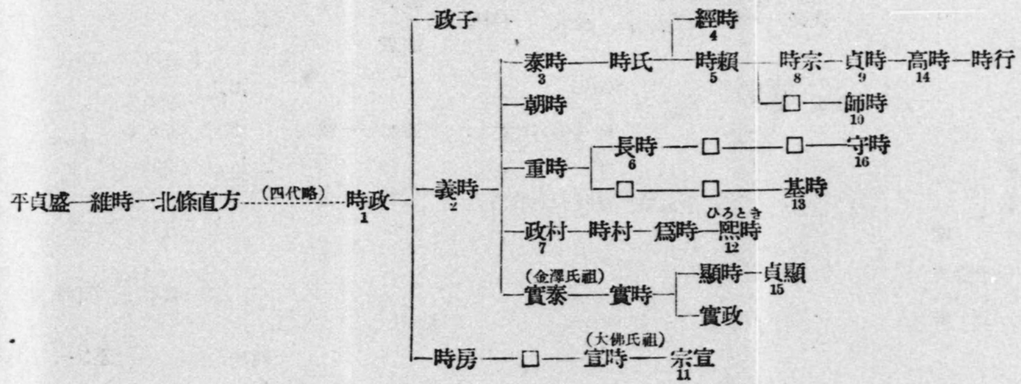
◇北　條　氏（番號は執

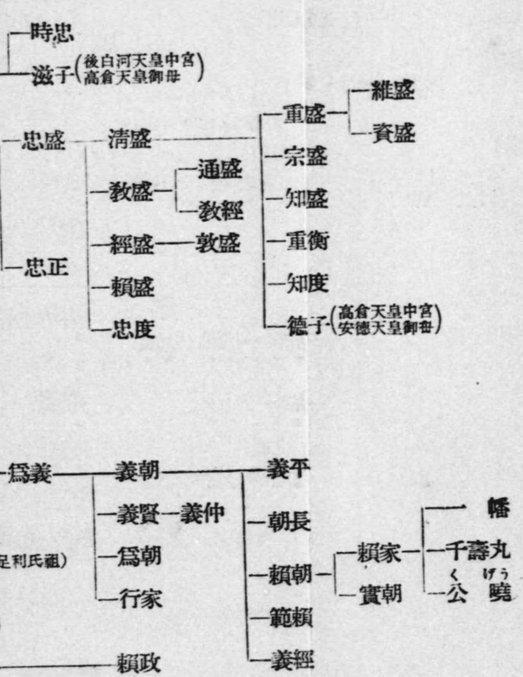


◇藤原氏・源氏・北條氏・足利氏・上杉氏關係圖

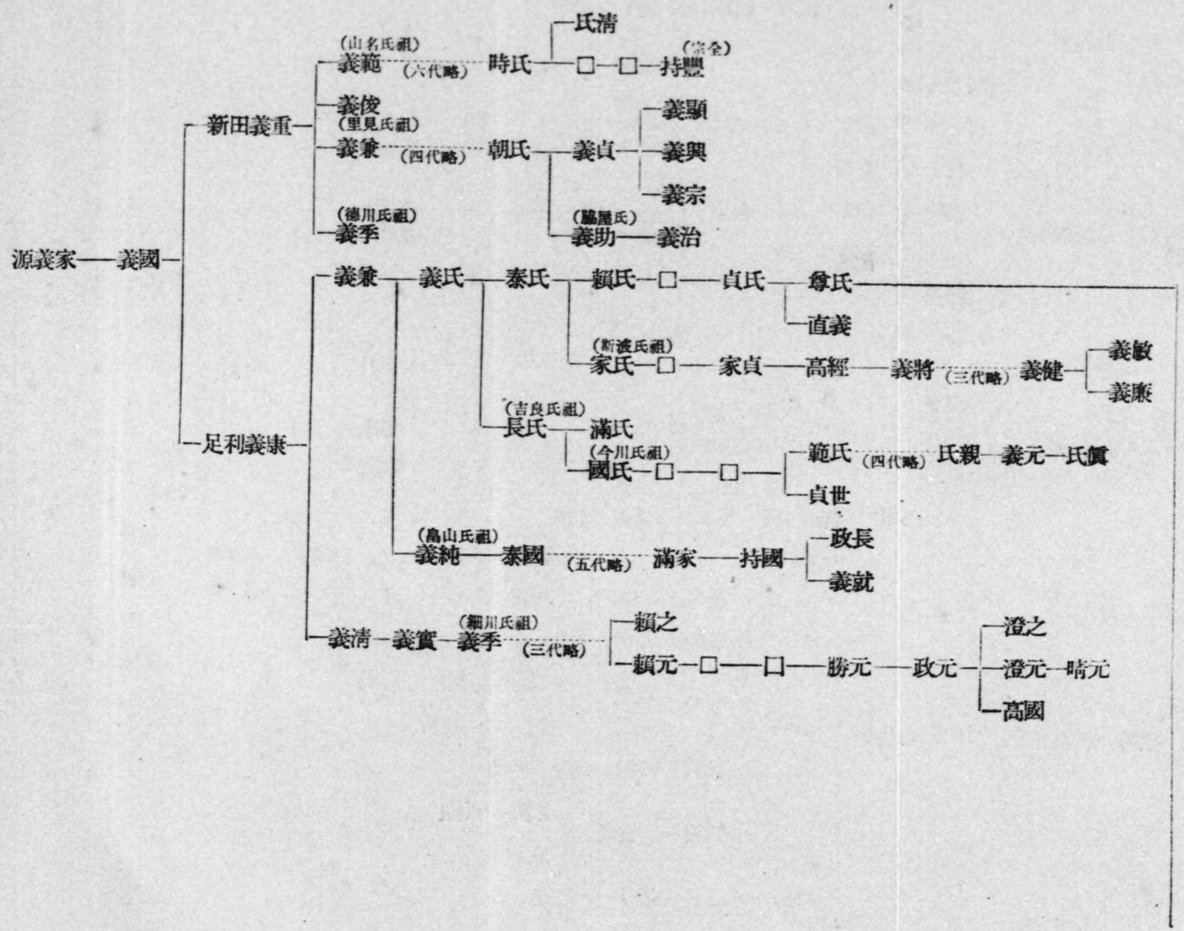


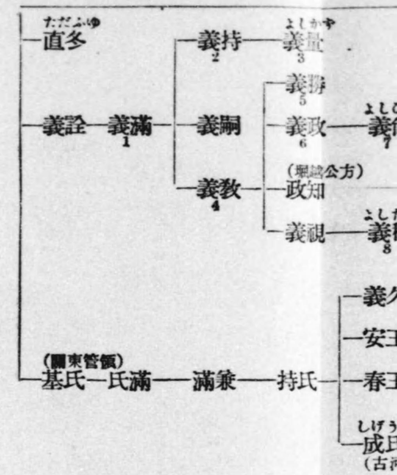
◇北　條　氏　（番號は執權の順序）



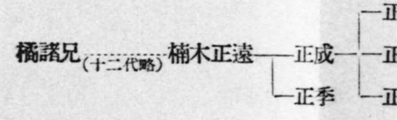


◇新田氏と足利氏　（番號は將軍の順序）

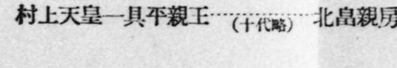




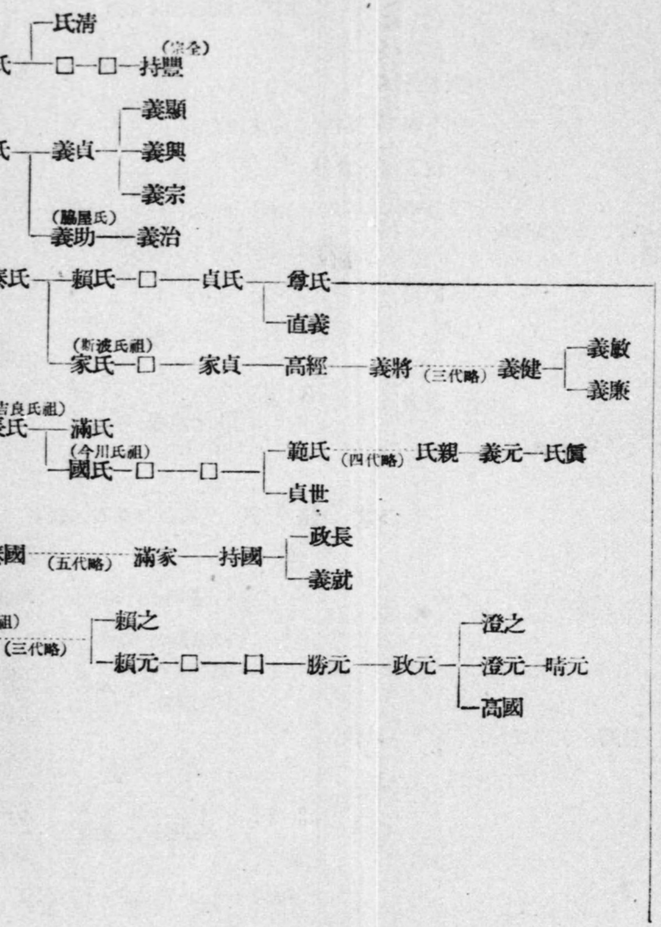
◇楠

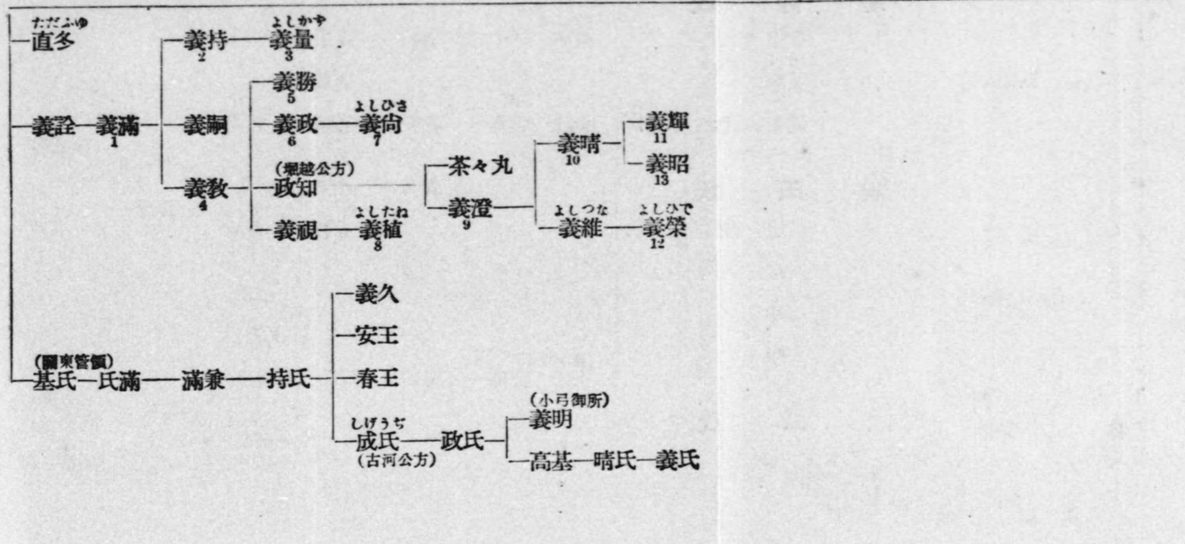


◇北

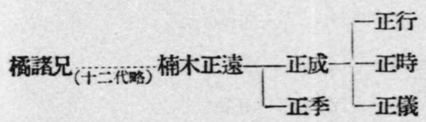


利氏（番號は將軍の順序）

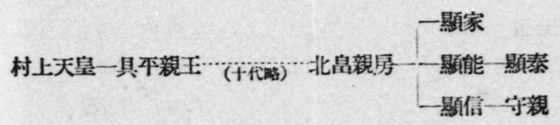




◇楠　木　氏



◇北　畠　氏



◇菊　池　氏

藤原隆家（十一代略）菊池武房―□―武時―武重
　　武敏
　　武光―武政―武朝

◇織　田　氏

平重盛―資盛（十六代略）織田信秀―信長―信忠―秀信（三法師丸）
　　信雄
　　信孝
　　秀勝

◇豐　臣　氏

女子――秀次
豐臣秀吉――秀頼
‖
北政所（高臺院）
木下家定――小早川秀秋

◇上　杉　氏

藤原多嗣―良門―高藤（十代略）上杉重房―頼重―重顯――朝定――顯定（扇谷）――氏定――持朝―□――□――定正
　　憲房（のりふさ）（山内）――憲顯――□――□――□――憲實―□――憲房―憲政―輝虎（謙信）―景勝
　　憲忠
　　房顯

昭和十一年十一月五日印刷
昭和十一年十一月十五日發行

著作權	受驗參考 國史の要領と答案の纏め方 定價金八十五錢	所有

著作者　山田武司

發行者　中村時之助
東京市牛込區辨天町一七四番地

印刷者　吉原良三
東京市牛込區早稻田鶴巻町一〇七

印刷所　株式會社康文社印刷所
東京市牛込區早稻田鶴巻町一〇七

發行所　中文館書店
東京市牛込區辨天町一七四番地
電話牛込三三二五番　振替東京三八四二七番

纏め方叢書

受験参考　國史の要領と答案の纏め方　定價85錢

受験参考　東洋史の要領と答案の纏め方　定價50錢

受験参考　國語解釋と答案の纏め方　定價1圓20錢

受験参考　漢文解釋と答案の纏め方　定價1圓20錢

理學士　平川仲五郎先生著

統一づけられたる代數學習と解法の正しき途

定價上卷1圓50錢　下卷1圓50錢

代數學習の本領は解式暗誦を脫し應用自在にどんな問題でも解き得るの實力を涵養するにある。從つてその參考書は理論に徹したるものであると同時にその理論の一步一步が學習者に十分透徹するやう懇切叮嚀にわかり易く說明せられ且つその理論の進め方が他の問題解法に適用し得られるやう。——而して亦あらゆる問題の解法が成るべく僅少の根抵事項と例題解法に統一づけられるやうに書かれたものたる事を要するのである。本書は實にこの趣旨に終始して書かれたものである。然も本書の著者は東京物理學校講師として理論に嚴正の學者であり，東京慈惠會醫科大學豫科教授として入試の實際と入學者の實力とを知り，また研修學會主宰として受驗者諸君の苦心と實情に十分の理解を持つ支援者である。蓋しこの最適任の學者によつて著されたる本書は代數學の一般學習者及入試準備者に絕對的良書として推奬す。

發　兌

東京牛込區辨天町一七四　中文館書店　振替東京二七三八四

323
538